

DENON[®]

AVR-X1100W

AV サラウンドレシーバー

取扱説明書

複数ページを 1 枚の用紙に印刷することができます。

[フロントパネル](#)[ディスプレイ](#)[リアパネル](#)[リモコン](#)[索引](#)

付属品	7	再生機器を接続する	42
乾電池の入れかた	8	DVD プレーヤーまたはブルーレイディスクプレーヤーを接続する	43
リモコンの使いかた	8	セットトップボックスを接続する(衛星放送チューナー/ケーブルテレビチューナー)	44
特長	9	ビデオカメラやゲーム機などを接続する	45
高音質	9	USB 端子に iPod または USB メモリーを接続する	46
多彩な機能	9	FM アンテナや AM ループアンテナを接続する	48
簡単操作	12	ホームネットワーク(LAN)に接続する	50
各部の名前	13	有線 LAN	50
フロントパネル	13	無線 LAN	51
ディスプレイ	16	電源コードを接続する	52
リアパネル	18		
リモコン	21		

接続のしかた

スピーカーを接続する	25
スピーカーを設置する	25
スピーカーを接続する	28
スピーカーの構成と“アンプの割り当て”の設定	31
テレビを接続する	38
接続 1:HDMI 端子付き/ARC 機能対応のテレビ	39
接続 2:HDMI 端子付き/ARC 機能非対応のテレビ	40
接続 3:HDMI 端子がないテレビ	41

再生のしかた

基本操作	54
電源を入れる	54
入力ソースを選ぶ	54
音量を調節する	55
一時的に音を消す(ミュート)	55
DVD プレーヤーやブルーレイディスクプレーヤーを再生する	55



iPod を再生する	56	インターネットラジオを聴く	77
iPod の音楽を聴く	57	インターネットラジオを聴く	78
iPod ブラウズモードの設定	58	前回再生していたインターネットラジオ局を再生する	79
リピート再生をする	60	vTuner でインターネットラジオ局をお気に入り登録する	80
ランダム再生をする	60	パソコンや NAS に保存されているファイルを再生する	81
USB メモリーを再生する	61	メディアの共有設定をおこなう	82
USB メモリーに保存されているファイルを再生する	62	パソコンや NAS に保存されているファイルを再生する	83
Bluetooth 機器の音楽を聴く	64	Flickr サイト上の写真を閲覧する	85
Bluetooth 機器とペアリングする	65	任意のユーザーが共有している写真を閲覧する	86
Bluetooth 機器の音楽を再生する	66	Flickr 上のすべての写真を閲覧する	88
ペアリングモードでペアリングする	68		
FM 放送または AM 放送を聴く	69		
FM 放送または AM 放送を聴く	70		
周波数を入力して受信する(ダイレクトチューニング)	71		
受信モードを変更する(チューニングモード)	72		
自動で放送局を選局しプリセットする(オートプリセット)	72		
聴いている放送局をプリセットする(プリセットに登録)	73		
プリセットした放送局を聴く	73		
プリセットした放送局に名前をつける(プリセットネーム)	74		
プリセットした放送局をスキップする(プリセットスキップ)	75		
プリセットスキップを解除する	76		



AirPlay 機能	89	サウンドモードを選ぶ	102
iPhone、iPod touch、iPad の曲を本機で再生する	90	サウンドモードを選ぶ	103
iTunes の曲を本機で再生する	90	ダイレクト再生	104
複数のスピーカー（機器）を選ぶ	91	オートサラウンド再生	104
本機のリモコンで iTunes の再生操作をおこなう	91	HDMI コントロール機能	113
便利な機能	92	設定のしかた	113
リピート再生をする	93	スリープタイマー機能	114
ランダム再生をする	93	スリープタイマーを設定する	115
お気に入りに登録する	94	クイックセレクトプラス機能	116
“お気に入りに登録”に登録したコンテンツを再生する	94	設定を呼び出す	117
お気に入りに登録したコンテンツを削除する	95	設定を変更する	118
キーワードでコンテンツを検索する（テキスト検索）	95	ウェブコントロール機能	119
音楽とお好みの写真を同時に再生する（スライドショー）	96	ウェブコントロール機能で本機をコントロールする	119
スライドショーの再生間隔を設定する	97	ゾーン 2（別の部屋）での再生	121
入力ソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する（チャンネルレベル調節）	98	ゾーン 2 の接続	121
トーンを調節する（トーンコントロール）	99	ゾーン 2 で再生する	122
音声の再生中にお好みの映像をモニターに映す（ビデオセレクト）	100		
すべてのゾーンで同じ音楽を再生する（オールゾーンステレオ）	101		



設定のしかた

メニュー 一覧	124
メニュー操作のしかた	127
文字入力について	128
キーボード画面で文字を入力する	129
オーディオ	130
ダイアログレベル	130
サブウーハーレベル	130
サラウンドパラメーター	131
リストアララー	135
オーディオディレイ	136
音量	136
バイリンガルモード	137
Audyssey	137
マニュアル EQ	140
ビデオ	142
HDMI 設定	142
オンスクリーンディスプレイ	145
TV フォーマット	146

入力ソース	147
入力端子の割り当て	147
入力ソース名の変更	149
使用ソースの選択	149
ソースレベル	149
オーディオ入力端子の選択	150
スピーカー	151
Audyssey®セットアップ	151
スピーカー設定の流れ (Audyssey®セットアップ)	153
エラーメッセージについて	159
Audyssey®セットアップの設定値に戻すとき	160
マニュアルセットアップ	161
アンプの割り当て	161
スピーカーの構成	162
距離	164
レベル	165
クロスオーバー周波数	166
低音	167
フロントスピーカー	168



ネットワーク	169
情報	169
接続	169
Wi-Fi 設定	170
詳細な設定	172
IP コントロール	173
フレンドリーネームの編集	174
診断	174
一般	175
言語	175
エコ設定	175
ゾーン 2 の設定	177
ゾーン名の変更	178
クイックセレクト名の変更	178
フロントディスプレイ	178
情報	179
使用状況の送信設定	180
ファームウェア	181
セットアップロック	183

困ったときは

こんなときの解決方法	185
故障かな?と思ったら	187
お買い上げ時の設定に戻す	204
保証と修理について	205

付録

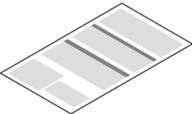
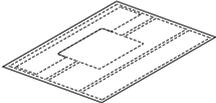
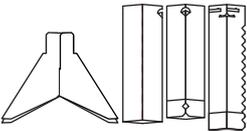
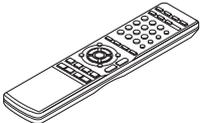
HDMI について	207
USB メモリーの再生について	210
Bluetooth 機器の再生について	211
パソコンや NAS に保存されているファイルの再生について	212
インターネットラジオの再生について	213
パーソナルメモリープラス機能	213
ラストファンクションメモリー	213
サウンドモードとチャンネル出力の関係	214
サウンドモードとパラメーター一覧表	215
入力信号の種類と対応するサウンドモード	218
用語の解説	221
登録商標について	232
主な仕様	234
索引	239



お買い上げいただきありがとうございます。
本機をご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに大切に保管してください。

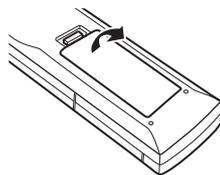
付属品

ご使用になる前にご確認ください。

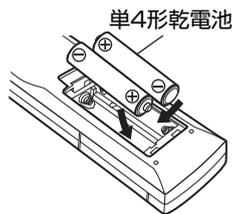
 <p>かんたんスタートガイド</p>	 <p>CD-ROM (取扱説明書)</p>	 <p>安全にお使いいただくために</p>	 <p>電波に関するご注意</p>	 <p>保証書</p>
 <p>製品のご相談と 修理・サービス窓口のご案内</p>	 <p>ケーブルラベル</p>	 <p>FM 室内アンテナ</p>	 <p>AM ループアンテナ</p>	 <p>セットアップマイク (ACM1HB)</p>
 <p>マイクスタンド</p>	 <p>リモコン (RC-1189)</p>	 <p>単 4 形乾電池(2 本)</p>		

乾電池の入れかた

- 1 裏ぶたを矢印の方向へ押し上げて取り外す。



- 2 乾電池(2本)を乾電池収納部の表示に合わせて正しく入れる。



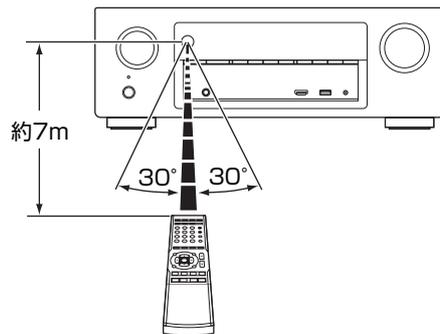
- 3 裏ぶたを元どおりにする。

ご注意

- 破損・液漏れの恐れがありますので、
 - 新しい乾電池と使用済みの乾電池を混ぜて使用しないでください。
 - 違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
- リモコンを長期間使用しないときは、乾電池を取り出してください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。

リモコンの使いかた

リモコンはリモコン受光部に向けて使用してください。



特長

高音質

- ディスクリート回路構成による全7チャンネル同一クオリティのパワーアンプ搭載(120W×7チャンネル)
本機には、オリジナル音源を忠実に再生するために、全チャンネルに同一のクオリティと同一のパワーを持つパワーアンプを搭載しています。
パワーアンプ回路には、ディスクリート回路構成を採用することによって、高品位な再生を実現しています。

多彩な機能

- 4K 60Hz 入出力対応



4K Ultra HD (High Definition)で、1秒間に60フレーム分の映像信号(60p)の入出力を実現しました。4K Ultra HD、60p映像入力信号に対応したテレビと接続することで、動きの速い映像も滑らかに、高精細画質によって得られる臨場感のある映像を楽しめます。
そして、本機は4K 60p、4:4:4、24bitの映像処理に対応しています。元の解像度のまま映像処理をおこなうことで、画質を損なうことなく、そのまま高精細な画質を楽しめます。



- さまざまなデジタル AV 機器を接続できる HDMI 端子を装備 (入力:6 系統、出力:1 系統)



本機には 6 系統の HDMI 入力端子と 1 系統の HDMI 出力端子を装備しており、ブルーレイディスクプレーヤー、ゲーム、HD ビデオカメラ、HD テレビなどのさまざまな HDMI 端子付き機器との接続ができます。

- インターネットラジオなどのネットワーク機能に加え、AirPlay[®]機能を搭載 (P.89 ページ)



インターネットラジオを聴いたり、パソコンに保存している音楽ファイルを再生したり、テレビに写真を映したりするなど、さまざまな再生をお楽しみいただけます。

また、本機は AirPlay 機能も搭載していますので、ネットワークを通して iPhone[®] や iPad[®]、iPod touch[®]、iTunes[®]の音楽を本機で再生できます。

- USB とネットワーク経由による DSD と FLAC ファイルの再生
高解像度のオーディオフォーマットである DSD (2.8MHz) や FLAC 192kHz ファイルの再生に対応しています。高解像度ファイルの高音質再生を実現しています。



- Bluetooth 機器と簡単にワイヤレス接続が可能
([P.64 ページ](#))



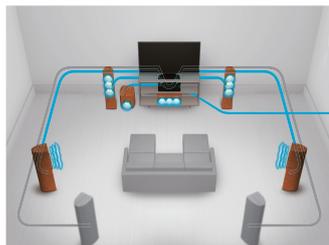
お手持ちのスマートフォン、タブレット、パソコンなどとワイヤレス接続することで、簡単に音楽を楽しめます。

- iPad、iPhone や Android™ 機器(Google、Amazon Kindle Fire)で本機の基本的な操作がおこなえる“Denon Remote App(デノン・リモート・アプリ)”* に対応
“Denon Remote App” は、iPad、iPhone、Android スマートフォンや Android タブレットで本機の電源のオン/ オフや音量調節、入力ソースの切り替えなどの基本操作がおこなえるアプリケーションソフトです。
* “Denon Remote App” を iOS や Android 機器からダウンロードしてください(無料)。本機を LAN 接続し、iPhone や iPod touch を同じネットワーク上にある Wi-Fi(無線 LAN)にて接続する必要があります。

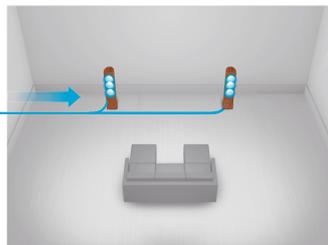


- マルチルームでの音声再生に対応(※101 ページ)

【メインゾーン】



【ゾーン 2】



メインゾーンとゾーン 2 でそれぞれの入力を選択して再生できます。

また、オールゾーンステレオ機能を使用すると、メインゾーンで再生中の音楽を同時にすべてのゾーンで楽しむことができます。家全体で BGM を流したいときに便利です。

• 省エネ設計

本機は使用中の消費電力を低減しながら、映画や音楽を楽しむことができるエコモード機能、および未使用時に自動的に電源をオフするオートスタンバイ機能を搭載しています。不要な電力の節約ができます。

簡単操作

- 基本的な設定が簡単にできる“セットアップアシスタント”メニュー
テレビ画面に表示する操作ガイドに沿って、誰でも簡単にスピーカーの接続やネットワークの設定など基本的な設定がおこなえます。
- 操作性に優れたグラフィカル・ユーザー・インターフェース
本機には、“グラフィカル・ユーザー・インターフェース”を搭載し、操作性を向上させています。

ステレオ音のエチケット



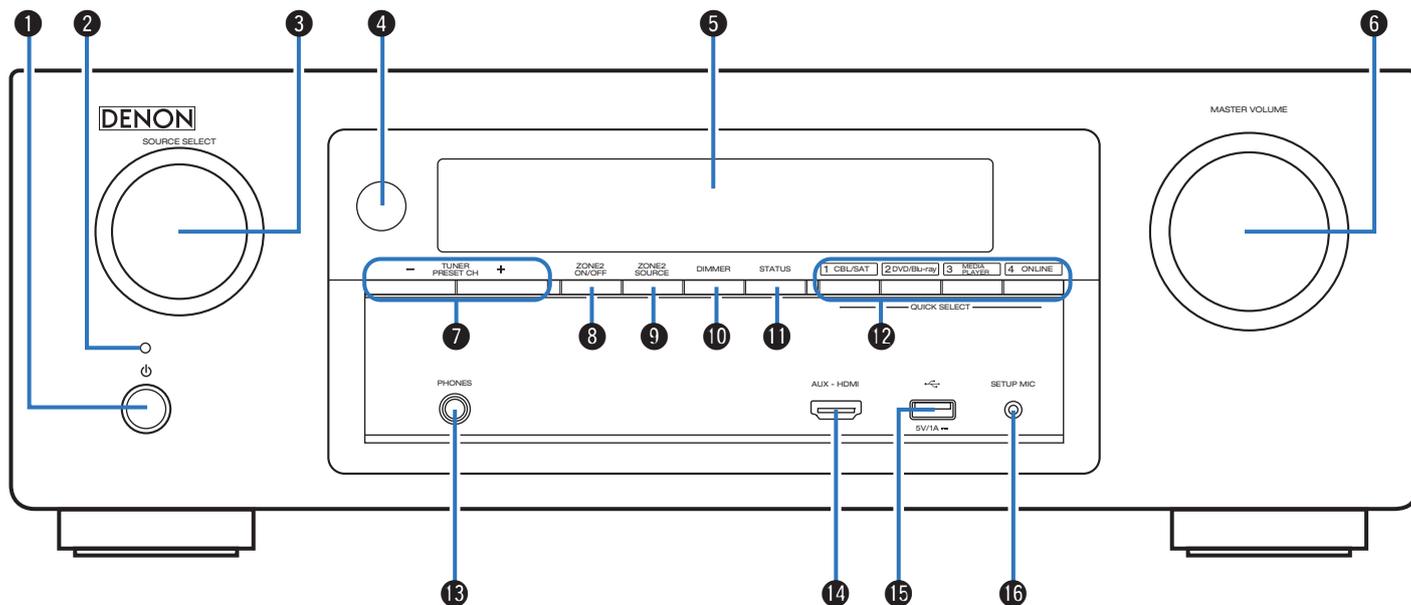
音のエチケット

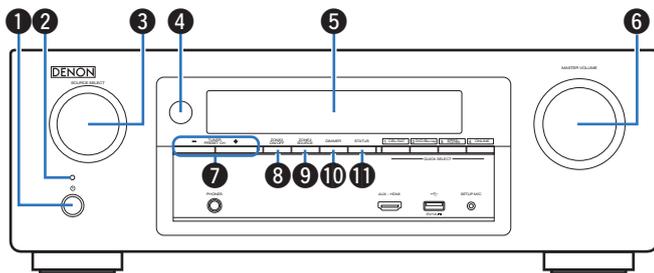
- 隣近所への配慮(おもいやり)を十分にいたしましょう。
- 特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。



各部の名前

フロントパネル





① 電源ボタン (⏻)

メインゾーン(本機のある部屋)の電源をオン/オフ(スタンバイ)します。(☞54 ページ)

② 電源表示

電源の状態によって、次のように点灯します。

- ・ 緑色: 電源オン時
- ・ 消灯: 通常のスタンバイ時
- ・ 赤色:
 - ・ “HDMI パススルー”(☞142 ページ)の設定が “オン” のとき
 - ・ “HDMI コントロール”(☞143 ページ)の設定が “オン” のとき
 - ・ “IP コントロール”(☞173 ページ)の設定が “常時オン” のとき

③ 入力ソース選択つまみ (SOURCE SELECT)

入力ソースを選択します。(☞54 ページ)

④ リモコン受光部

リモコンからの信号を受信します。(☞8 ページ)

⑤ ディスプレイ

各種情報を表示します。(☞16 ページ)

⑥ 音量調節つまみ (MASTER VOLUME)

音量を調節します。(☞55 ページ)

⑦ チューナープリセットチャンネルボタン (TUNER PRESET CH +, -)

プリセットした放送局を選択します。(☞73 ページ)

⑧ ゾーン 2 用電源ボタン (ZONE2 ON/OFF)

ゾーン 2(別の部屋)の電源をオン/オフします。(☞122 ページ)

⑨ ゾーン 2 用入力ソース選択ボタン (ZONE2 SOURCE)

ゾーン 2 の入力ソースを選択します。(☞122 ページ)

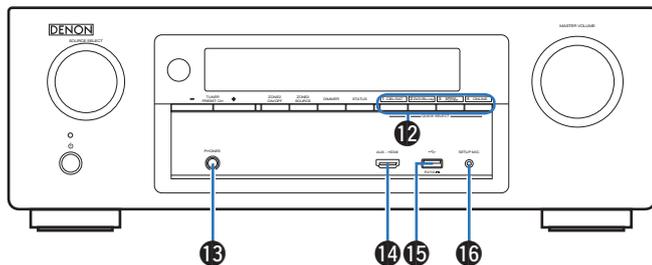
⑩ ディマーボタン (DIMMER)

ディスプレイの明るさを切り替えます。(☞178 ページ)

⑪ ステータスボタン (STATUS)

ボタンを押すたびにステータス情報を切り替えて、ディスプレイに表示します。(☞58 ページ)





12 クイックセレクトボタン (QUICK SELECT)

それぞれのボタンに登録している入力ソース、音量およびサウンドモードなどの複数の設定をワンタッチで呼び出します。
([P.116](#) ページ)

13 ヘッドホン端子 (PHONES)

ヘッドホンを接続します。
ヘッドホンのプラグを差し込むと、スピーカーおよびサブウーハー端子から音が出なくなります。

ご注意

ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。

14 AUX-HDMI 端子

HDMI 出力対応のビデオカメラやゲーム機を接続します。
([P.45](#) ページ)

15 USB 端子

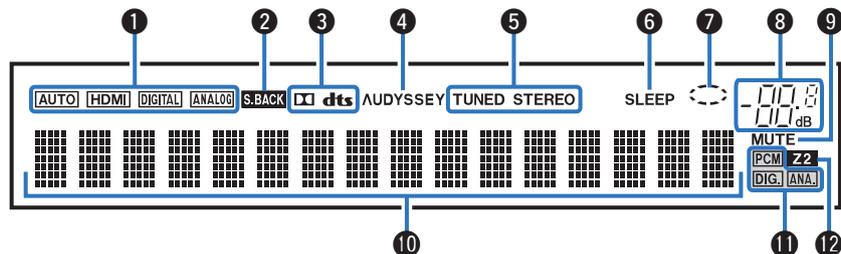
USB ストレージ (USB メモリーなど) や iPod に付属の USB ケーブルを接続します。
([P.46](#) ページ)

16 セットアップマイク端子 (SETUP MIC)

付属のセットアップマイクを接続します。
([P.154](#) ページ)



ディスプレイ



① 入力モード表示

各入力ソースの音声入力モードの設定により点灯します。
([☞ 150 ページ](#))

② サラウンドバック表示

サラウンドバックスピーカーから音声が出力されているときに点灯します。
([☞ 163 ページ](#))

③ デコーダー表示

Dolby または DTS 信号が入力されているとき、または Dolby または DTS デコーダーが動作しているときに点灯します。

④ Audyssey®表示

“MultEQ® XT”、“Dynamic EQ” または “Dynamic Volume” が設定されているときに点灯します。
([☞ 138～139 ページ](#))

⑤ チューナー受信モード表示

入力ソースが “Tuner” のとき、放送局の受信状態により点灯します。

TUNED: 放送局を受信したときに点灯します。

STEREO: FM ステレオ放送を受信したときに点灯します。

⑥ スリープタイマー表示

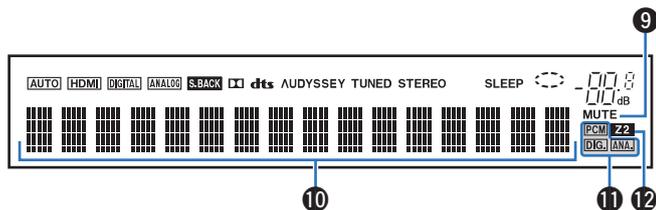
スリープタイマーを設定しているときに点灯します。
([☞ 115 ページ](#))

⑦ サークル表示

入力ソースが “Online Music” または “iPod/USB” で音楽を再生中に点灯します。

⑧ 音量表示



**9 ミュート表示**

消音中に点滅します。(☞ 55 ページ)

10 インフォメーションディスプレイ

入力ソース名、サウンドモード、設定値などを表示します。

11 入力信号表示

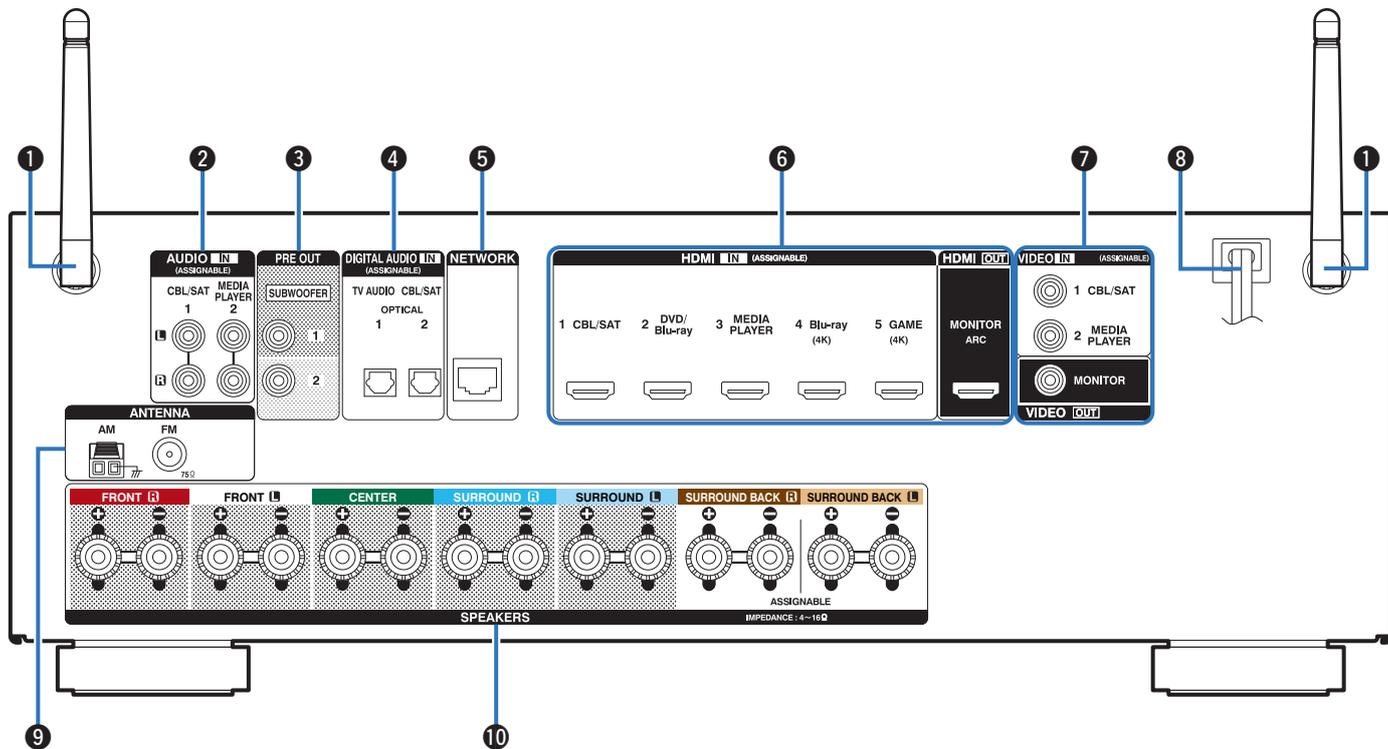
入力信号によって点灯します。(☞ 150 ページ)

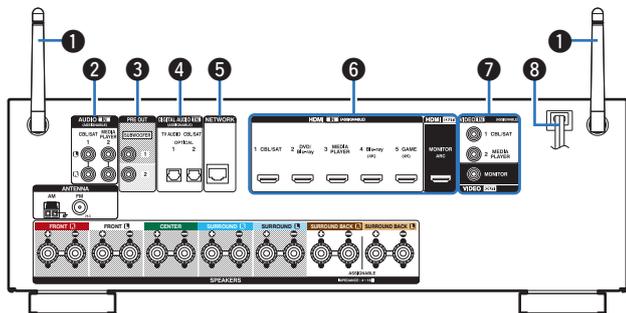
12 ゾーン 2 表示

ゾーン 2 (別の部屋) の電源が入っているときに点灯します。
(☞ 122 ページ)



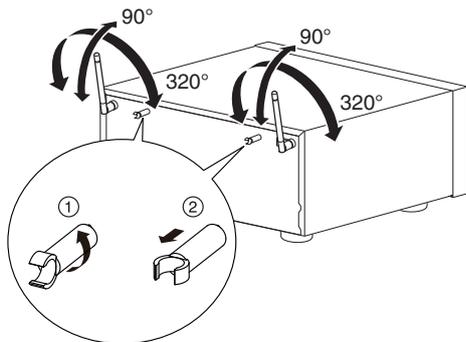
リアパネル





① Bluetooth/無線 LAN 用ロッドアンテナ

Bluetooth でお手持ちの機器と接続する場合、または無線 LAN でネットワークに接続する場合は、このアンテナを立ててご使用ください。(☞ 51 ページ)



リアパネルから、アンテナクリップを外すことができます。

① アンテナクリップを左へ 90 度回す。

② アンテナクリップを手前に引き抜く。

- アンテナクリップは、輸送時に必要です。大切に保管してください。
- アンテナクリップの取り付けは、外しかたと逆の手順でおこなってください。

② アナログオーディオ端子 (AUDIO)

アナログオーディオ端子付きの機器を接続します。

(☞ 43、44 ページ)

③ プリアウト端子 (PRE OUT)

アンプ内蔵のサブウーハーを接続します。(☞ 29 ページ)

④ デジタルオーディオ端子 (DIGITAL AUDIO)

デジタルオーディオ端子付きの機器を接続します。

(☞ 40、44 ページ)

⑤ ネットワーク端子 (NETWORK)

有線 LAN でネットワークに接続する際に LAN ケーブルを接続します。(☞ 50 ページ)

⑥ HDMI 端子

HDMI 端子付きの機器を接続します。

(☞ 39、40、43、44 ページ)

⑦ ビデオ端子 (VIDEO)

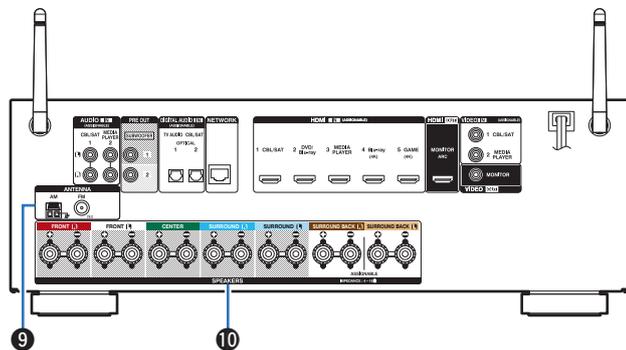
ビデオ端子付きの機器を接続します。

(☞ 43、44 ページ)

⑧ 電源コード

(☞ 52 ページ)





9 FM/AM アンテナ端子 (ANTENNA)

FM アンテナまたは AM ループアンテナを接続します。
([参照](#) 48 ページ)

10 スピーカー端子 (SPEAKERS)

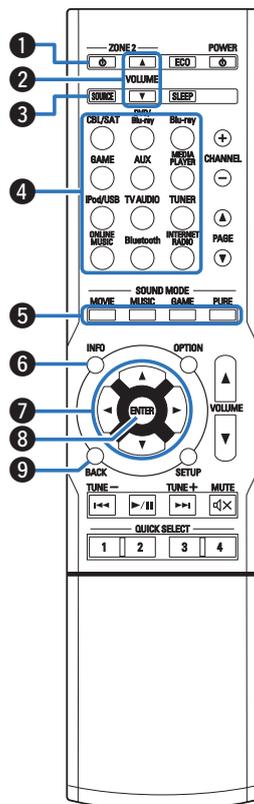
スピーカーを接続します。([参照](#) 28 ページ)

ご注意

端子内部のピンには絶対に触れないでください。静電気により、故障の原因になることがあります。

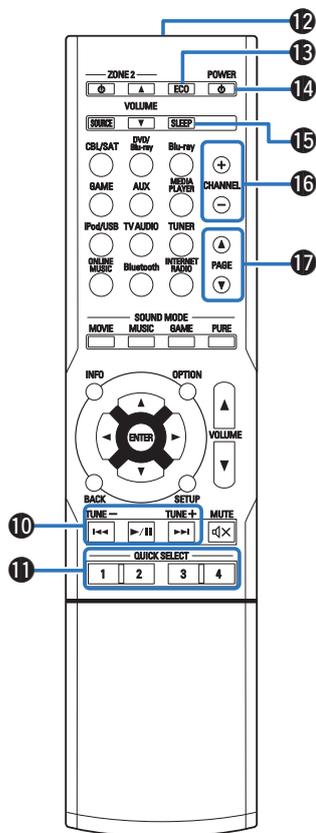


リモコン



- ① **ゾーン 2 用電源ボタン(ZONE2 ❶)**
ゾーン 2 (別の部屋) の電源をオン/オフします。(☞ [122 ページ](#))
- ② **ゾーン 2 用音量ボタン(ZONE2 ▲▼)**
ゾーン 2 の音量を調節します。(☞ [123 ページ](#))
- ③ **ゾーン 2 用入力ソース選択ボタン**
ゾーン 2 の入力ソースを選択します。(☞ [122 ページ](#))
- ④ **入力ソース選択ボタン**
入力ソースを選択します。(☞ [54, 122 ページ](#))
- ⑤ **サウンドモードボタン(SOUND MODE)**
サウンドモードを選択します。(☞ [102 ページ](#))
 - ムービーボタン (MOVIE)
 - ミュージックボタン (MUSIC)
 - ゲームボタン (GAME)
 - ピュアボタン (PURE)
- ⑥ **インフォメーションボタン (INFO)**
ステータス情報をテレビ画面に表示します。(☞ [180 ページ](#))
- ⑦ **カーソルボタン (▲▼◀▶)**
項目を選択します。(☞ [127 ページ](#))
- ⑧ **エンターボタン (ENTER)**
選択した内容を確定します。(☞ [127 ページ](#))
- ⑨ **バックボタン (BACK)**
ひとつ前の画面に戻ります。(☞ [127 ページ](#))





⑩ システムボタン

再生に関する操作をします。(☞58 ページ)

- スキップボタン (◀◀, ▶▶)
- プレイ/ポーズボタン (▶/||)

選局ボタン (TUNE +, -)

FM 放送局または AM 放送局を選択します。(☞70 ページ)

⑪ クイックセレクトボタン (QUICK SELECT 1~4)

それぞれのボタンに登録している入力ソース、音量およびサウンドモードなどの複数の設定をワンタッチで呼び出します。(☞116 ページ)

⑫ リモコン信号送信窓

リモコンの信号を送信します。(☞8 ページ)

⑬ エコモードボタン (ECO)

エコモードを切り替えます。(☞175 ページ)

⑭ 電源ボタン (POWER ⏻)

電源をオン/オフします。(☞54、122 ページ)

⑮ スリープタイマーボタン (SLEEP)

スリープタイマーを設定します。(☞114 ページ)

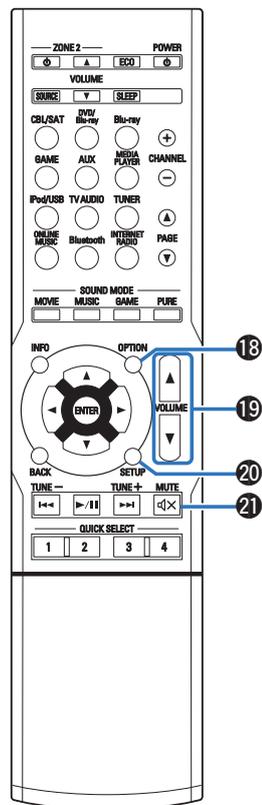
⑯ チャンネル選択ボタン (CHANNEL +, -)

プリセット登録した放送局を選択します。(☞73 ページ)

⑰ ページ切り替えボタン (PAGE ▲▼)

ページを切り替えます。(☞58 ページ)





18 オプションボタン (OPTION)

テレビ画面にオプションメニューを表示します。
([P.92](#) ページ)

19 音量調節ボタン (▲▼)

音量を調節します。([P.55](#)、[P.123](#) ページ)

20 セットアップボタン (SETUP)

テレビ画面に設定メニューを表示します。([P.127](#) ページ)

21 ミュートボタン (MUTE \times)

消音します。([P.55](#) ページ)



■ 目次

スピーカーを接続する	25
テレビを接続する	38
再生機器を接続する	42
USB 端子に iPod または USB メモリーを接続する	46
FM アンテナや AM ループアンテナを接続する	48
ホームネットワーク (LAN) に接続する	50
電源コードを接続する	52

ご注意

- すべての接続が終わるまで電源プラグをコンセントに差し込まないでください。ただし、“セットアップアシスタント” (別冊の“かんたんスタートガイド”の8ページ)メニューを操作中は“セットアップアシスタント”メニューの指示に従って接続してください。(“セットアップアシスタント”メニューを操作中、入出力端子は通電しません。)
- 接続ケーブルは、電源コードと一緒に束ねないでください。雑音の原因となることがあります。

■ 接続に使用するケーブル

接続する機器に合わせて、必要なケーブルを準備してください。

スピーカーケーブル	
サブウーハーケーブル	
HDMI ケーブル	
ビデオケーブル	
光伝送ケーブル	
オーディオケーブル	
LAN ケーブル	

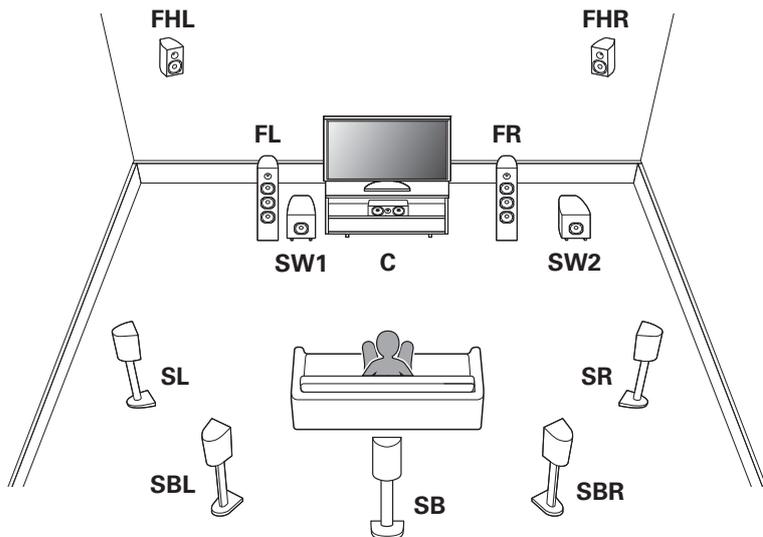


スピーカーを接続する

スピーカーを設置し、本機にスピーカーを接続します。(P.25、28 ページ)

スピーカーを設置する

ご使用になるスピーカーの本数に応じてスピーカーシステムを決定し、各スピーカーおよびサブウーハーを部屋に設置します。例として、代表的な設置方法を説明します。



FL/FR(フロントスピーカー左/右):

フロント左右スピーカーは視聴位置から前方の等距離に設置します。各スピーカーとテレビの間の距離は同じにしてください。

C(センタースピーカー):

センタースピーカーはフロント左右スピーカーおよびテレビの中間に設置します。

SL/SR(サラウンドスピーカー左/右):

サラウンド左右スピーカーは視聴位置から左右の等距離に設置します。サラウンドバックスピーカーをお持ちでない場合は、斜め後方に設置してください。

SBL/SBR(サラウンドバックスピーカー左/右):

サラウンドバック左右スピーカーは視聴位置から後方の等距離に設置します。サラウンドバックスピーカーを1台使用する場合(SB)は、リスニングポイントの真後ろに設置してください。

FHL/FHR(フロントハイトスピーカー左/右):

フロントハイト左右スピーカーはできるだけ天井に近い高さのフロントスピーカーの外側に設置します。また、リスニングポイントを向くように設置してください。

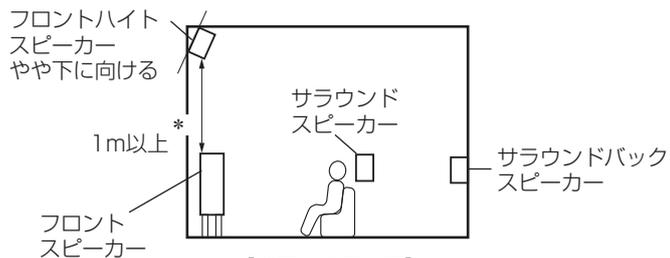
SW 1/2(サブウーハー):

サブウーハーは、フロントスピーカーの近くの設置可能な場所に設置します。





- 本機は、サラウンド空間により一層の広がりや奥行きを表現する Dolby Pro Logic IIz (P.223 ページ)に対応しています。
Dolby Pro Logic IIz を使用する場合は、フロントハイトスピーカーを設置してください。
- 各スピーカーを設置する高さは、次のイラストを目安にしてください。
ただし、正確に合わせる必要はありません。

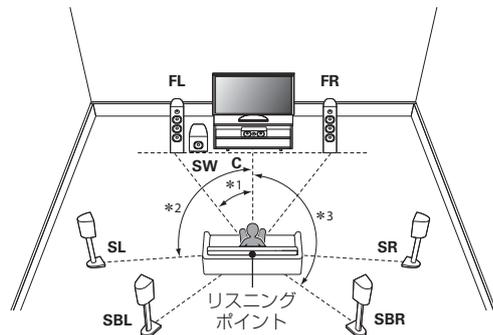


【側面から見た図】

* Dolby Pro Logic IIz 推奨



■ サラウンドバックスピーカーを使用して7.1チャンネルのスピーカーを設置するとき

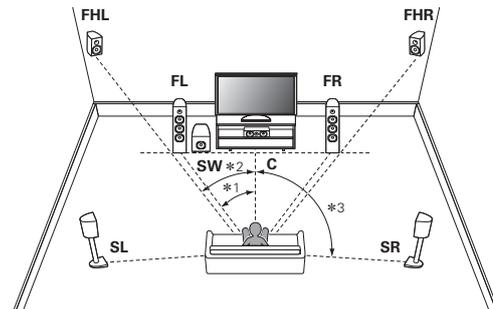


*1:22° ~30° *2:90° ~110° *3:135° ~150°



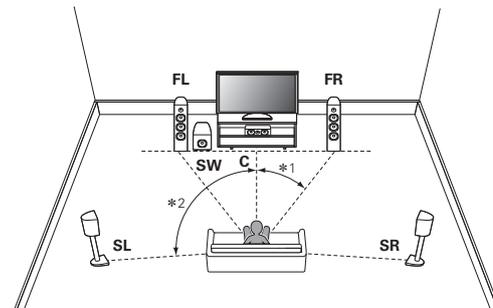
サラウンドバックスピーカーを1本のみ使用する場合は、サラウンドバックスピーカーをリスニングポイントの真後ろに設置してください。

■ フロントハイトスピーカーを使用して7.1チャンネルのスピーカーを設置するとき



*1:22° ~30° *2:22° ~45° *3:90° ~110°

■ 5.1チャンネルのスピーカーを設置するとき



*1:22° ~30° *2:120°



スピーカーを接続する

部屋に設置したスピーカーを本機に接続します。
ここでは例として、代表的な接続方法を説明します。

ご注意

- スピーカーを接続する前に、本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。また、サブウーハーの電源を切ってください。
- スピーカーケーブルの芯線が、スピーカー端子からはみ出さないように接続してください。芯線がリアパネルやねじに接触したり、+側と-側が接触したりすると、保護回路が動作します。(「保護回路」(P.231 ページ))
- 通電中は、絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。ただし、“セットアップアシスタント”(別冊の“かんたんスタートガイド”の8ページ)メニューを操作中は“セットアップアシスタント”メニューの指示に従って接続してください。(“セットアップアシスタント”メニューを操作中、スピーカー端子は通電しません。)
- スピーカーはインピーダンスが4~16Ωのものを使用してください。

ご注意

- インピーダンスが4~6Ωのスピーカーをご使用になる場合は、次の設定をおこなってください。
 1. 本機の電源が入っているときに、本体の ZONE2 SOURCE と STATUS を同時に3秒以上長押しする。
ディスプレイに“V.Format:< NTSC>”を表示します。
 2. 本体の DIMMER を2回押す。
ディスプレイに“Sp.Imp.:<8ohms>”を表示します。
 3. 本体の TUNER PRESET CH +または TUNER PRESET CH - を押して、インピーダンスを選ぶ。

6 Ω: 接続したスピーカーのインピーダンスが1台でも6Ω~8Ωの場合に選択します。

4 Ω: 接続したスピーカーのインピーダンスが1台でも4Ω~8Ωの場合に選択します。

 4. 本体の STATUS を押して、設定を終了する。



■ スピーカーケーブルを接続する

本機と接続するスピーカの左チャンネル(L)、右チャンネル(R)、+(赤)、-(黒)をよく確認して、同じ極性を接続してください。

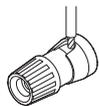
- 1 スピーカーケーブル先端の被覆を 10mm 程度はがし、芯線をしっかりよじるか、端末処理をおこなう。



- 2 スピーカー端子を左に回してゆるめる。



- 3 スピーカーケーブルの芯線をスピーカ端子の根元に差し込む。

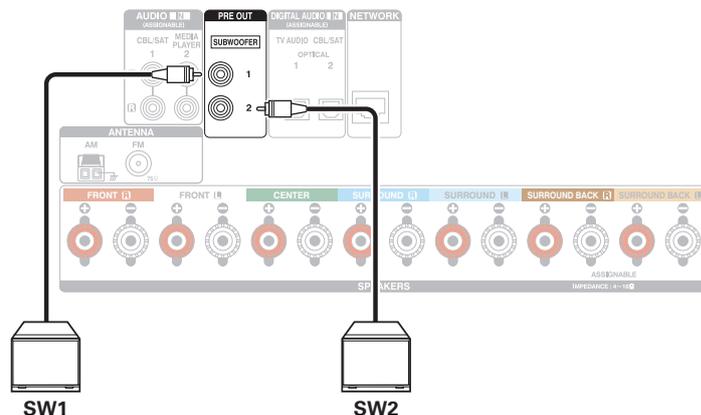


- 4 スピーカー端子を右に回して締める。



■ サブウーハーを接続する

サブウーハーケーブルを使用して、サブウーハーと接続します。本機にはサブウーハーを 2 台接続できます。それぞれのサブウーハー端子からは、同じ信号を出力します。



■ チャンネル識別のためのスピーカーケーブルラベル (付属)について

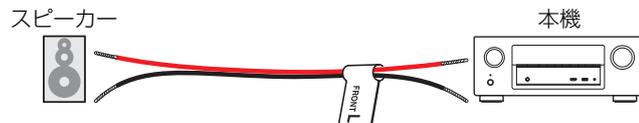
本機のスピーカー端子は、識別できるように色分けしています。

スピーカー端子	カラー
FRONT L	白
FRONT R	赤
CENTER	緑
SURROUND L	水色
SURROUND R	青
SURROUND BACK L	ベージュ
SURROUND BACK R	茶色
SUBWOOFER	黒色

付属のケーブルラベルもパネルに合わせて色分けしています。上表を参照して、各スピーカーケーブルに貼り付けてください。

ラベルと同じ色のスピーカー端子にケーブルを接続することでスピーカーの接続が容易になります。

【スピーカーケーブルラベルの貼りかた】



スピーカーの構成と“アンプの割り当て”の設定

本機は 7 チャンネルのパワーアンプを内蔵しています。基本となる 5.1 チャンネルシステムのほかに、“アンプの割り当て”(P.161 ページ)の設定を変更することで、7.1 チャンネルシステム、バイアンプ接続、マルチゾーン再生用の 2 チャンネルシステムなど、さまざまなスピーカーシステムを構築できます。

設置するスピーカー構成や部屋の数に合わせて、“アンプの割り当て”(P.161 ページ)の設定をおこなってください。

各ゾーンで再生するスピーカー		“アンプの割り当て”の設定	接続のページ
メインゾーン	ゾーン 2		
5.1 チャンネル	使用しない	サラウンドバック(お買い上げ時の設定)	32
7.1 チャンネル(サラウンドバック)	使用しない	サラウンドバック(お買い上げ時の設定)	33
7.1 チャンネル(フロントハイト)	使用しない	フロントハイト	34
5.1 チャンネル(フロントスピーカーのバイアンプ接続)	使用しない	Bi-Amp	35
5.1 チャンネル+2 台目のフロントスピーカー	使用しない	Front B	36
5.1 チャンネル	2 チャンネル	ZONE2	37



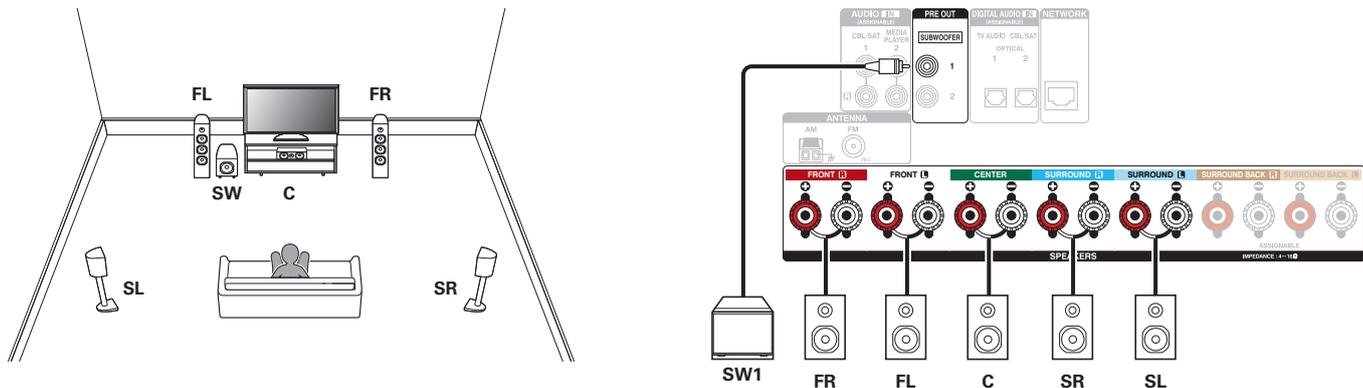
スピーカー構成によって、選択できるサウンドモードが異なります。対応しているサウンドモードについては、「サウンドモードとチャンネル出力の関係」(P.214 ページ)をご覧ください。



■ 標準的な構成と接続

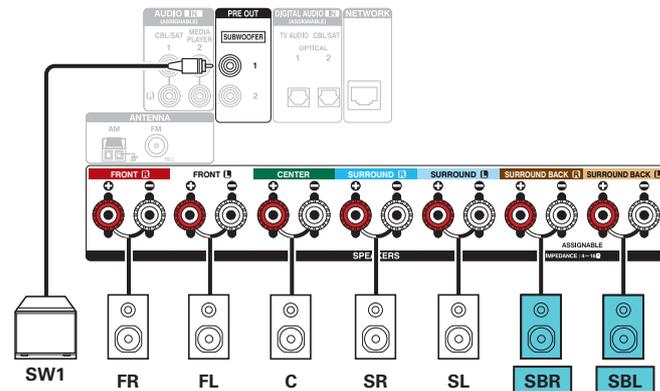
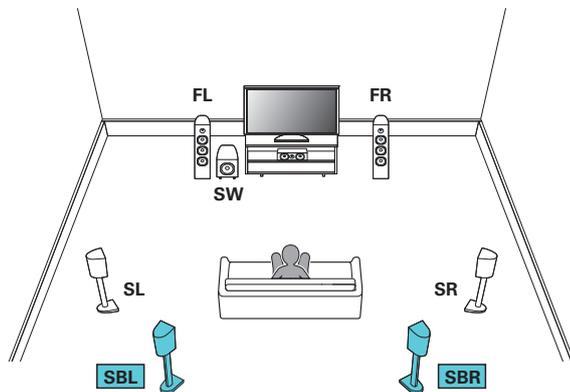
□ 5.1 チャンネル

サラウンドの基本となる 5.1 チャンネルのシステムです。
対応しているサウンドモードの代表として、Dolby Pro Logic II があります。



□ 7.1 チャンネル(サラウンドバック)

基本となる 5.1 チャンネルのシステムに、サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネルのサラウンドシステムです。対応しているサウンドモードの代表として、Dolby Pro Logic IIx があります。

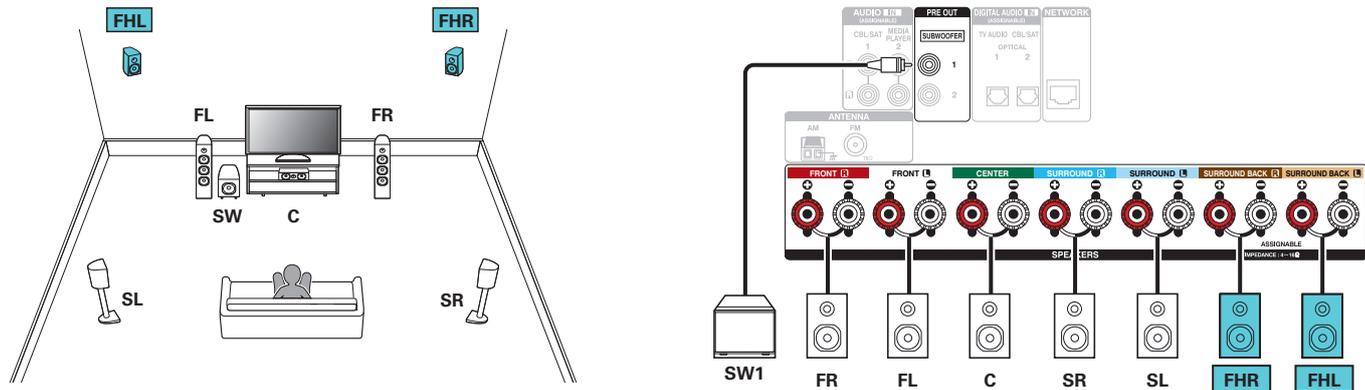


サラウンドバックスピーカーを 1 本だけ使用する場合は、SURROUND BACK の L 端子に接続してください。



□ 7.1 チャンネル(フロントハイト)

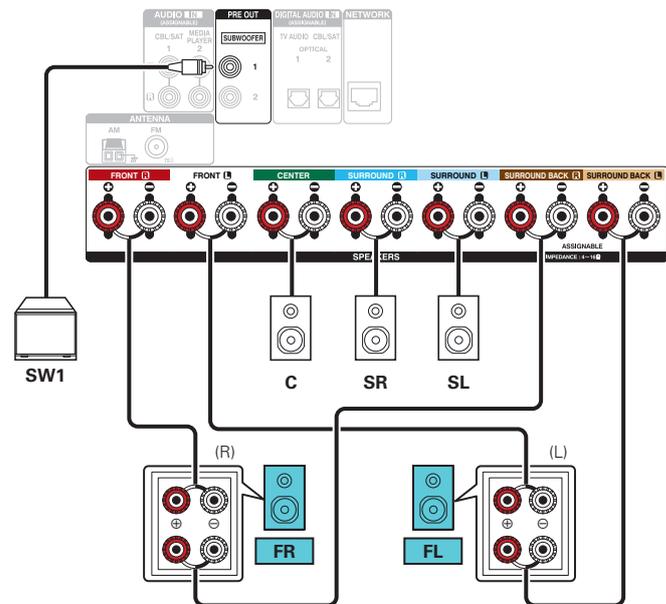
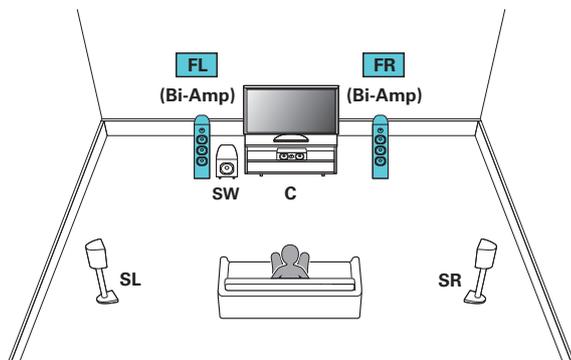
基本となる 5.1 チャンネルのシステムに、フロントハイトスピーカーを使用した 7.1 チャンネルのサラウンドシステムです。対応しているサウンドモードの代表として、Dolby Pro Logic IIz があります。



■ 応用的な構成と接続

□ 5.1 チャンネル(フロントスピーカーのバイアンプ接続)

バイアンプ対応スピーカーのツイーター用端子とウーハー用端子に、別々のアンプを接続する方法です。これによりウーハーの逆起電力(出力されずに戻ってくる電力)がツイーターに流れ込んでツイーターの音質に影響を及ぼすことがないため、より高音質な再生をお楽しみいただくことができます。



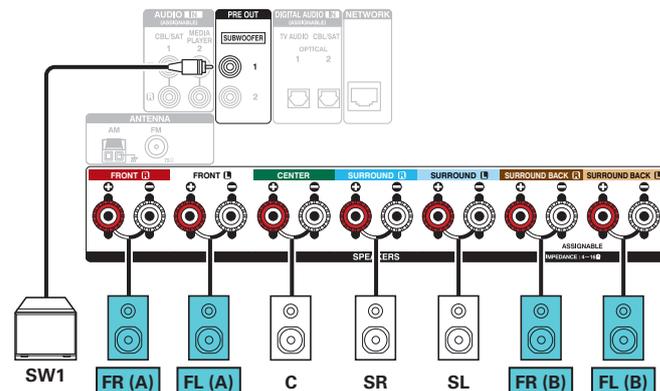
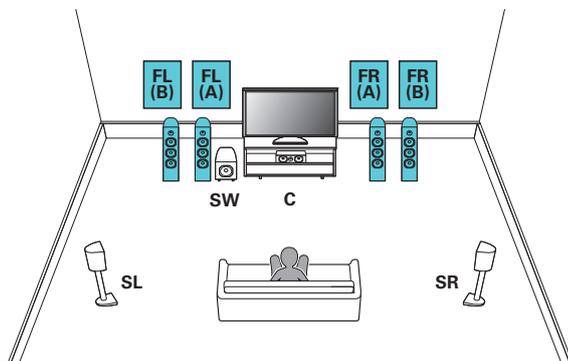
ご注意

バイアンプ接続をおこなう場合は、スピーカーのウーハー端子とツイーター端子を接続している短絡板または短絡用ワイヤーを必ず外してください。



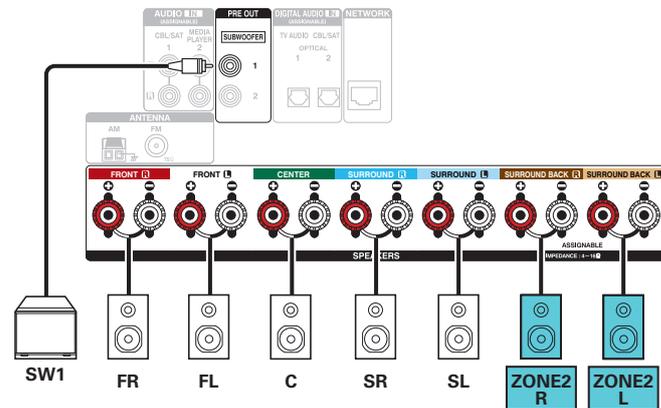
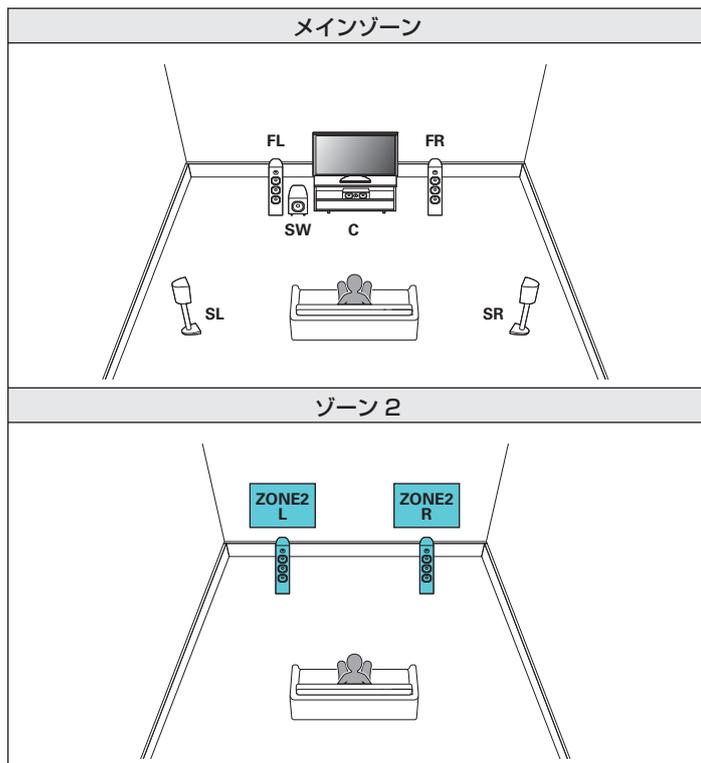
□ 5.1 チャンネル+2 台目のフロントスピーカー

フロントスピーカーAまたはフロントスピーカーBをお好みに合わせて切り替えて再生できるシステムです。



□ 5.1 チャンネル(メインゾーン)+2 チャンネル(ゾーン 2)

メインゾーンで5.1チャンネルのスピーカーシステム、ゾーン2で2チャンネルのシステムを構築する接続方法です。

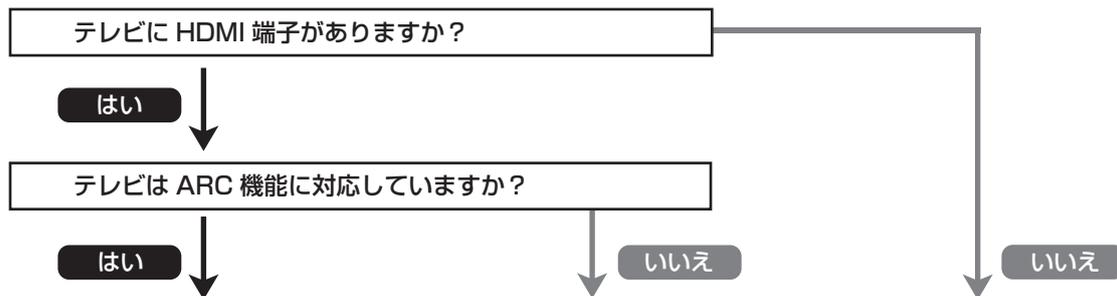


テレビを接続する

本機にテレビを接続し、本機に入力された映像をテレビに出力します。また、テレビの音声を本機で楽しむこともできます。

接続方法は、テレビに装備されている端子や機能により異なります。

ARC(Audio Return Channel)機能は、HDMI ケーブルを経由してテレビの音声信号を伝送し、本機でテレビの音声を再生する機能です。



「接続 1: HDMI 端子付き/ARC 機能対応のテレビ」
([P.39](#) ページ)

「接続 2: HDMI 端子付き/ARC 機能非対応のテレビ」
([P.40](#) ページ)

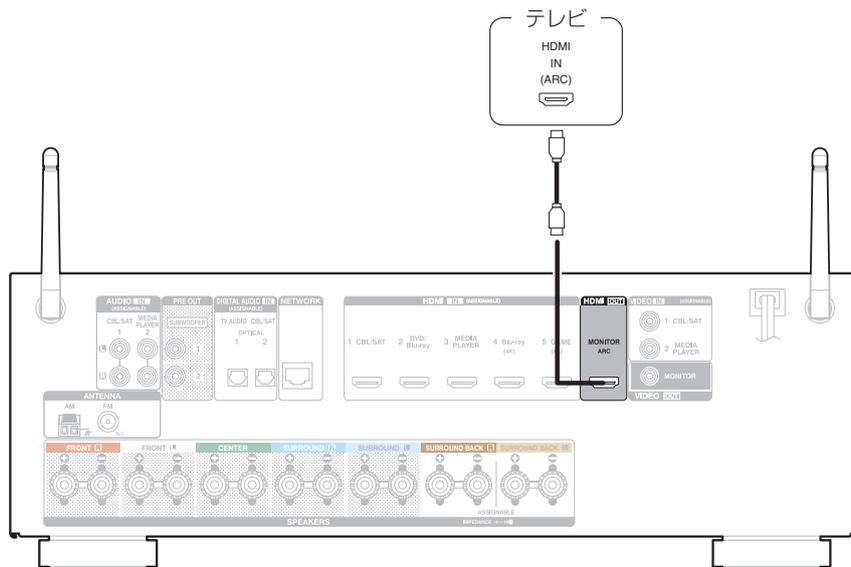
「接続 3: HDMI 端子がないテレビ」
([P.41](#) ページ)



接続 1 : HDMI 端子付き / ARC 機能対応のテレビ

HDMI ケーブルを使用して、本機に ARC 機能対応のテレビを接続します。

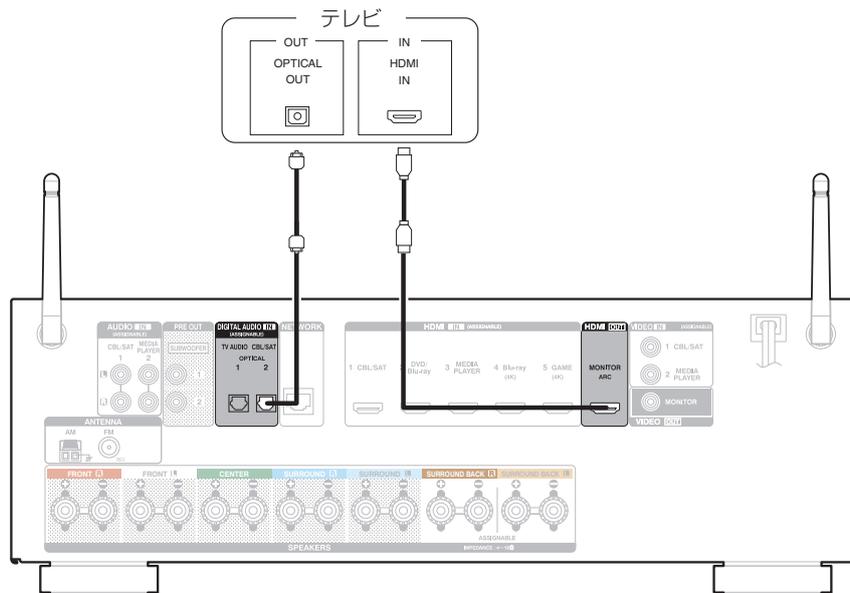
ARC 機能対応のテレビを使用する場合は、メニューの “HDMI コントロール” (P.143 ページ) を “オン” に設定してください。



接続 2: HDMI 端子付き/ARC 機能非対応のテレビ

HDMI ケーブルを使用して、本機にテレビを接続します。

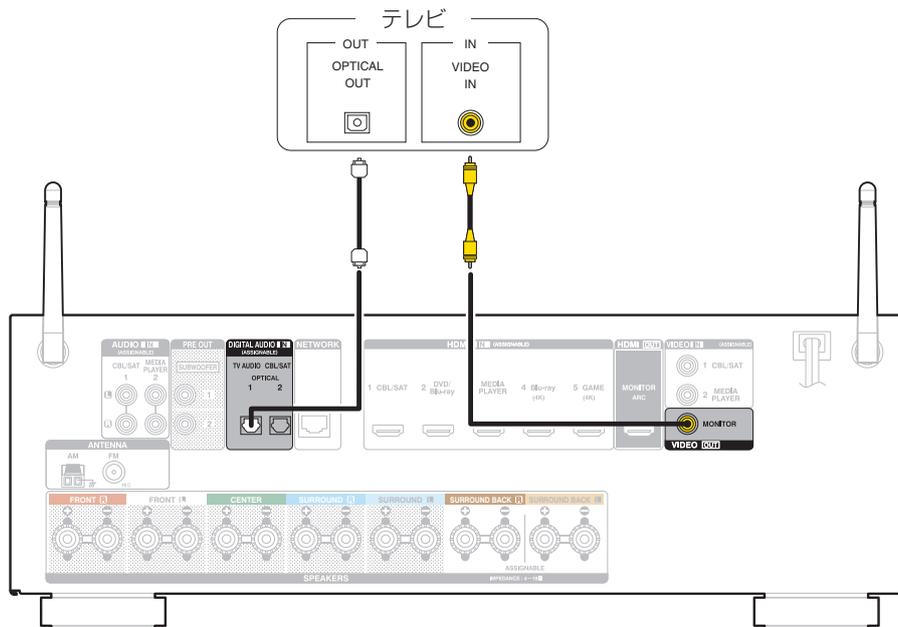
本機を経由してテレビの音声を聴く場合は、光伝送ケーブルを使用して本機にテレビを接続します。



接続 3: HDMI 端子がないテレビ

ビデオケーブルを使用して、本機にテレビを接続します。

本機を経由してテレビの音声を聴く場合は、光伝送ケーブルを使用して本機にテレビを接続します。



再生機器を接続する

本機には 2 種類(HDMI、ビデオ)の映像入力端子と、3 種類(HDMI、デジタルオーディオ、オーディオ)の音声入力端子があります。本機の入力端子は、接続する機器に装備されている端子に合わせて選択してください。本機と接続する機器に HDMI 端子がある場合には、HDMI ケーブルでの接続をおすすめします。HDMI 接続では、HDMI ケーブル 1 本で音声信号と映像信号を伝送できます。

- 「DVD プレーヤーまたはブルーレイディスクプレーヤーを接続する」([143 ページ](#))
- 「セットトップボックスを接続する(衛星放送チューナー/ケーブルテレビチューナー)」([144 ページ](#))
- 「ビデオカメラやゲーム機などを接続する」([145 ページ](#))



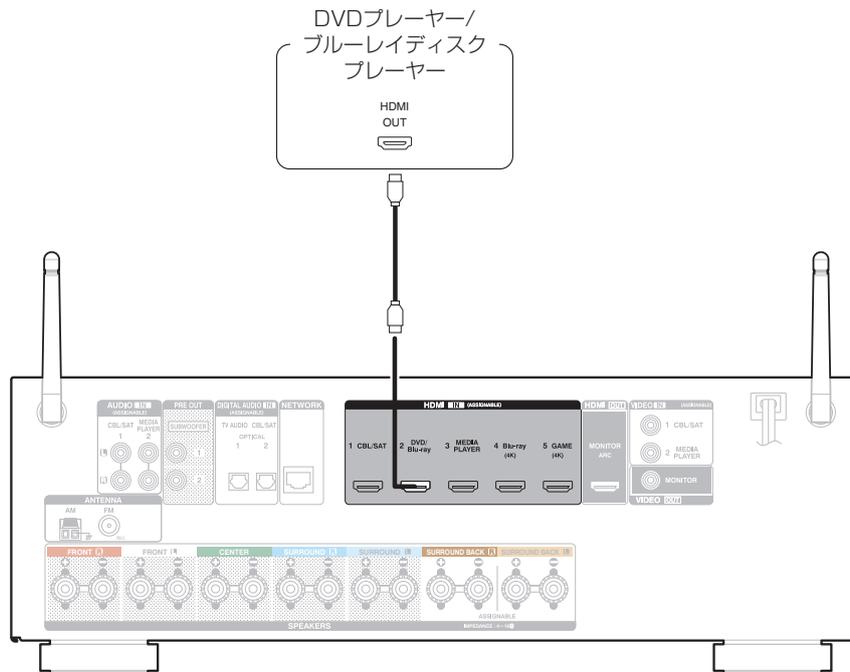
- 本機の音声/映像入力端子に印字された入力ソースのとおり機器を接続してください。
- 本機では、HDMI IN 端子、DIGITAL AUDIO IN 端子、VIDEO IN 端子、AUDIO IN 端子に割り当てる入力ソースを変更できます。入力端子に割り当てる入力ソースの変更のしかたは、「入力端子の割り当て」([147 ページ](#))をご覧ください。
- 本機に入力した音声信号を HDMI 接続しているテレビで再生する場合は、メニューの「HDMI オーディオ出力」([142 ページ](#))を「TV」に設定してください。



DVD プレーヤーまたはブルーレイディスクプレーヤーを接続する

DVD プレーヤーまたはブルーレイディスクプレーヤーの接続例です。

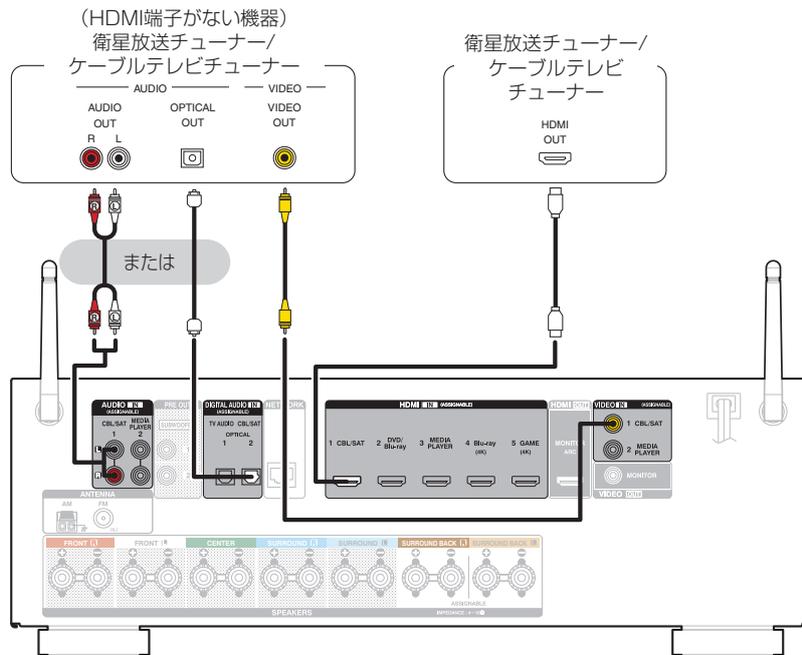
4K 対応のプレーヤーを接続する場合は、HDMI 4 または HDMI 5 入力端子に接続してください。



セットトップボックスを接続する(衛星放送チューナー/ケーブルテレビチューナー)

衛星放送チューナーやケーブルテレビチューナーの接続例です。

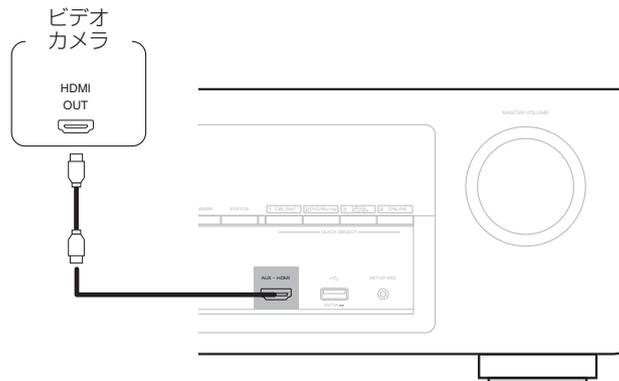
本機の入力端子は、接続する機器に装備されている端子に合わせて選択してください。



ビデオカメラやゲーム機などを接続する

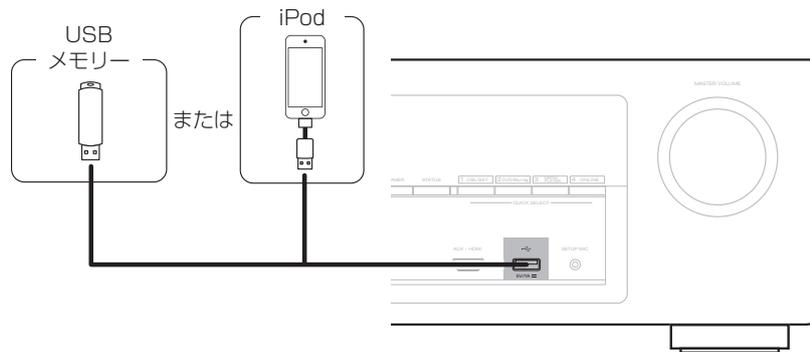
ビデオカメラの接続例です。

この端子には、ビデオカメラやゲーム機などの再生機器を接続します。



USB 端子に iPod または USB メモリーを接続する

本機と iPod を接続するときは、iPod に付属の USB ケーブルを使用してください。
操作のしかたは、「iPod を再生する」(P.56 ページ)または「USB メモリーを再生する」(P.61 ページ)をご覧ください。



すべての USB メモリーに対して、動作および電源の供給を保証するものではありません。USB 接続タイプのポータブル HDD で、AC アダプターを接続して電源が供給できるタイプのものを使用する場合は、AC アダプターのご使用をおすすめします。

ご注意

- USB メモリーは USB ハブ経由では動作しません。
- 本機の USB 端子とパソコンを USB ケーブルで接続して使用することはできません。
- USB メモリーを接続するときに、延長ケーブルを使用しないでください。他の機器に電波障害を引き起こす場合があります。



■ 対応している iPod/iPhone

• iPod classic



iPod classic
80GB



iPod classic
160GB (2007)



iPod classic
160GB (2009)

• iPod nano



iPod nano
3rd generation
(video)
4GB 8GB



iPod nano
4th generation (video)
8GB 16GB



iPod nano
5th generation (video camera)
8GB 16GB



iPod nano
6th generation
8GB 16GB



iPod nano
7th generation
16GB

• iPod touch



iPod touch
2nd generation
8GB 16GB 32GB



iPod touch
3rd generation
32GB 64GB



iPod touch
4th generation
8GB 16GB 32GB 64GB



iPod touch
5th generation
16GB 32GB 64GB

• iPhone



iPhone 3G
8GB 16GB



iPhone 3GS
8GB 16GB 32GB



iPhone 4
8GB 16GB 32GB



iPhone 4S
16GB 32GB 64GB



iPhone 5
iPhone 5c iPhone 5s
16GB 32GB 64GB



FM アンテナや AM ループアンテナを接続する

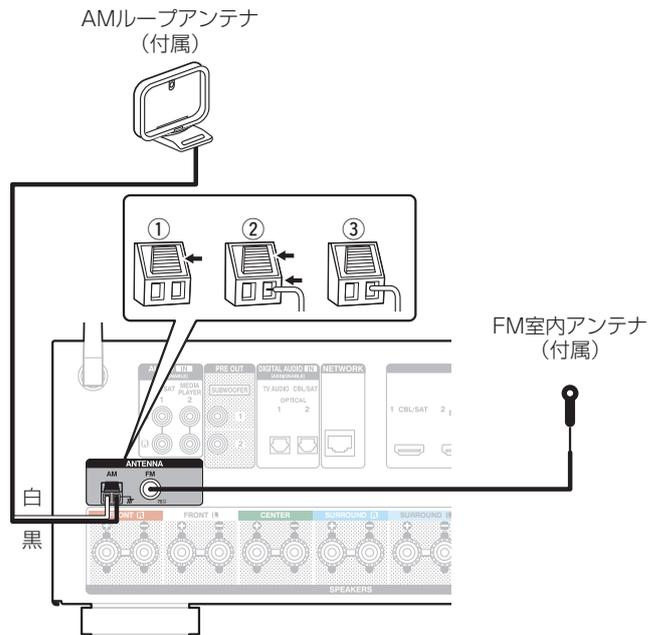
アンテナを接続したあとに放送を受信し、最も雑音の少ない位置にテープなどでアンテナ線を固定してください。(「FM 放送または AM 放送を聴く」(P.70 ページ))



放送を良好に受信できない場合は、屋外アンテナの設置をおすすめします。詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

ご注意

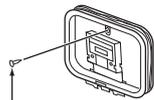
- 2 つの FM アンテナを同時に接続しないでください。
- AM ループアンテナ線がリアパネルやねじに接触していないか確認してください。



■ AM ループアンテナの使いかた

壁に掛けて使う

組み立てずにそのままお使いください。

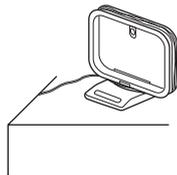


くぎや画びょうなど

置いて使う

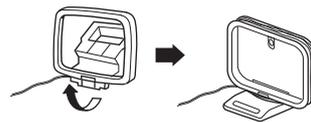
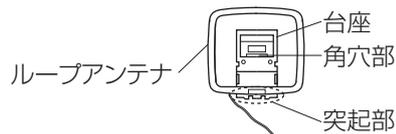
図のように組み立ててお使いください。

組み立てかたは、「AM ループアンテナの組み立てかた」をご覧ください。



■ AM ループアンテナの組み立てかた

- 1 台座部をループアンテナの後ろから、ループアンテナの下を通して、手前に曲げる。
- 2 突起部を台座の角穴部に、差し込む。



ホームネットワーク(LAN)に接続する

本機は有線 LAN または無線 LAN を使用して、ネットワークに接続できます。

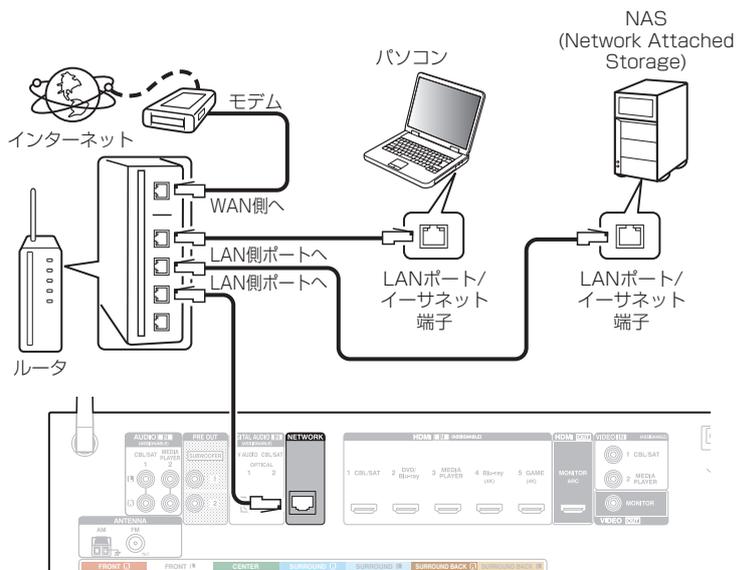
本機はホームネットワーク(LAN)に接続して、次のさまざまな再生や操作をおこなうことができます。

- インターネットラジオやメディアサーバーなどのネットワークオーディオの再生
- 各種オンラインサービスからの楽曲の再生
- AirPlay 再生
- ネットワークを経由した本機の操作
- ファームウェアのアップデート

インターネットの接続については、ISP(インターネット・サービスプロバイダ)またはパソコン関連販売店にお問い合わせください。

有線 LAN

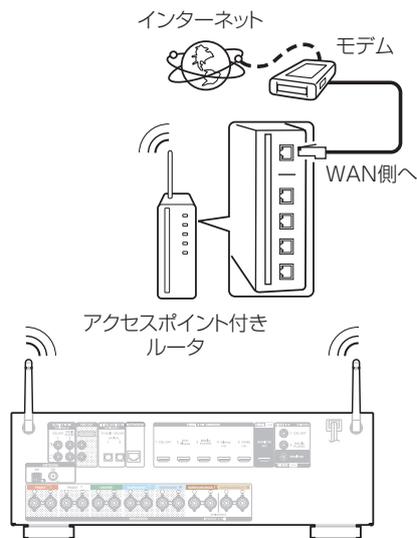
有線 LAN で接続する場合は、図のようにルータと本機を LAN ケーブルで接続してください。



無線 LAN

無線 LAN でネットワークに接続する場合は、リアパネルの Bluetooth/無線 LAN 用ロッドアンテナを立ててご使用ください。

無線 LAN ルータとの接続方法は、「Wi-Fi 設定」(P.170 ページ)をご覧ください。



- 本機を使用するにあたって、次の機能が装備されているルータをおすすめします。
 - DHCP サーバー内蔵
LAN 上の IP アドレスを自動的に割り振る機能です。
 - 100BASE-TX スイッチ内蔵
複数の機器を接続するために、100Mbps 以上の速度で、スイッチングハブを内蔵していることをおすすめします。
- STP タイプまたは ScTP タイプのシールド LAN ケーブルを使用してください。(CAT-5 以上を推奨)
- LAN ケーブルは、シールド付きのノーマルタイプをおすすめします。フラットタイプのケーブルやシールドされていないケーブルを使用すると、ノイズが他の機器に影響を及ぼす可能性があります。
- WPS (Wi-Fi Protected Setup) 機能に対応したルータを使用すると、簡単に Wi-Fi 接続することができます。
- DHCP 機能のないネットワークに本機を接続して使用する場合は、メニューの“ネットワーク”(P.169 ページ)で、IP アドレスなどの設定をおこなってください。

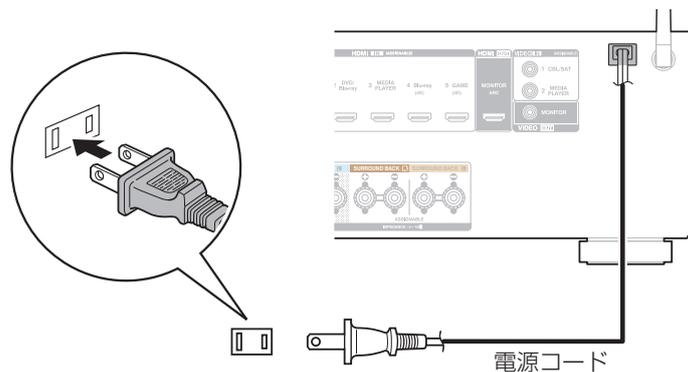
ご注意

- ISP 業者によって使用できるルータの種類が異なります。詳しくは、ISP 業者またはパソコン関連販売店にお問い合わせください。
- 本機は PPPoE に対応していません。PPPoE で設定するタイプの回線契約を結んでいる場合は、PPPoE 対応のルータが必要です。
- 電気通信端末機器認定品の市販ルータ等に LAN 接続してください。
- NETWORK 端子は、直接パソコンの LAN ポート/イーサネット端子と接続しないでください。
- 各種オンラインサービスは、予告なく終了する場合があります。



電源コードを接続する

すべての接続が完了したら、電源プラグをコンセントに差し込みます。



家庭用の電源コンセントへ
(AC100V、50/60Hz)

■ 目次

基本操作

電源を入れる	54
入力ソースを選ぶ	54
音量を調節する	55
一時的に音を消す(ミュートイング)	55
サウンドモードを選ぶ	102

機器を再生する

DVD プレーヤーやブルーレイディスクプレーヤーを再生する	55
iPod を再生する	56
USB メモリーを再生する	61
Bluetooth 機器の音楽を再生する	66
FM 放送または AM 放送を聴く	69

ネットワークオーディオ/サービスを再生する

インターネットラジオを聴く	77
パソコンや NAS に保存されているファイルを再生する	81
Flickr サイト上の写真を閲覧する	85
AirPlay 機能	89

便利な機能

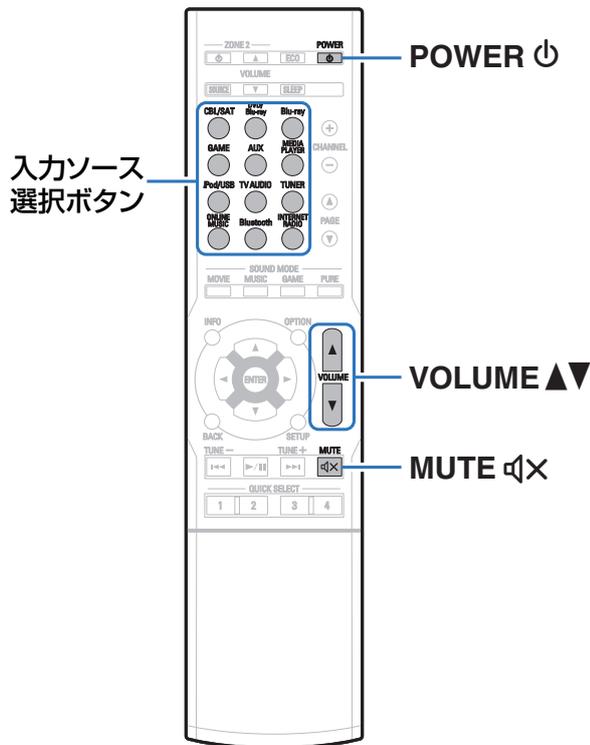
便利な機能	92
HDMI コントロール機能	113
スリープタイマー機能	114
クイックセレクトプラス機能	116

その他の機能

ウェブコントロール機能	119
ゾーン 2(別の部屋)での再生	121



基本操作



電源を入れる

1 POWER ㊤ を押して、電源を入れる。



- 電源がスタンバイ状態のときに入力ソース選択ボタンを押しても、電源がオンになります。
- 本体の ㊤ を押しても電源を入れることができます。

入力ソースを選ぶ

1 再生する入力ソース選択ボタンを押す。
入力ソースをダイレクトに選択できます。



本体の SOURCE SELECT を回しても、入力ソースを選択できます。



音量を調節する

1 VOLUME ▲▼ を押して、音量を調節する。



- 入力信号やチャンネルレベルの設定などにより、調節できる範囲が異なります。
- 本体の MASTER VOLUME を回しても、音量を調節できます。

一時的に音を消す(ミュート)

1 MUTE を押す。

- ディスプレイの MUTE 表示が点滅します。
- テレビ画面に  を表示します。



- メニューの“ミュートレベル”( [136 ページ](#))で設定したレベルまで音量が減衰します。
- ミュートを解除するときは、音量を調節するか、もう一度 MUTE  を押してください。

DVD プレーヤーやブルーレイディスクプレーヤーを再生する

ここでは、DVD プレーヤーやブルーレイディスクプレーヤーの再生のしかたを例に説明します。

1 再生の準備をする。

- ① テレビ、サブウーハーおよびプレーヤーの電源を入れる。
- ② テレビの入力を本機の入力に設定する。

2 POWER を押して、本機の電源を入れる。

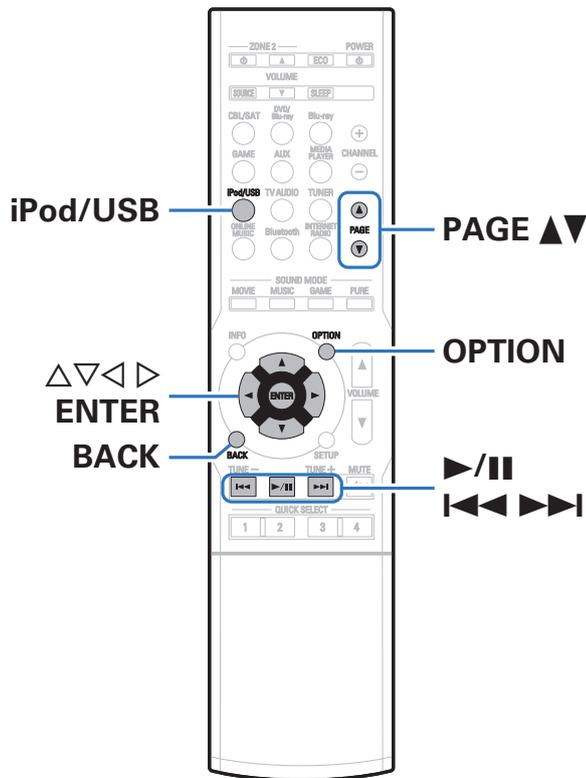
3 DVD/Blu-ray(4K 非対応の場合)または Blu-ray(4K 対応の場合)を押して、再生するプレーヤーの入力ソースに切り替える。

4 DVD プレーヤーまたはブルーレイディスクプレーヤーを再生する。

■ サラウンド再生をする([102 ページ](#))



iPod を再生する



- iPod に付属している USB ケーブルを使用して iPod を本機の USB 端子に接続すると、iPod の音楽を楽しむことができます。
- 本機で再生できる iPod は、「対応している iPod/iPhone」(P.47 ページ)をご覧ください。
- iPhone、iPod touch、iPad または iTunes に保存されている音楽ファイルを、ネットワークを経由して本機で再生する場合は「AirPlay 機能」(P.89 ページ)をご覧ください。



iPod の音楽を聴く

- 1 iPod を本機の USB 端子に接続する。(🔗46 ページ)
- 2 iPod/USB を押して、入力ソースを“iPod/USB”に切り替える。
本体のディスプレイに“Browse from iPod”を表示します。
 - テレビの画面には何も表示しません。
- 3 iPod の画面を見ながら iPod 本体を操作して、音楽を再生する。



- “iPod ブラウズモード”には、“From iPod”と“On-Screen”があります。お買い上げ時の設定は、iPod の画面を見ながら iPod 本体を操作する“From iPod”です。
- iPod の情報をテレビ画面に表示させて操作する“On-Screen”に変更したい場合は、「iPod ブラウズモードの設定」(🔗58 ページ)をご覧ください。

ご注意

- iPod の種類またはソフトウェアのバージョンによっては、機能の一部が動作しない場合があります。
- 万一 iPod のデータが消失または損傷しても、当社は一切責任を負いません。

■ オプションメニューでできる操作

“iPod ブラウズモード”(🔗58 ページ)の設定が“From iPod”のときに操作できます。

- 「iPod ブラウズモードの設定」(🔗58 ページ)
- 「入力ソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する(チャンネルレベル調節)」(🔗98 ページ)
- 「トーンを調節する(トーンコントロール)」(🔗99 ページ)
- 「音声の再生中にお好みの映像をモニターに映す(ビデオセレクト)」(🔗100 ページ)
- 「すべてのゾーンで同じ音楽を再生する(オールゾーンステレオ)」(🔗101 ページ)



iPod ブラウズモードの設定

iPod の各種リストや再生中の表示をテレビ画面に表示します。ここでは、“On-Screen” で iPod 内の曲を再生するまでの手順を説明します。

1 入力ソースが“iPod/USB”のときに、OPTION を押す。

オプションメニュー画面を表示します。

2 “iPod ブラウズモード”を選び、ENTER を押す。

“iPod ブラウズモード”画面を表示します。

3 ◀▶を押して“On-Screen”を選び、ENTER を押す。

- “From iPod”と“On-Screen”の操作一覧は次のとおりです。

iPod ブラウズモード		From iPod	On-Screen
再生できる ファイル	音楽ファイル	✓	✓
	映像ファイル	*	
操作できる ボタン	本機のリモコン	✓	✓
	iPod	✓	

* 音声のみ再生します。

4 Δ▽▶を押して再生したいファイルを選び、ENTER を押す。

再生をはじめます。

操作ボタン	機能
▶/	再生/一時停止
◀◀▶▶	前の曲にスキップ/次の曲にスキップ (長押し)早戻し/早送り
ENTER	再生/一時停止 (長押し)停止
Δ▽	前の曲にスキップ/次の曲にスキップ (長押し)早戻し/早送り
PAGE ▲▼	リストを表示中に、前のページへ移動/次のページへ移動

- 操作ボタンの動作が異なる場合があります。



- “iPod ブラウズモード”を“On-Screen”に設定した状態で再生中に本体の STATUS を押すと、タイトル名、アーティスト名、アルバム名などを切り替えて表示します。
- 本体のディスプレイには、半角英数字と一部の記号のみ表示することができます。対応していない文字は、“.(ピリオド)”に置き換えて表示します。



■ オプションメニューでできる操作

“iPod ブラウズモード” の設定が “On-Screen” のときに操作できます。(☞58 ページ)

- 「iPod ブラウズモードの設定」(☞58 ページ)
- 「リピート再生をする」(☞60 ページ)
- 「ランダム再生をする」(☞60 ページ)
- 「入カソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する(チャンネルレベル調節)」(☞98 ページ)
- 「トーンを調節する(トーンコントロール)」(☞99 ページ)
- 「音声の再生中にお好みの映像をモニターに映す(ビデオセレクト)」(☞100 ページ)
- 「すべてのゾーンで同じ音楽を再生する(オールゾーンステレオ)」(☞101 ページ)



リピート再生をする

- 1 “iPod ブラウズモード” を “On-Screen” に設定しているときに、OPTION を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
 - 2 $\Delta\nabla$ を押して “リピート” を選び、ENTER を押す。
 - 3 $\triangleleft\rangle$ を押してリピート再生モードを選ぶ。
-
- | | |
|--------------------|-------------------------------|
| オフ
(お買い上げ時の設定): | リピート再生モードを解除します。 |
| 1 曲: | 再生中の曲をリピート再生します。 |
| すべて: | 現在再生中のフォルダにあるすべての曲をリピート再生します。 |
-
- 4 ENTER を押す。
再生画面に戻ります。



“リピート” の設定は、入力ソースごとに記憶します。

ランダム再生をする

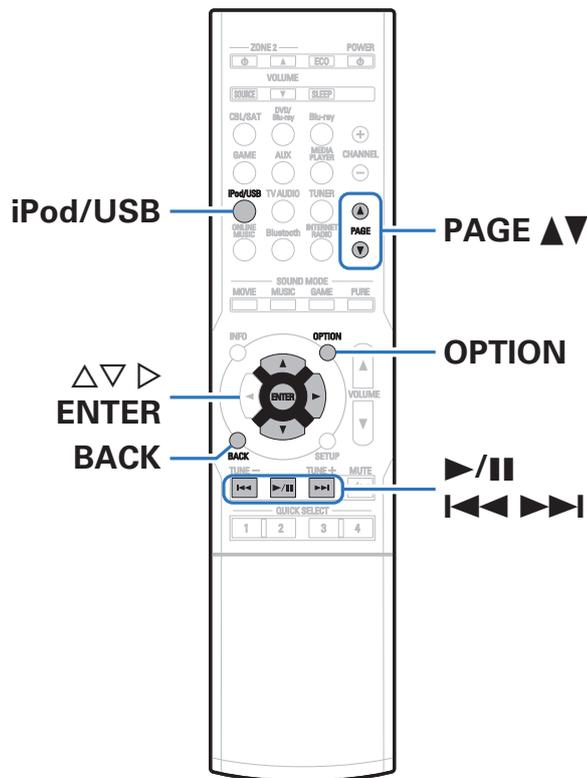
- 1 “iPod ブラウズモード” を “On-Screen” に設定しているときに、OPTION を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
 - 2 $\Delta\nabla$ を押して “ランダム” を選び、ENTER を押す。
 - 3 $\triangleleft\rangle$ を押して、ランダム再生モードを選ぶ。
-
- | | |
|--------------------|---------------------------------|
| オフ
(お買い上げ時の設定): | ランダム再生モードを解除します。 |
| オン: | 現在再生中のフォルダ内にあるすべての曲をランダムに再生します。 |
-
- 4 ENTER を押す。
再生画面に戻ります。



- ランダム再生すると、曲の再生が終わるたびにフォルダ内の曲からランダムに再生する曲を選択します。そのため、同じ曲を続けて再生する場合があります。
- “ランダム” の設定は、入力ソースごとに記憶します。



USB メモリーを再生する



- USB メモリーに保存されている音楽ファイルや静止画像を再生できます。
- 本機は、マスタストレージクラスに対応している USB メモリーのみ再生できます。
- USB メモリーは、FAT16 または FAT32 フォーマットに対応しています。
- 本機で再生できる音声/画像フォーマットの種類は、次のとおりです。
詳しくは、“USB メモリーの再生について” をご覧ください。
([p.210](#) ページ)

- WMA (Windows Media Audio)
- MP3 (MPEG-1 Audio Layer-3)
- WAV
- MPEG-4 AAC
- FLAC (Free Lossless Audio Codec)
- ALAC (Apple Lossless Audio Codec)
- AIFF
- DSD
- JPEG



USB メモリーに保存されているファイルを再生する

- 1 USB メモリーを本機の USB 端子に接続する。
([P.46](#) ページ)
- 2 iPod/USB を押して、入力ソースを “iPod/USB” に切り替える。



- 3 $\Delta \nabla \triangleright$ を押して再生したいファイルを選び、ENTER を押す。
再生をはじめます。

操作ボタン	機能
$\blacktriangleright/\parallel$	再生/一時停止
$\blacktriangleleft\blacktriangleright$	前の曲にスキップ/次の曲にスキップ (長押し)早戻し/早送り
ENTER	再生/一時停止 (長押し)停止
$\Delta \nabla$	前の曲にスキップ/次の曲にスキップ (長押し)早戻し/早送り
PAGE $\blacktriangle \blacktriangledown$	リストを表示中に、前のページへ移動/次のページへ移動



- MP3 形式の音楽ファイルでアルバムアートのデータを持っている場合は、音楽ファイルを再生中にアルバムアートを表示させることができます。
- 本機では、フォルダに保存されている画像の向きで静止画像 (JPEG) ファイルを再生します。

ご注意

USB メモリーを本機と接続して使用しているときに、万が一 USB メモリーのデータが消失または損傷した場合、当社は一切責任を負いません。

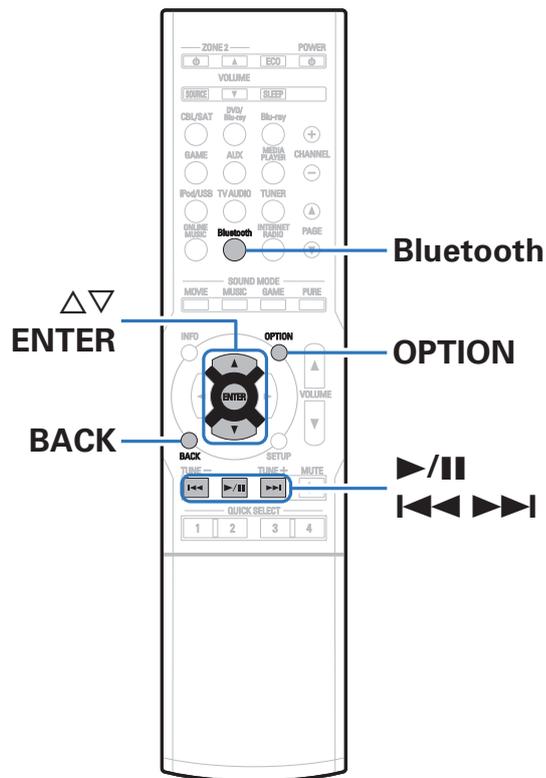


■ オプションメニューでできる操作

- 「リピート再生をする」( [93 ページ](#))
- 「ランダム再生をする」( [93 ページ](#))
- 「キーワードでコンテンツを検索する(テキスト検索)」( [95 ページ](#))
- 「音楽とお好みの写真を同時に再生する(スライドショー)」( [96 ページ](#))
- 「スライドショーの再生間隔を設定する」( [97 ページ](#))
- 「入力ソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する(チャンネルレベル調節)」( [98 ページ](#))
- 「トーンを調節する(トーンコントロール)」( [99 ページ](#))
- 「音声の再生中にお好みの映像をモニターに映す(ビデオセレクト)」( [100 ページ](#))
- 「すべてのゾーンで同じ音楽を再生する(オールゾーンステレオ)」( [101 ページ](#))



Bluetooth 機器の音楽を聴く



スマートフォンやデジタル音楽プレーヤーなどの Bluetooth 機器と本機をペアリングして接続すると、Bluetooth 機器の音楽ファイルをワイヤレスで楽しむことができます。

約 10m の範囲内で通信できます。

ご注意

Bluetooth 機器側の音楽を再生するには、Bluetooth 機器側が A2DP プロファイルをサポートしている必要があります。

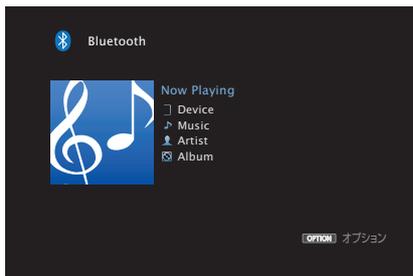


Bluetooth 機器とペアリングする

Bluetooth 機器の音楽を本機で楽しむときは、あらかじめご使用になる Bluetooth 機器と本機をペアリングしてください。

一度ペアリングすれば、再度ペアリングする必要はありません。

1 Bluetooth を押して、入力ソースを “Bluetooth” に切り替える。



はじめてご使用になる場合は、自動的にペアリングモードになり、本機のディスプレイに “Pairing...” を表示します。

2 Bluetooth 機器の画面に表示された機器の一覧に本機の名前が表示されたら、本機を選ぶ。

ペアリングが完了すると、本機のディスプレイに機器名を表示します。

- 本機のディスプレイに “Pairing” が表示されている間に、Bluetooth 機器の接続操作をおこなってください。また、Bluetooth 機器の接続操作は、本機に近い距離 (1m 程度) でおこなってください。



- 2 台目の Bluetooth 機器と接続する場合には、Bluetooth を約 3 秒間長押しするか、オプションメニューから “ペアリングモード” を選択してペアリングしてください。(P.68 ページ)
- 本機は最大 8 台の Bluetooth 機器とペアリングできます。9 台目の Bluetooth 機器をペアリングすると、一番古い機器に置き換えて登録します。
- 本機のディスプレイに数値が表示された場合は、Bluetooth 機器の画面に表示された数値と同じ値であることを確認し、本機と Bluetooth 機器ともに “Pair” を選択してください。
- Bluetooth 機器側の画面でパスワードを要求された場合は、“0000” を入力してください。



Bluetooth 機器の音楽を再生する

音楽を再生する前に、次のことを確認してください。

- Bluetooth 機器の Bluetooth 機能がオンになっていること
- ペアリングが完了していること

1 Bluetooth を押して、入力ソースを “Bluetooth” に切り替える。
本機が最後に接続した Bluetooth 機器に自動的に接続します。

2 Bluetooth 機器の再生をはじめめる。
• 本機のリモコンでも Bluetooth 機器を操作できます。

操作ボタン	機能
▶/	再生/一時停止
◀◀▶▶	前の曲にスキップ/次の曲にスキップ (長押し) 早戻し/早送り
ENTER	再生/一時停止 (長押し) 停止
△ ▽	前の曲にスキップ/次の曲にスキップ (長押し) 早戻し/早送り



- 本機の電源がオンの状態のとき、Bluetooth 機器の接続操作をおこなうと、自動的に入力ソースを “Bluetooth” に切り替えます。
- 本機の “IP コントロール” (p.169 ページ) 設定を “常時オン” にし、本機がスタンバイ状態のときに Bluetooth 機器から接続操作をおこなうと自動的に本機の電源をオンします。
- 再生中に本体の STATUS を押すと、タイトル名、アーティスト名、アルバム名などを切り替えて表示します。
- 本体のディスプレイには、半角英数字と一部の記号のみ表示することができます。対応していない文字は “. (ピリオド)” に置き換えて表示します。



ご注意

- 本機のリモコンで操作するには、Bluetooth 機器側が AVRCP プロファイルに対応している必要があります。
- すべての Bluetooth 機器に対するリモコン操作を保証するものではありません。
- Bluetooth 機器によっては、本機は Bluetooth 機器側で設定している音量と連動して音声を出力します。

■ オプションメニューでできる操作

- 「リピート再生をする」( [93 ページ](#))
- 「ランダム再生をする」( [93 ページ](#))
- 「ペアリングモードでペアリングする」( [68 ページ](#))
- 「入力ソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する(チャンネルレベル調節)」( [98 ページ](#))
- 「トーンを調節する(トーンコントロール)」( [99 ページ](#))
- 「音声の再生中にお好みの映像をモニターに映す(ビデオセレクト)」( [100 ページ](#))
- 「すべてのゾーンで同じ音楽を再生する(オールゾーンステレオ)」( [101 ページ](#))



ペアリングモードでペアリングする

Bluetooth 機器と本機をペアリングします。

1 入力ソースが“Bluetooth”のときにOPTIONを押す。

オプションメニュー画面を表示します。

2 △▽を押して“ペアリングモード”を選び、ENTERを押す。

ペアリングモードになります。

3 Bluetooth 機器の画面に表示された機器の一覧に本機の名称が表示されたら、本機を選ぶ。

ペアリングが完了すると、本機のディスプレイに機器名を表示します。

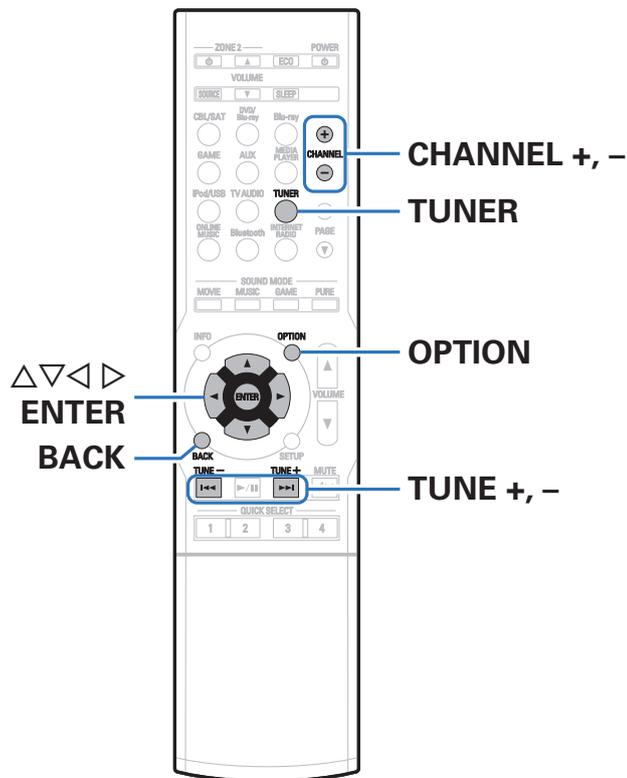


- 本機のディスプレイに数値が表示された場合は、Bluetooth 機器の画面に表示された数値と同じ値であることを確認し、本機と Bluetooth 機器ともに“Pair”を選択してください。
- Bluetooth 機器側の画面でパスワードを要求された場合は、“0000”を入力してください。



FM放送またはAM放送を聴く

本機に内蔵のチューナーを使用して、FM放送およびAM放送を聴くことができます。
事前に必ずFMアンテナおよびAMループアンテナを本機に接続してください。



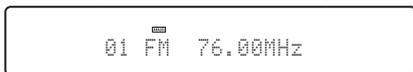
FM 放送または AM 放送を聴く

- 1 アンテナを接続する。(「FM アンテナや AM ループアンテナを接続する」(P.48 ページ))
- 2 TUNER を押して、入力ソースを “Tuner” に切り替える。

【テレビ画面】



【本体のディスプレイ】



- 3 OPTION を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 4 Δ▽ を押して “FM/AM” を選び、ENTER を押す。
受信バンド入力画面を表示します。

- 5 ◀▶ を押して “FM” または “AM” を選び、ENTER を押す。

FM: FM 放送を聴くときに選択します。

AM: AM 放送を聴くときに選択します。

- 6 TUNE + または TUNE - を押して、聴きたい放送局を選ぶ。

受信可能な放送局が見つかるまでスキャンします。放送局が見つかったと自動的にスキャンを停止して受信します。



FM 放送局を受信するモードには、本機が自動的に受信できる放送局を探して受信する “オート” モードと、ボタン操作で周波数を切り替えて受信する “マニュアル” モードがあります。お買い上げ時の設定は “オート” モードです。そのほかにも受信周波数の数字を入力して受信する “ダイレクトチューニング” モードがあります。

“オート” モードでは、受信状態が良くない放送局は受信できません。その場合は “マニュアル” モードまたは “ダイレクトチューニング” モードで受信してください。

操作ボタン	機能
TUNE +, -	放送局の選択(アップ/ダウン)
CHANNEL +, -	プリセット登録した放送局の選択



■ オプションメニューでできる操作

- 「周波数を入力して受信する(ダイレクトチューニング)」
([☞71 ページ](#))
- 「受信モードを変更する(チューニングモード)」([☞72 ページ](#))
- 「自動で放送局を選局しプリセットする(オートプリセット)」([☞72 ページ](#))
- 「聴いている放送局をプリセットする(プリセットに登録)」([☞73 ページ](#))
- 「プリセットした放送局に名前をつける(プリセットネーム)」([☞74 ページ](#))
- 「プリセットした放送局をスキップする(プリセットスキップ)」([☞75 ページ](#))
- 「入力ソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する(チャンネルレベル調節)」([☞98 ページ](#))
- 「トーンを調節する(トーンコントロール)」([☞99 ページ](#))
- 「音声の再生中にお好みの映像をモニターに映す(ビデオセレクト)」([☞100 ページ](#))
- 「すべてのゾーンで同じ音楽を再生する(オールゾーンステレオ)」([☞101 ページ](#))

周波数を入力して受信する(ダイレクトチューニング)

ダイレクトに周波数を入力して、放送局を受信します。

- 1 入力ソースが“Tuner”のときに、OPTION を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 2 $\Delta\nabla$ を押して“ダイレクトチューニング”を選び、ENTER を押す。
周波数入力画面を表示します。
- 3 $\Delta\nabla$ を押して数字を選び、▶ を押す。
 - ◀ を押すと、1 つ前に入力した周波数を取り消すことができます。
- 4 手順3をくり返し、聴きたい放送局の周波数を入力する。
- 5 入力が完了したら、ENTER を押す。
放送局を受信します。



受信モードを変更する(チューニングモード)

受信モードを変更します。“オート”モードで自動的に放送局を受信できないときは、“マニュアル”モードに変更し、手動で放送局を受信してください。

- 1 入力ソースが“Tuner”のときに、OPTION を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 2 $\Delta\nabla$ を押して“チューニングモード”を選び、ENTER を押す。
- 3 \triangleleft \triangleright を押してチューニングモードを選び、ENTER を押す。

オート:	自動的に受信できる放送局を探して受信するモードです。
マニュアル:	ボタン操作で1ステップずつ周波数を切り替えて受信するモードです。

自動で放送局を選局しプリセットする(オートプリセット)

自動で最大56局までプリセットできます。

- 1 入力ソースが“Tuner”のときに、OPTION を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 2 $\Delta\nabla$ を押して“オートプリセット”を選び、ENTER を押す。
- 3 ENTER を押す。
自動で放送局を受信し、プリセットをはじめます。
 - プリセットが完了すると“完了しました”を約5秒間表示し、オプションメニュー画面が消灯します。



プリセットメモリーは上書きされます。



聴いている放送局をプリセットする (プリセットに登録)

手動でお好みの放送局を選局し、プリセットします。
最大 56 局までプリセットできます。

- 1 プリセットしたい放送局を受信する。(「FM 放送または AM 放送を聴く」(P.70 ページ))
- 2 OPTION を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 3 Δ を押して“プリセットに登録”を選び、ENTER を押す。
すでにプリセットされているチャンネルリストを表示します。
- 4 Δ を押してプリセットしたいチャンネルを選び、ENTER を押す。
現在受信している放送局をプリセットします。
 - ・続けて他の放送局をプリセットする場合は、手順 1~4 をおこなってください。

チャンネル	お買い上げ時の設定
1~8	76.00 / 83.00 / 89.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
9~16	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
17~24	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
25~32	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
33~40	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
41~48	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
49~56	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz

プリセットした放送局を聴く

- 1 CHANNEL + または CHANNEL - を押して、プリセットした放送局を選ぶ。



本体の TUNER PRESET CH + または TUNER PRESET CH - を押しても、プリセットした放送局を選択できます。



プリセットした放送局に名前をつける (プリセットネーム)

プリセットした放送局に名前をつけたり、変更したりすることができます。

8文字まで入力できます。

- 1 入力ソースが“Tuner”のときに、**OPTION**を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 2 **△▽**を押して“プリセットネーム”を選び、**ENTER**を押す。
プリセットネーム画面を表示します。
- 3 **◀▶**を押して、名前をつけたい放送局のグループを選ぶ。
- 4 **△▽**を押して名前をつけたい放送局を選び、**ENTER**を押す。

- 5 **△▽**を押してネームラベルを選び、**ENTER**を押す。
プリセットネームの編集画面を表示します。
 - “初期化”を選択すると、周波数表示に戻ります。
- 6 文字を入力して“OK”を押す。
 - 文字の入力方法については、「キーボード画面で文字を入力する」([129ページ](#))をご覧ください。
- 7 **OPTION**を押して、元の画面に戻る。



プリセットした放送局をスキップする (プリセットスキップ)

オートプリセットメモリーをおこなうと、受信できる放送局をすべてメモリーします。不要なメモリーをスキップさせることで選局しやすくなります。

- 1 入力ソースが“Tuner”のときに、OPTION を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 2 Δ / ∇ を押して“プリセットスキップ”を選び、ENTER を押す。
“プリセットスキップ”画面を表示します。
- 3 スキップしたい放送局をグループごとに設定するとき
 - ① \triangleleft / \triangleright を押して、スキップしたい放送局のグループを選ぶ。
 - ② Δ を押して“**No.*-***をスキップ設定にします”を選び、ENTER を押す。
選択したグループ“*-*”に含まれるすべての放送局をスキップします。
(* は選択しているグループ番号です。)

スキップしたい放送局ごとに設定するとき

- ① \triangleleft / \triangleright を押して、スキップしたい放送局のグループを選ぶ。
- ② Δ / ∇ を押して、スキップしたい放送局を選ぶ。
- ③ \triangleleft / \triangleright を押して、“スキップ”を選ぶ。
選択した放送局をスキップします。

4 OPTION を押して、元の画面に戻る。



プリセットスキップを解除する

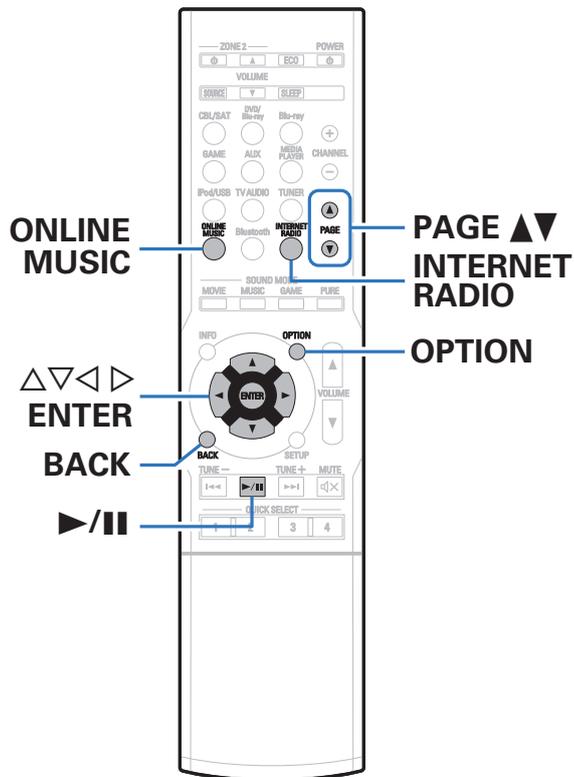
- 1 プリセットスキップ画面を表示中、◀▶ を押してスキップを解除したい放送局を含むグループを選ぶ。
- 2 ▲▼ を押して、スキップを解除したい放送局を選ぶ。
- 3 ◀▶ を押して、“オン” を選ぶ。
スキップを解除します。

ご注意

プリセットスキップの解除をグループごとにおこなうことはできません。



インターネットラジオを聴く



- インターネットラジオとは、インターネット上に配信されているラジオ放送です。世界中のインターネットラジオ放送を聴くことができます。
- 本機のインターネットラジオ局リストは、vTuner ラジオ局のデータベースサービスを利用しています。
- 本機で再生できる音声フォーマットの種類は、次のとおりです。詳しくは、「インターネットラジオ局の再生について」(P.213 ページ)をご覧ください。

- WMA (Windows Media Audio)
- MP3 (MPEG-1 Audio Layer-3)
- MPEG-4 AAC



インターネットラジオを聴く

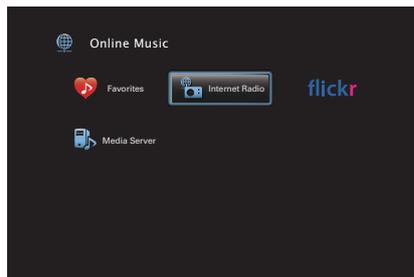
1 再生の準備をする。

- ネットワーク環境を確認してから、本機の電源を入れます。(「ホームネットワーク(LAN)に接続する」(P.50 ページ))

2 ONLINE MUSIC を押す。

- INTERNET RADIO を押すと、入力ソースの“Internet Radio”をダイレクトに選択できます。

3 Δ ∇ \triangleleft \triangleright を押して “Internet Radio” を選び、ENTER を押す。



4 Δ ∇ を押して再生したいラジオ局の検索方法を選び、ENTER を押す。

国名：	各地域を選択します。 一般的なインターネットラジオ局を表示します。
ラジオ局の検索：	本機で受信できるすべてのインターネットラジオ局を表示します。
Podcasts の検索：	本機で受信できるポッドキャスト内のインターネットラジオ局を表示します。
お奨めのラジオ局：	おすすめのインターネットラジオ局を表示します。
radiodenon.com：	vTuner でお気に入り登録しているインターネットラジオ局を表示します。vTuner でのお気に入り登録のしかたは、「vTuner でインターネットラジオ局をお気に入り登録する」(P.80 ページ)をご覧ください。
最近再生したラジオ局：	最近再生したインターネットラジオ局を表示します。最大 20 局まで “最近再生したラジオ局” へ自動的に記憶します。
文字列による検索：	キーワード検索したインターネットラジオ局を表示します。文字の入力方法については、「キーボード画面で文字を入力する」(P.129 ページ)をご覧ください。



- 5** **△▽▷**を押してラジオ局を選び、**ENTER**を押す。
バッファリングが“100%”表示になると、再生がはじまります。

操作ボタン	機能
▶/ 	再生/停止
ENTER	(長押し)停止
PAGE ▲▼	リストを表示中に、前のページへ移動/次のページへ移動



- 本体のSTATUSを押すたびにタイトル名、放送局名などを切り替えて表示します。
- ディスプレイ表示に対応していない文字は、“.(ピリオド)”に置き換えて表示します。

ご注意

ラジオ局データベースサービスは、予告なく停止する場合があります。

前回再生していたインターネットラジオ局を再生する

1 INTERNET RADIO を押す。

入力ソースを“Internet Radio”に切り替えると、前回再生していたインターネットラジオ局を再生します。

■ オプションメニューでできる操作

- 「キーワードでコンテンツを検索する(テキスト検索)」
([☞95 ページ](#))
- 「音楽とお好みの写真を同時に再生する(スライドショー)」
([☞96 ページ](#))
- 「入力ソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する(チャンネルレベル調節)」([☞98 ページ](#))
- 「トーンを調節する(トーンコントロール)」([☞99 ページ](#))
- 「音声の再生中にお好みの映像をモニターに映す(ビデオセレクト)」([☞100 ページ](#))
- 「すべてのゾーンで同じ音楽を再生する(オールゾーンステレオ)」([☞101 ページ](#))



vTunerでインターネットラジオ局をお気に入り登録する

世界中にはたくさんのインターネットラジオ局があり、本機はそれらを受信できます。しかし、ラジオ局が多すぎるために聴きたい放送を探すのは大変です。そこで本機専用のインターネットラジオ局検索ウェブサイト vTuner を使用してください。お手持ちのパソコンを使用して、インターネットラジオ局の検索と登録ができます。本機では vTuner に登録したラジオ局を再生できます。

- 1 本機の MAC アドレスを確認する。
(「情報」(P.169 ページ))
 - MAC アドレスは、vTuner のアカウント作成の際に必要です。
- 2 お手持ちのパソコンから vTuner のサイト
(<http://www.radiodenon.com>) にアクセスする。
- 3 本機の MAC アドレスを入力し、“Go” をクリックする。

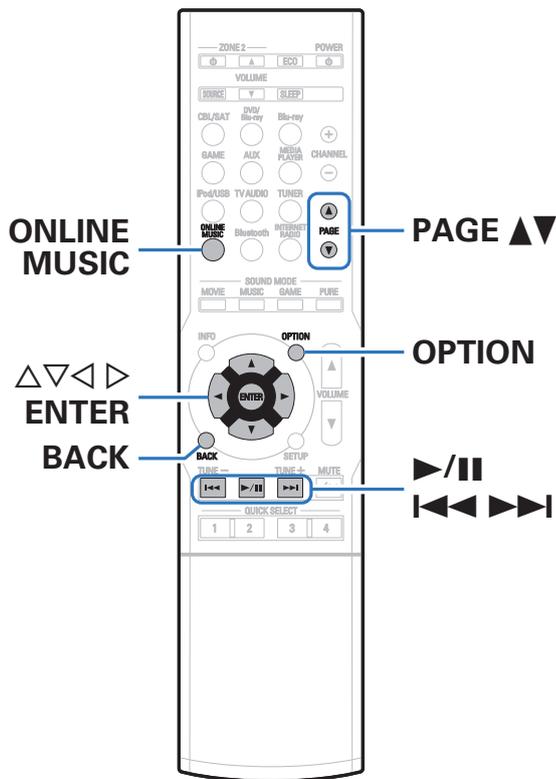
- 4 パソコンの E-mail アドレスと任意のパスワードを入力する。
- 5 お好みで検索条件(ジャンル/地域/言語など)を選ぶ。
 - キーワードを入力し、聴きたい曲を探すこともできます。
- 6 表示されたリストからお好みのラジオ局を選び、お気に入り登録アイコンをクリックする。
- 7 お気に入りグループ名を入力し、“Go” をクリックする。
選択されたラジオ局が入ったお気に入りグループを新たに作成します。
 - vTuner のお気に入りに登録したインターネットラジオ局は、本機の “radiodenon.com” (P.78 ページ) から再生できます。



vTuner のリストにないラジオ局を追加することもできます。



パソコンやNASに保存されているファイルを再生する



- 本機では、パソコンや DLNA 対応のネットワーク接続ストレージ(NAS)に保存されている音楽ファイルやプレイリスト(m3u、wpl)を再生できます。
- 本機のネットワークオーディオ再生機能では、次の技術を利用してサーバーに接続します。
Windows Media Player Network Sharing Service
- 本機で再生できる音声/画像フォーマットの種類は、次のとおりです。
詳しくは、「パソコンやNASに保存されているファイルの再生について」(P.212ページ)をご覧ください。

- WMA (Windows Media Audio)
- MP3 (MPEG-1 Audio Layer-3)
- WAV
- MPEG-4 AAC
- FLAC (Free Lossless Audio Codec)
- ALAC (Apple Lossless Audio Codec)
- AIFF
- DSD
- JPEG



メディアの共有設定をおこなう

パソコンや NAS に保存されている音楽ファイルをネットワーク上で共有するための設定をおこないます。メディアサーバーを使用する場合は、あらかじめ必ずこの設定をおこなってください。

■ Windows Media Player 12(Windows 7/Windows 8)を使用する場合

- 1 パソコンで Windows Media Player 12 を起動する。
- 2 “ストリーム” から “その他のストリーミング オプション...” を選ぶ。
- 3 “Denon AVR-X1100W” のドロップダウンリストで “許可” を選ぶ。
- 4 “この PC とリモート接続のメディアプログラム...” のドロップダウンリストで “許可” を選ぶ。
- 5 画面に従い、設定を終了する。

■ Windows Media Player 11 を使用する場合

- 1 パソコンで Windows Media Player 11 を起動する。
- 2 “ライブラリ” から “メディアの共有” を選ぶ。
- 3 “メディアを共有する” をチェックして “Denon AVR-X1100W” を選び、“許可” をクリックする。
- 4 手順 3 と同様に、メディアコントローラーとして使用したい機器(他のパソコンやモバイル端末)のアイコンを選び、“許可” をクリックする。
- 5 “OK” をクリックして終了する。

■ NAS に保存したメディアを共有する

本機およびメディアコントローラーとして使用したい機器(他のパソコンやモバイル端末)が NAS にアクセスできるように NAS の設定を変更してください。詳しくは、ご使用の NAS の取扱説明書をご覧ください。



パソコンやNASに保存されているファイルを再生する

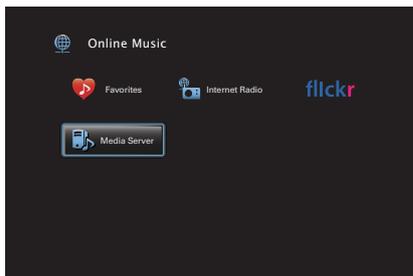
音楽ファイル、画像ファイルおよびプレイリストを再生できます。

1 再生の準備をする。

- ① ネットワーク環境を確認してから、本機の電源を入れる。
(「ホームネットワーク(LAN)に接続する」(P.50 ページ))
- ② パソコンの準備をする。(P. パソコンの取扱説明書)

2 ONLINE MUSIC を押す。

3 △▽◀▶を押して“Media Server”を選び、ENTERを押す。



4 △▽を押して再生したいファイルのあるサーバーを選び、ENTERを押す。

5 ▼△▶を押してファイルを選び、ENTERを押す。 バッファリングが“100%”表示になると、再生がはじまります。

操作ボタン	機能
▶/	再生/一時停止
◀◀▶▶	前の曲にスキップ/次の曲にスキップ (長押し)早戻し/早送り
ENTER	再生/一時停止 (長押し)停止
△▽	前の曲にスキップ/次の曲にスキップ (長押し)早戻し/早送り
PAGE ▲▼	リストを表示中に、前のページへ移動/次のページへ移動





- 本体の STATUS を押すたびにタイトル名、アーティスト名およびアルバム名を切り替えて表示します。
- WMA (Windows Media Audio)、MP3、MPEG-4 AAC のファイルで、アルバムアートのデータを持っている場合は、音楽ファイルを再生中にアルバムアートを表示できます。
- WMA ファイルのアルバムアートは、Windows Media Player (バージョン 11 以上) を使用することで表示できます。
- Windows Media Player (バージョン 11 以上) などのトランスコードに対応したサーバーをご使用になる場合は、WMA Lossless ファイルを再生できます。
- 本機では、フォルダに保存されている画像の向きで静止画像 (JPEG) ファイルを再生します。

ご注意

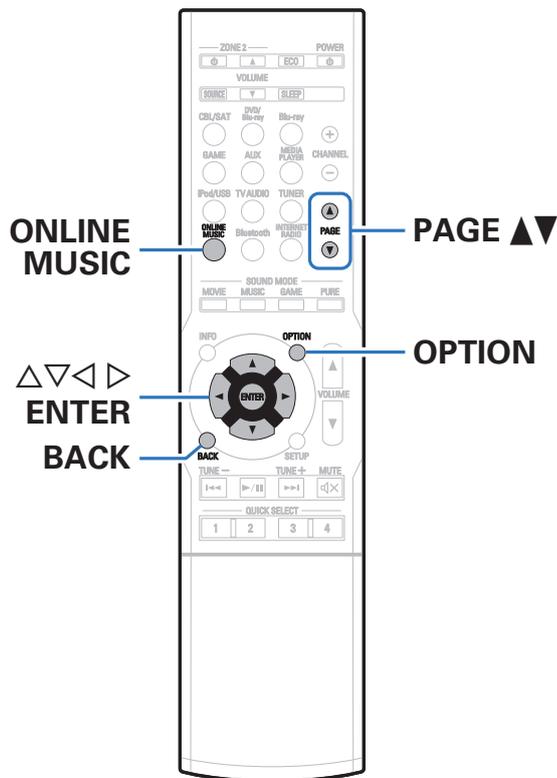
- 無線 LAN を経由して接続されたパソコンまたは NAS で音楽ファイルを再生すると、無線 LAN 環境によっては音声途切れることがあります。この場合は、有線 LAN で接続してください。
- 静止画像 (JPEG) ファイルのサイズによっては、画像が表示されるまでに時間がかかる場合があります。
- 曲の表示順は、サーバーの仕様によって異なります。サーバーの仕様によって、曲の表示順がアルファベット順にならない場合は、頭文字での検索が正しく動作しないことがあります。

■ オプションメニューでできる操作

- 「リピート再生をする」([図 93 ページ](#))
- 「ランダム再生をする」([図 93 ページ](#))
- 「キーワードでコンテンツを検索する (テキスト検索)」([図 95 ページ](#))
- 「音楽とお好みの写真を同時に再生する (スライドショー)」([図 96 ページ](#))
- 「スライドショーの再生間隔を設定する」([図 97 ページ](#))
- 「入力ソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する (チャンネルレベル調節)」([図 98 ページ](#))
- 「トーンを調節する (トーンコントロール)」([図 99 ページ](#))
- 「音声の再生中にお好みの映像をモニターに映す (ビデオセレクト)」([図 100 ページ](#))
- 「すべてのゾーンで同じ音楽を再生する (オールゾーンステレオ)」([図 101 ページ](#))



Flickr サイト上の写真を閲覧する

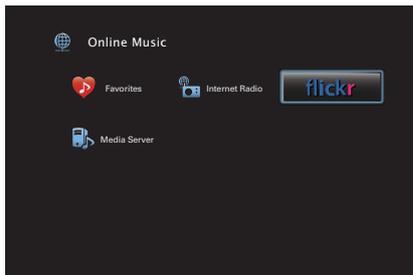


- Flickr はオンラインの写真共有サービスです。本機では、Flickr ユーザーが公開した写真を閲覧できます。アカウントは必要ありません。自分で撮影した写真を Flickr のサーバーにアップロードするためにはアカウントが必要です。詳しくは、Flickr のホームページをご覧ください。
<http://www.flickr.com/>
- 任意のユーザーが共有している写真や Flickr 上のすべての写真を閲覧できます。



任意のユーザーが共有している写真を閲覧する

- 1 再生の準備をする。
 - ネットワーク環境を確認してから、本機の電源を入れます。(「ホームネットワーク(LAN)に接続する」(P.50 ページ))
- 2 ONLINE MUSIC を押す。
- 3 $\Delta \nabla \triangleleft \triangleright$ を押して “Flickr” を選び、ENTER を押す。



- 4 $\Delta \nabla$ を押して “Add Flickr Contact” を選び、ENTER を押す。
- 5 “Contact” に追加したい screen name(スクリーン・ネーム:閲覧したいユーザー名)を入力する。
 - 文字の入力方法については、「キーボード画面で文字を入力する」(P.129 ページ)をご覧ください。
- 6 “Contact” を入力後、“OK” を押す。

screen name が “Contact” に登録され、Flickr のトップ画面に手順 5 で入力した screen name を表示します。

 - 存在しない screen name を入力すると、“入力したコンタクトが見つかりませんでした” を表示します。screen name を確認し、正しく入力してください。
- 7 $\Delta \nabla$ を押して “Contact” に追加した screen name を選び、ENTER を押す。



8 ▲▼ を押してフォルダを選び、ENTER を押す。

Favorites :	ご指定のユーザーのお気に入り写真を表示します。
Photostream :	公開している写真一覧を表示します。
PhotoSets :	フォルダ(写真アルバム)リストを表示します。
Contacts :	ご指定のユーザーがコンタクト登録している screen name を表示します。
Remove this Contact :	ご指定のユーザーをコンタクトから削除します。
Add this Contact :	ご指定のユーザーをコンタクトに追加します。

9 ▲▼▶ を押して写真を選び、ENTER を押す。 選択した写真を表示します。

操作ボタン	機能
ENTER	再生 (長押し)停止
▲ ▼	前の写真を表示/次の写真を表示
PAGE ▲ ▼	リストを表示中に、前のページへ移動/次のページへ移動



Flickr 上のすべての写真を閲覧する

1 △▽を押して“All Content”を選び、ENTERを押す。

2 △▽を押してフォルダを選び、ENTERを押す。

Interestingness : コメントやお気に入り登録の履歴から、人気のある写真を表示します。

Recent : 最近投稿された写真を表示します。

Search by text : キーワードで写真を検索します。

3 △▽▷を押して写真を選び、ENTERを押す。
選択した写真を表示します。

ご注意

写真のファイルフォーマットによっては、閲覧できないものがあります。

■ オプションメニューでできる操作

- 「スライドショーの再生間隔を設定する」(P.97 ページ)
- 「音声の再生中にお好みの映像をモニターに映す(ビデオセレクト)」(P.100 ページ)
- 「すべてのゾーンで同じ音楽を再生する(オールゾーンステレオ)」(P.101 ページ)

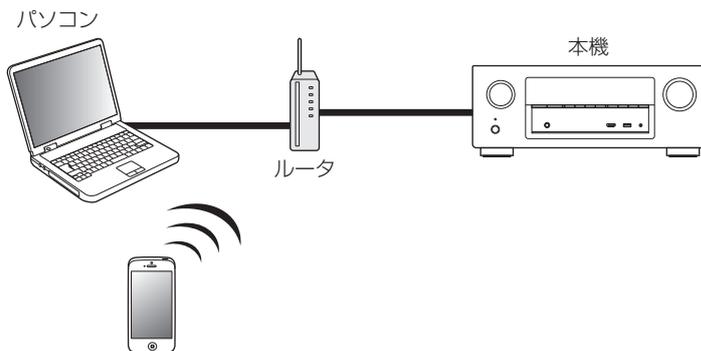


AirPlay 機能

iPhone、iPod touch、iPad や iTunes に保存されている音楽ファイルを、ネットワークを経由して本機で再生できます。



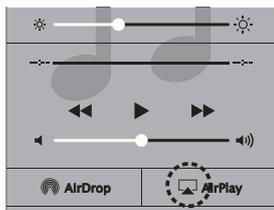
- AirPlay の操作中は、メニュー画面に  を表示します。
- AirPlay の再生を開始すると、本機の入力ソースは自動的に “Online Music” に切り替わります。
- 本機の  を押すか他の入力ソースに切り替えると、AirPlay の再生が停止します。
- 本体の STATUS を押すと、曲名とアーティスト名を確認ができます。
- iTunes の使用方法は、iTunes の “ヘルプ” をご覧ください。
- 画面は、OS やソフトのバージョンによって異なる場合があります。



iPhone、iPod touch、iPad の曲を本機で再生する

iPhone、iPod touch、iPad を iOS 4.2.1 以上にアップデートすると、iPhone、iPod touch、iPad の曲を本機へダイレクトにストリーミングできます。

- 1 iPhone、iPod touch または iPad の Wi-Fi 設定を本機と同じネットワークに接続する。
 - 詳しくは、ご使用の機器の取扱説明書をご覧ください。
- 2 iPhone、iPod touch、iPad の曲を再生する。
iPhone、iPod touch または iPad の画面に  を表示します。
- 3 AirPlay アイコン  をタップする。



- 4 再生したいスピーカー(機器)をクリックする。

iTunes の曲を本機で再生する

- 1 本機と同じネットワークに接続しているパソコンに、iTunes 10 以降をインストールする。
- 2 本機の電源を入れる。
本機の“IP コントロール”( 173 ページ)設定を“常時オン”にしてください。

ご注意

メニューの“IP コントロール”を“常時オン”に設定している場合は、スタンバイ時の待機電力を多く消費します。

- 3 iTunes を起動し、AirPlay アイコン  をクリックして、本機を選ぶ。



- 4 iTunes で曲を選び、再生する。
本機で再生をはじめます。



複数のスピーカー(機器)を選ぶ

ご家庭にある本機以外の AirPlay 対応のスピーカー(機器)で iTunes の曲を再生できます。

- 1 AirPlay アイコン  をクリックして、“複数の”を選ぶ。
- 2 再生したいスピーカー(機器)をクリックする。

ご注意

AirPlay 機能を使用して再生する場合は、iPhone、iPod touch、iPad または iTunes で設定している音量で出力します。
再生する前に、iPhone、iPod touch、iPad または iTunes の音量を最小にしてから適切な音量に調節してください。

本機のリモコンで iTunes の再生操作をおこなう

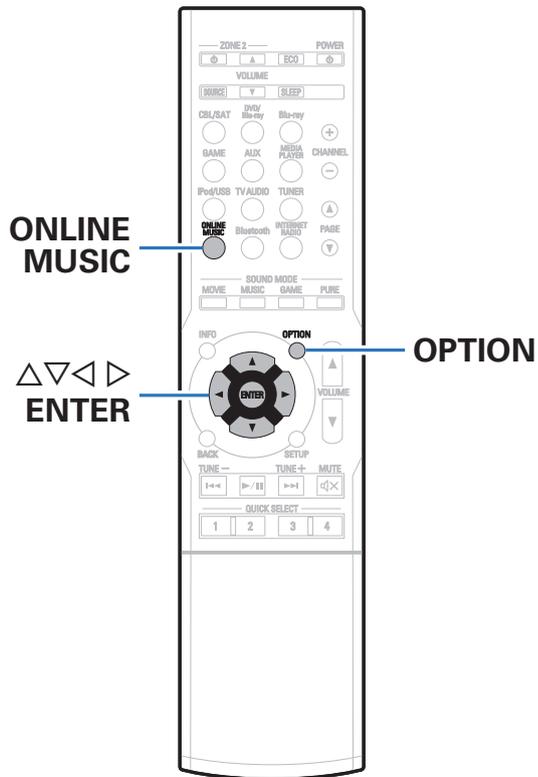
本機のリモコンで、iTunes の曲の再生や一時停止、頭出し操作ができます。

- 1 iTunes のメニューの“編集” - “設定”を選ぶ。
- 2 iTunes の設定のウィンドウで“デバイス”を選ぶ。
- 3 “リモートスピーカーから iTunes のコントロールを許可する”にチェックを入れ、“OK”をクリックする。



便利な機能

ここでは、各入力ソースで使用できる便利な機能の操作方法を説明します。



リピート再生をする

- 対応する入力ソース：
USB / Media Server / Bluetooth

- 1 コンテンツの再生中に **OPTION** を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 2 **△▽** を押して “**リピート**” を選び、**ENTER** を押す。
- 3 **◀▶** を押して、リピート再生モードを選ぶ。

オフ
(お買い上げ時の設定): リピート再生モードを解除します。

1 曲: 再生中の曲をリピート再生します。

すべて: 現在再生中のフォルダにあるすべての曲をリピート再生します。

- 4 **ENTER** を押す。
再生画面に戻ります。



- Bluetooth 機器側が AVRCP プロファイルのリピート設定に対応していない場合は、設定できません。
- “リピート” の設定は、入力ソースごとに記憶します。

ランダム再生をする

- 対応する入力ソース：
USB / Media Server / Bluetooth

- 1 コンテンツの再生中に **OPTION** を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 2 **△▽** を押して “**ランダム**” を選び、**ENTER** を押す。
- 3 **◀▶** を押して、ランダム再生モードを選ぶ。

オフ
(お買い上げ時の設定): ランダム再生モードを解除します。

オン: 現在再生中のフォルダ内にあるすべての曲をランダムに再生します。

- 4 **ENTER** を押す。
再生画面に戻ります。



- ランダム再生すると、曲の再生が終わるたびにフォルダ内の曲からランダムに再生する曲を選択します。そのため、同じ曲を続けて再生する場合があります。
- Bluetooth 機器側が AVRCP プロファイルのランダム設定に対応していない場合は、設定できません。
- “ランダム” の設定は、入力ソースごとに記憶します。



お気に入りに登録する

お気に入りのコンテンツは、合計 100 件まで登録できます。

□ 対応する入力ソース:

Internet Radio / Media Server

- 1 コンテンツの再生中に **OPTION** を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 2 **△▽** を押して “お気に入りに登録” を選び、**ENTER** を押す。
“お気に入りに登録しました” を表示し、再生中のコンテンツをお気に入りに登録します。
 - 登録が完了すると再生画面に戻ります。

“お気に入りに登録” に登録したコンテンツを再生する

- 1 **ONLINE MUSIC** を押す。
- 2 **△▽◀▶** を押して “Favorites” を選び、**ENTER** を押す。



- 3 **△▽** を押して再生したいコンテンツを選び、**ENTER** を押す。
再生をはじめます。



お気に入りに登録したコンテンツを削除する

- 1 ONLINE MUSIC を押す。
- 2 $\Delta \nabla \langle \triangleright$ を押して “Favorites” を選び、ENTER を押す。
- 3 $\Delta \nabla$ を押してお気に入りから削除したいコンテンツを選び、OPTION を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 4 $\Delta \nabla$ を押して “お気に入りから削除” を選び、ENTER を押す。
“お気に入りから削除しました” を表示し、選択したコンテンツをお気に入りから削除します。
 - 削除が完了すると、元の画面に戻ります。

キーワードでコンテンツを検索する(テキスト検索)

- 対応する入力ソース：
USB / Internet Radio / Media Server
- 1 リストを表示中に、OPTION を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
 - 2 $\Delta \nabla$ を押して “テキスト検索” を選び、ENTER を押す。
キーボード入力画面を表示します。
 - 3 検索したいインターネットラジオ局またはファイルの頭文字を入力して、“OK” を押す。
 - 文字の入力方法については、「キーボード画面で文字を入力する」(P.129 ページ)をご覧ください。
 - 4 $\Delta \nabla$ を押して再生したいコンテンツを選び、ENTER を押す。
再生をはじめます。
-  “テキスト検索” では表示されているリストの中からインターネットラジオ局またはファイルを検索します。

ご注意

リストによっては、テキスト検索できない場合があります。



音楽とお好みの写真を同時に再生する(スライドショー)

□ 対応する入力ソース:USB

- 1 静止画像を再生する。
 - USB メモリーの静止画像を再生する。
([図62 ページ](#))
- 2 音楽ファイルを再生する。
([図62 ページ](#))
- 3 OPTION を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 4 Δ / ∇ を押して“スライドショー”を選び、ENTER を押す。
オプションメニュー画面が消灯し、再生していた写真を表示します。

□ 対応する入力ソース: Internet Radio / Media Server

- 1 静止画像を再生する。
 - メディアサーバー内の静止画像を再生する。
([図81 ページ](#))
 - Flickr の静止画像を再生する。
([図85 ページ](#))
- 2 メディアサーバー内の音楽ファイルを再生するか、インターネットラジオ局を再生する。
([図77,81 ページ](#))
- 3 OPTION を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 4 Δ / ∇ を押して“スライドショー”を選び、ENTER を押す。
オプションメニュー画面が消灯し、再生していた写真を表示します。



スライドショーの再生間隔を設定する

USB メモリーやメディアサーバーに保存された静止画像 (JPEG) ファイルおよび Flickr サイト上の写真のスライドショーを再生するときの再生間隔を設定します。

□ 対応する入力ソース:

USB / Media Server / Flickr

- 1 リストを表示中に、**OPTION** を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 2 **△▽** を押して “スライドショーの再生間隔” を選び、**ENTER** を押す。
- 3 **◀▶** を押して、表示時間を設定する。

オフ:	スライドショーの再生をしません。
5s~60s	スライドショーで再生するときの画像 (お買い上げ時の設定: 5s): 1 枚あたりの表示時間を設定します。
- 4 **ENTER** を押す。



“スライドショーの再生間隔” の設定は、すべての入力ソースに反映しません。



入力ソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する(チャンネルレベル調節)

音楽を聴きながら、各チャンネルの音量を変更することができます。入力ソースごとに設定できます。

- 1 **OPTION** を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 2 **△▽** を押して“チャンネルレベル調節”を選び、**ENTER** を押す。
チャンネルレベルの調整画面を表示します。
- 3 **△▽** を押して、調整したいチャンネルを選ぶ。
- 4 **◀▶** を押して音量を調整する。

-12.0 dB~+12.0 dB(お買い上げ時の設定:0 dB)



- 各チャンネルの調整値を“0dB”(お買い上げ時の設定)に戻したい場合は、“はい”を選び ENTER を押してください。
- ヘッドホン接続時には、ヘッドホン用の音量を調節できます。
- “チャンネルレベル調節”の設定は、入力ソースごとに記憶します。
- 音声を出力しているスピーカーのみ設定できます。また、メニューの“HDMI オーディオ出力”(P.142 ページ)の設定が“TV”の場合は設定できません。



トーンを調節する(トーンコントロール)

トーンを調節します。

- 1 **OPTION** を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 2 **△▽** を押して“トーンコントロール”を選び、**ENTER** を押す。
トーンコントロール画面を表示します。
- 3 **◀▶** を押して、トーンコントロール機能のオン/オフを設定する。

オン: 低音や高音のトーンを調節できます。

オフ
(お買い上げ時の設定): トーンを調節せずに再生します。

- 4 手順3で“オン”を選び、**▽**を押して調節する音域を選ぶ。

低音: 低音を調節します。

高音: 高音を調節します。

- 5 **◀▶** を押してトーンを調節し、**ENTER** を押す。

-6 dB~+6 dB(お買い上げ時の設定:0 dB)



- “トーンコントロール”の設定は、各入力ソースごとに記憶します。
- サウンドモードが“Direct”のときは設定できません。
- メニューの“Dynamic EQ”(P.138ページ)の設定が“オン”のときは、設定できません。
- 音声信号が入力されていない場合、またはメニューの“HDMI オーディオ出力”(P.142ページ)の設定が“TV”の場合は設定できません。



音声の再生中にお好みの映像をモニターに映す(ビデオセレクト)

本機では音声の再生中に別のソースの映像をテレビに映すことができます。入力ソースごとに設定できます。

□ 対応する入力ソース：
iPod/USB / Tuner / Online Music / Bluetooth

- 1 音声の再生中に、OPTION を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 2 Δ ∇ を押して“ビデオセレクト”を選び、ENTER を押す。
- 3 \triangleleft \triangleright を押して、ビデオセレクトモードを選ぶ。

オフ (お買い上げ時の設定):	ビデオセレクトモードが無効です。
オン:	ビデオセレクトモードが有効です。

- 4 手順3で“オン”を選び、 ∇ を押して“ソース選択”を選ぶ。
- 5 \triangleleft \triangleright を押して再生したい映像の入力ソースを選び、ENTER を押す。



“ビデオセレクト”の設定は、入力ソースごとに記憶します。



すべてのゾーンで同じ音楽を再生する (オールゾーンステレオ)

メインゾーンで再生している音楽をゾーン2(別の部屋)でも同時に再生できます。

ホームパーティーのときに各部屋で同時に同じ音楽を楽しみたい場合や、家全体でBGMを流したい場合に便利です。

- 1 **OPTION** を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 2 **△▽** を押して“オールゾーンステレオ”を選び、**ENTER** を押す。
- 3 “スタート”を選び、**ENTER** を押す。
ゾーン2の入カソースがメインゾーンと同じ入力ソースに切り替わり、オールゾーンステレオモードで再生をはじめます。

■ オールゾーンステレオモードを解除する

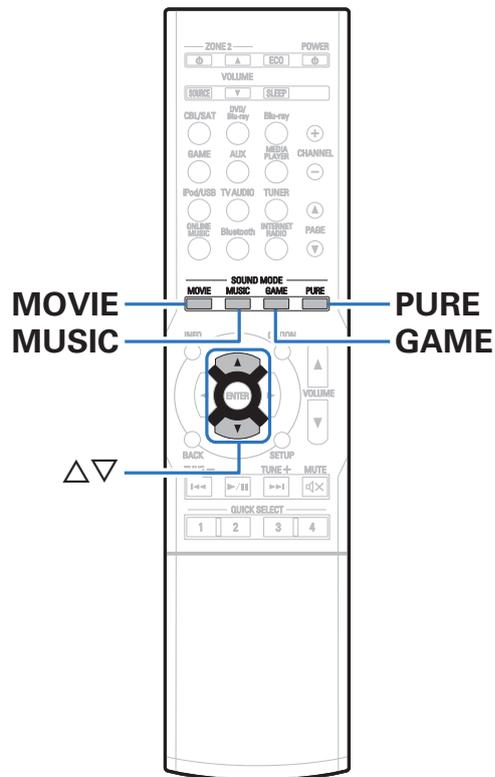
- 1 オールゾーンステレオモードで再生中に、**OPTION** を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 2 **△▽** を押して“オールゾーンステレオ”を選び、**ENTER** を押す。
- 3 “ストップ”を選び、**ENTER** を押す。



- メインゾーンの電源をオフにしたときも“オールゾーンステレオ”モードを解除します。
- “オールゾーンステレオ”モード中は、サウンドモードの“Multi Ch Stereo”および“Stereo”のみ選択できます。
- メニューの“HDMI オーディオ出力”(142ページ)の設定が“TV”の場合は、オールゾーンステレオモードを使用できません。



サウンドモードを選ぶ



本機ではさまざまなサラウンド再生やステレオ再生をお楽しみいただけます。

ブルーレイディスクやDVDはもちろん、デジタル放送やネット配信の映画や音楽の多くのコンテンツには、マルチチャンネルの音声フォーマットが採用されています。

本機では、それらのマルチチャンネル音声フォーマットの再生に対応しています。また、2チャンネルステレオ音声などのマルチチャンネル音声以外の音声フォーマットもサラウンド再生ができます。



ディスクに収録されている音声フォーマットは、ディスクのジャケットをご覧ください。



サウンドモードを選ぶ

1 MOVIE、MUSIC または GAME を押して、サウンドモードを選ぶ。

MOVIE: サウンドモードを映画やテレビ番組の再生に適したモードに切り替えます。

MUSIC: サウンドモードを音楽の再生に適したモードに切り替えます。

GAME: サウンドモードをゲームの再生に適したモードに切り替えます。

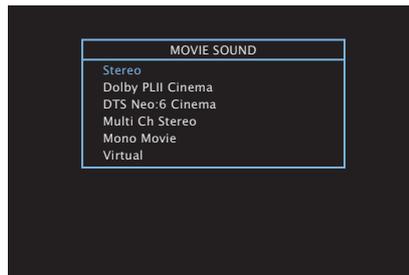


- MOVIE、MUSIC または GAME のボタンには、それぞれのボタンで最後に選択したサウンドモードを記憶します。MOVIE、MUSIC または GAME を押すと、前回再生したときと同じサウンドモードを呼び出します。
- 前回選択したサウンドモードに対応していないコンテンツを再生した場合は、そのコンテンツにとって最もスタンダードなサウンドモードを自動的に選択します。

■ サウンドモードを切り替える

- MOVIE、MUSIC または GAME を押すと、それぞれのモードの選択できるサウンドモードを表示します。MOVIE、MUSIC または GAME を押すたびに、サウンドモードが切り替わります。
- この一覧を表示中に Δ / ∇ を押ししても、サウンドモードを選択できません。
- さまざまなサウンドモードをお試しいただいた中から、最も好みのサウンドモードをお楽しみください。

【例】MOVIE を押したとき



本機では、ディスクに収録されている Dolby や DTS などのフォーマットごとのサラウンド再生だけでなく、フロントハイトスピーカーやサラウンドバックスピーカーなど、ご使用のスピーカー環境に合わせた拡張タイプのサウンドモードや、Rock Arena、Jazz Club などの雰囲気表現したサラウンド再生をおこなうオリジナルサウンドモードが選択できます。



ダイレクト再生

ソースに収録されている音声のまま再生します。

- 1 PURE を押して、“Direct” を選ぶ。
ダイレクト再生をはじめます。



ダイレクト再生モードのとき、次の設定はできません。

- トーンコントロール (P.99 ページ)
- リストアラー (P.135 ページ)
- MultEQ® XT (P.138 ページ)
- Dynamic EQ (P.138 ページ)
- Dynamic Volume (P.139 ページ)
- マニュアル EQ (P.140 ページ)

オートサラウンド再生

このモードでは、入力されるデジタル信号の種類を検出し、自動的にそれぞれに対応した再生モードに切り替えます。入力信号が PCM の場合は、ステレオ再生をおこないます。入力信号が Dolby Digital や DTS の場合は、それぞれのチャンネル数に応じた再生をおこないます。

- 1 PURE を押して、“Auto” を選ぶ。
オートサラウンド再生をはじめます。



■ サウンドモードの種類について

ドルビーサウンドモード

サウンドモードの種類	説明
Dolby PLIIx*1	Dolby PLIIx デコーダーを使用して、2 チャンネルソースをサラウンドバックチャンネルを加えた 6.1/7.1 チャンネルのサラウンドサウンドで再生するモードです。 サラウンドバックチャンネルによって、Dolby Pro Logic II に比べ、より包囲感が向上します。映画再生に適した “Cinema” モード、音楽再生に適した “Music” モードおよびゲームに最適な “Game” モードがあります。
Dolby PLII	Dolby PLII デコーダーを使用して、2 チャンネルソースを自然で臨場感のある 5.1 チャンネルのサラウンドサウンドで再生するモードです。
Dolby PLIIz*2	Dolby PLIIz デコーダーを使用して、2 チャンネルソースをフロントハイトチャンネルを加えた 7.1 チャンネルのサラウンドサウンドで再生するモードです。 フロントハイトチャンネルの追加によって垂直方向の表現が豊かになり、立体感が向上します。
Dolby Digital	Dolby Digital で収録されたディスクの再生に適したモードです。
Dolby Digital EX*1	Dolby Digital EX デコーダーを使用して、Dolby Digital ソースをサラウンドバックチャンネルを加えた 6.1/7.1 チャンネルのサラウンドサウンドで再生するモードです。 サラウンドバックチャンネルが加わることにより、空間表現力や定位感が向上します。
Dolby TrueHD	Dolby TrueHD で収録されたディスクの再生に適したモードです。
Dolby Digital Plus	Dolby Digital Plus で収録されたディスクの再生に適したモードです。

*1 メニューの “スピーカーの構成” - “サラウンドバック” (163 ページ) の設定が “無し” 以外のときに選択できます。

*2 メニューの “スピーカーの構成” - “フロントハイト” (163 ページ) の設定が “無し” 以外のときに選択できます。



DTS サウンドモード

サウンドモードの種類	説明
DTS Neo:6	DTS Neo:6 デコーダーを使用して、2 チャンネルソースをサラウンドバックチャンネルを含んだ 6.1/7.1 チャンネルのサラウンドサウンドで再生するモードです。 映画再生に適した“Cinema”モードと、音楽再生に適した“Music”モードがあります。
DTS Surround	DTS で収録されたディスクの再生に適したモードです。
DTS ES Dscrt6.1*	DTS-ES で収録されたディスクの再生に適したモードです。 ディスクリット方式で追加されたサラウンドバックチャンネルを独立したチャンネルとして再生します。 すべてのチャンネルが独立しているため、360 度の空間表現力や定位感が拡大します。
DTS ES Mtrx6.1*	DTS-ES で収録されたディスクの再生に適したモードです。 ソフトを収録時、マトリクスエンコードにより、サラウンド左/サラウンド右チャンネルに追加されたサラウンドバックチャンネルを本機のマトリクスデコーダーによってサラウンド左/サラウンド右/サラウンドバックの各チャンネルにデコードして再生します。
DTS 96/24	DTS 96/24 で収録されたディスクの再生に適したモードです。
DTS-HD	DTS-HD で収録されたディスクの再生に適したモードです。
DTS Express	DTS Express で収録されたディスクの再生に適したモードです。

* メニューの“スピーカーの構成” - “サラウンドバック”(P.163 ページ)の設定が“無し”以外のときに選択できます。

PCM マルチチャンネルサウンドモード

サウンドモードの種類	説明
Multi Ch In	このモードは、マルチチャンネルの PCM ソースを再生しているときに選択できます。



AAC サウンドモード

サウンドモードの種類	説明
MPEG2 AAC	このモードでは、地上デジタル放送や BS デジタル放送などで MPEG-2 AAC が配信されているときに選択できます。MPEG-2 AAC により高音質の音楽番組やマルチチャンネル音声の映画など、臨場感あふれるサラウンド再生が楽しめます。

オリジナルサウンドモード

サウンドモードの種類	説明
Multi Ch Stereo	ステレオサウンドをすべてのスピーカーで楽しむモードです。フロントスピーカー(左/右)と同じ音声を、サラウンドスピーカー(左/右)およびサラウンドバックスピーカー(左/右)からそれぞれ再生します。
Rock Arena	アリーナのライブコンサートの雰囲気を楽しむモードです。
Jazz Club	ライブハウスでのコンサートの雰囲気を楽しむモードです。
Mono Movie	モノラルの映画ソースをサラウンドサウンド再生するモードです。モノラル録音ソースを“Mono Movie”モードで再生する場合、片チャンネル(左または右)では音声が片寄るため、両チャンネルに入力してください。
Video Game	ビデオゲームのサラウンドサウンド再生に適したモードです。
Matrix	ステレオの音楽ソースに広がり感を加えて楽しむモードです。
Virtual	フロントスピーカーやヘッドホンでサラウンド効果を楽しむモードです。



オートサウンドモード

サウンドモードの種類	説明
Auto	このモードでは、Dolby Digital、Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus、Dolby Digital EX、DTS、DTS-HD、DTS-ES、PCM (マルチチャンネル) など、入力されるデジタル信号の種類を検出し、自動的にそれぞれに対応した再生モードに切り替えます。 入力信号がアナログや PCM (2 チャンネル) の場合は、ステレオ再生をおこないません。Dolby Digital や DTS の場合は、それぞれのチャンネル数に応じた再生をおこないます。

ステレオサウンドモード

サウンドモードの種類	説明
Stereo	サラウンド処理をおこなわずに 2 チャンネルステレオ音声を再生するモードです。 <ul style="list-style-type: none"> フロントスピーカー (左/右) とサブウーハーから音声を出力します。 マルチチャンネル信号を入力しているときは、2 チャンネルの音声にダウンミックスして再生します。

ダイレクトサウンドモード

サウンドモードの種類	説明
Direct	ソースに収録されている音声のまま再生するモードです。



■ 入力信号ごとに選択できるサウンドモード

- MOVIE、MUSIC または GAME ボタンで、次のサウンドモードを選択できます。
- メニューの“サラウンドパラメーター” (P.131 ページ) で音場効果を調節すると、より好みのサウンドでお楽しみいただけます。

入力信号	サウンドモード	MOVIE ボタン	MUSIC ボタン	GAME ボタン
2 チャンネル *1	Stereo	○	○	○
	Dolby PLII/IIx Cinema *2	○		
	Dolby PLII/IIx Music *2		○	
	Dolby PLII/IIx Game *2			○
	Dolby PLII/IIz *2	○	○	○
	DTS Neo:6 Cinema *2	○		
	DTS Neo:6 Music *2		○	
	Multi Ch Stereo	○	○	○
	Mono Movie	○		
	Rock Arena		○	
	Jazz Club		○	
	Matrix		○	
	Video Game			○
	Virtual	○	○	○

*1 2 チャンネルには、アナログ入力も含まれます。

*2 2 チャンネルソースを 5.1 または 7.1 チャンネルで再生するモードです。ヘッドホン使用時やスピーカー構成がフロントスピーカーのみの場合は選択できません。



入力信号	サウンドモード	MOVIE ボタン	MUSIC ボタン	GAME ボタン	
マルチチャンネル *3	Stereo	○	○	○	
	Dolby Digital	Dolby Digital	○	○	○
		Dolby Digital EX	○	○	○
		Dolby Digital + PLIIx Cinema	○		
		Dolby Digital + PLIIx Music		○	
		Dolby Digital + PLIIz	○	○	○
	Dolby TrueHD	Dolby TrueHD	○	○	○
		Dolby TrueHD + EX	○	○	○
		Dolby TrueHD + PLIIx Cinema	○		
		Dolby TrueHD + PLIIx Music		○	
		Dolby TrueHD + PLIIz	○	○	○
	Dolby Digital Plus	Dolby Digital Plus	○	○	○
		Dolby Digital Plus + EX	○	○	○
		Dolby Digital Plus + PLIIx Cinema	○		
		Dolby Digital Plus + PLIIx Music		○	
		Dolby Digital Plus + PLIIz	○	○	○
	DTS	DTS Surround	○	○	○
		DTS ES Dscrt 6.1	○	○	○
		DTS ES Mtrx 6.1	○	○	○
		DTS 96/24	○	○	○
		DTS + PLIIx Cinema	○		
		DTS + PLIIx Music		○	
		DTS + PLIIz	○	○	○
		DTS + Neo:6	○	○	○

*3 入力信号の音声フォーマットやチャンネル数によっては、選択できるサウンドモードが異なります。詳しくは、「入力信号の種類と対応するサウンドモード」(P.218 ページ)をご覧ください。

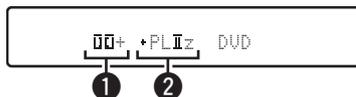


入力信号	サウンドモード	MOVIE ボタン	MUSIC ボタン	GAME ボタン
DTS-HD/ DTS Express	DTS-HD Hi Res	○	○	○
	DTS-HD Mstr	○	○	○
	DTS Express	○	○	○
	DTS-HD + PLIIx Cinema	○		
	DTS-HD + PLIIx Music		○	○
	DTS-HD + PLIIz	○	○	○
	DTS-HD + Neo:6	○	○	
PCM マルチチャンネル	Multi Ch In	○	○	○
	Multi Ch In 7.1	○	○	○
	Multi In + Dolby EX	○	○	○
	Multi In + PLIIx Cinema	○		
	Multi In + PLIIx Music		○	
	Multi In + PLIIz	○	○	○
MPEG-2 AAC	MPEG2 AAC	○	○	○
マルチチャンネル *3	Multi Ch Stereo	○	○	○
	Mono Movie	○		
	Rock Arena		○	
	Jazz Club		○	
	Matrix		○	
	Video Game			○
	Virtual	○	○	○

*3 入力信号の音声フォーマットやチャンネル数によっては、選択できるサウンドモードが異なります。詳しくは、「入力信号の種類と対応するサウンドモード」(P.218 ページ)をご覧ください。



■ ディスプレイの表示について



① 使用するデコーダーをあらわします。

- Dolby Digital Plus デコーダーの場合は、“Dolby Digital Plus” と表示します。

② 音声を生成するデコーダーをあらわします。

- “+ PLIIz” は PLIIz デコーダーを使用して、フロントハイトチャンネルの音声を生成していることをあらわします。



HDMIコントロール機能

本機と HDMI コントロール機能対応のテレビやプレーヤーを HDMI ケーブルで接続し、各機器の HDMI コントロール機能の設定を有効にすると、機器間で相互に制御できます。

設定のしかた

- 1 本機の HDMI コントロール機能を有効にする。
メニューの“HDMI コントロール”(P.143 ページ)を“オン”に設定してください。
- 2 HDMI ケーブルで接続しているすべての機器の電源を入れる。
- 3 HDMI ケーブルで接続しているすべての機器の HDMI コントロール機能を有効にする。
 - 接続している機器の設定については、各機器の取扱説明書をご覧ください。
 - いずれかの機器の電源プラグを抜いた場合は、手順 2、3 をおこなってください。
- 4 テレビの入力を、本機に接続した HDMI 入力に切り替える。
- 5 本機の入力ソースを切り替えて、HDMI 接続しているプレーヤーの映像が正しく映ることを確認する。
- 6 テレビの電源をスタンバイにすると、本機とプレーヤーの電源もスタンバイになることを確認する。

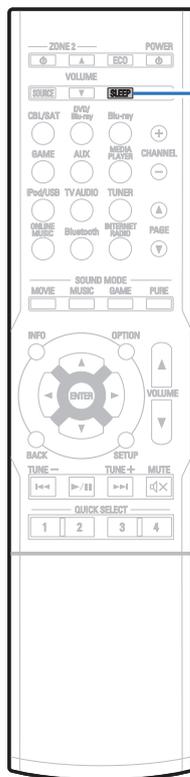
ご注意

接続しているテレビやプレーヤーによっては、動作しない機能があります。あらかじめ各機器の取扱説明書をご覧ください。



スリープタイマー機能

設定した時間が経過すると、自動的に電源をスタンバイにすることができます。視聴しながら、おやすみになるときに便利です。



SLEEP



スリープタイマーを設定する

1 SLEEP を押して、スリープ時間を設定する。

- ディスプレイの SLEEP 表示が点灯して、スリープタイマーがはじまります。
- スリープタイマーは、10～120 分の範囲で 10 分ごとに設定できます。

■ 残り時間を確認する

スリープタイマー中に SLEEP を押す。
ディスプレイに残り時間を表示します。

■ スリープタイマーを解除する

SLEEP を押して、“Off” を選ぶ。
ディスプレイの SLEEP 表示が消灯します。



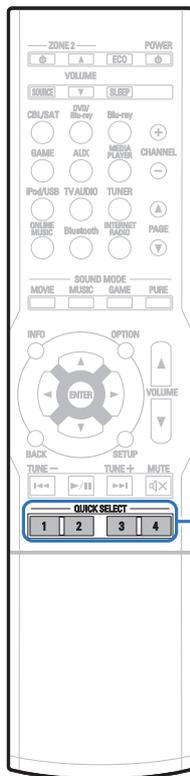
本機の電源がスタンバイになると、スリープタイマーの設定を解除します。

ご注意

スリープタイマー機能では、本機に接続した機器の電源は切れません。接続した機器の電源を切る場合は、接続した機器側でスリープタイマーの設定をおこなってください。



クイックセレクトプラス機能



QUICK SELECT
1 - 4

QUICK SELECT 1~4 ボタンに入カソース、音量レベル、サウンドモードの設定など記憶できます。

次に再生するときは、登録してある QUICK SELECT ボタンを押すだけで、記憶しているさまざまな設定を一度に切り替えることができます。

よく使う設定を QUICK SELECT 1~4 ボタンに記憶させておくと、常に同じ再生環境を簡単に呼び出してお楽しみいただくことができます。



本体の QUICK SELECT ボタンでは、メインゾーンのみ操作できます。



設定を呼び出す

1 QUICK SELECT を押す。

押したボタンに記憶している設定内容を呼び出します。

- お買い上げ時の入力ソースおよび音量の設定は、次のとおりです。

【メインゾーン】

ボタン	入力ソース	音量
QUICK SELECT 1	CBL/SAT	40
QUICK SELECT 2	DVD/Blu-ray	40
QUICK SELECT 3	Media Player	40
QUICK SELECT 4	Online Music	40



設定を変更する

1 次の内容を記憶させたい状態にする。

MAIN ZONE では次の①～⑦の設定を記憶することができます。

- ① 入力ソース(🔗54 ページ)
- ② 音量(🔗55 ページ)
- ③ サウンドモード(🔗102 ページ)
- ④ Audyssey(Audyssey MultEQ® XT, Audyssey Dynamic EQ®, Audyssey Dynamic Volume®)
(🔗137～139 ページ)
- ⑤ 「リストアラー」(🔗135 ページ)
- ⑥ 「入力ソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する
(チャンネルレベル調節)」(🔗98 ページ)
- ⑦ 「音声の再生中にお好みの映像をモニターに映す(ビデオ
セレクト)」(🔗100 ページ)



次の入力ソースで、ラジオの受信中や曲の再生中に、QUICK SELECT を長押しすると、受信中のラジオ局または再生中の曲を記憶します。

- Tuner / Internet Radio / Media Server / Favorites / iPod/USB

2 ディスプレイに“Quick* Memory”が表示されるまで、変更したい QUICK SELECT を長押しする。

現在の設定を記憶します。

* は押された QUICK SELECT の数字を表示します。

■ クイックセレクト名を変更する

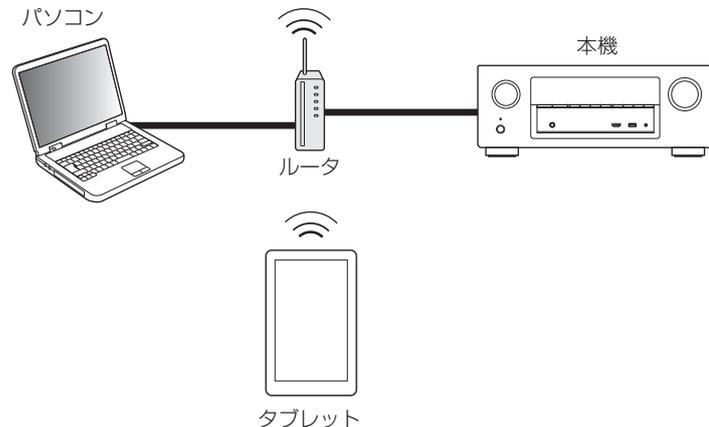
本機では、テレビ画面や本体のディスプレイに表示する MAIN ZONE のクイックセレクト名をお好みの名前に変更できます。

変更のしかたは、メニューの“クイックセレクト名の変更”
(🔗178 ページ)をご覧ください。



ウェブコントロール機能

ブラウザに表示されるウェブコントロール画面を使用して、本機を操作できます。



- ウェブコントロール機能をご使用になるには、本機とパソコン、またはタブレットが同じネットワークに正しく接続されている必要があります。([ホームネットワーク(LAN)に接続する]([P.50](#) ページ))
- セキュリティソフトなどの設定により、パソコンから本機にアクセスできないことがあります。そのような場合には、セキュリティソフトの設定を変更してください。

ウェブコントロール機能で本機をコントロールする

- 1 メニューの“IPコントロール”の設定を“常時オン”にする。(P.173 ページ)
- 2 メニューの“情報”で、本機の IP アドレスを確認する。(P.169 ページ)



- 3 ブラウザを起動する。

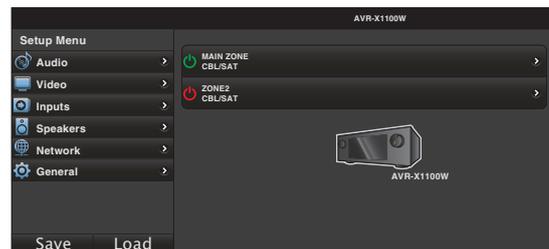


4 ブラウザのアドレスに、本機の IP アドレスを入力する。

例えば、本機の IP アドレスが“192.168.100.19”の場合は、“http://192.168.100.19”と入力してください。



5 トップメニューが表示されたら、操作したいメニューをクリックする。



- パソコンからウェブコントロールを使用すると、“Save”および“Load”機能にて本機の各種の設定内容を記憶したり、呼び出したりすることができます。
 - 設定を保存する: Setup Menu 画面の“Save”をクリックする。
 - 設定を呼び出す: Setup Menu 画面の“Load”をクリックする。
- 次のウェブブラウザを使用することをおすすめします。
 - Internet Explorer 10 以上
 - Mozilla Firefox 24 以上
 - Google Chrome 29 以上
 - Safari 5.x 以上

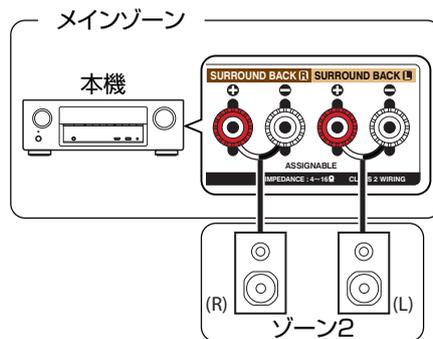


ゾーン2(別の部屋)での再生

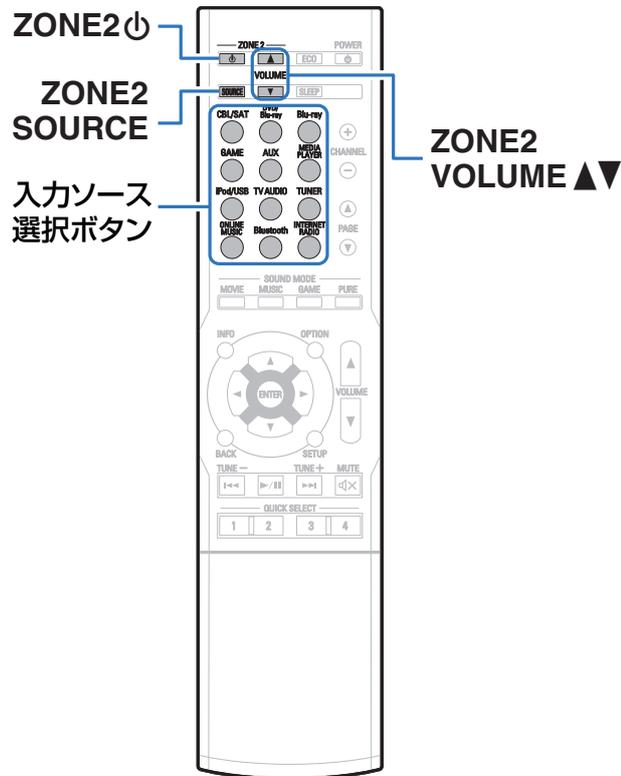
本機を操作して、メインゾーン(本機のある部屋)以外の部屋(ゾーン2)で音声を楽しむことができます。メインゾーン、ゾーン2で同時に同じソースを再生することはもちろん、別々のソースを再生することもできます。

ゾーン2の接続

メニューの“アサインモード”(P.161 ページ)を“ZONE2”に設定すると、SURROUND BACK スピーカー端子からゾーン2の音声を出力します。



ゾーン2で再生する



- 1 ZONE2 電源 を押して、ゾーン2の電源を入れる。
ディスプレイの **Z2** 表示が点灯します。
 - 本体の ZONE2 ON/OFF を押しても、ゾーン2の電源をオン/オフできます。
- 2 ZONE2 SOURCE を押して、再生する入力ソースを選ぶ。
選択した入力ソースの音声を、ゾーン2のスピーカーに出力します。
 - 本体の ZONE2 SOURCE を押してもゾーン2の入力ソースを選択できます。ZONE2 SOURCE を押すたびに、入力ソースが切り替わります。



■ 音量の調節

ZONE2 VOLUME ▲▼ を押して、音量を調節する。

- お買い上げ時は、“音量の上限”を“70(-10 dB)”に設定しています。(p. 177 ページ)



本体の ZONE2 SOURCE を押したあとに MASTER VOLUME を回しても、ゾーン 2 の音量を調節できます。



メニュー 一覧

メニューの操作をおこなうときは、本機にテレビを接続し、テレビ画面を見ながら操作してください。

本機のお買い上げ時の設定は、おすすめの設定にしております。ご使用のシステムやお好みに合わせて本機をカスタマイズすることができます。

設定項目	詳細項目	内容	参照ページ
 オーディオ	ダイアログレベル	映画のせりふを聴きやすくするために、センターチャンネルの音量を調節します。	130
	サブウーハーレベル	サブウーハーの音量を調節します。	130
	サラウンドパラメーター	音場効果を調節します。	131
	リストアラー	MP3 などの圧縮オーディオを再生するときに、低域や高域を拡張して、より豊かな再生をします。	135
	オーディオディレイ	映像と音声のタイミングがずれているときに、音声の出力タイミングを調節します。	136
	音量	メインゾーン(本機のある部屋)の音量に関する設定をします。	136
	バイリンガルモード	AAC ソースやドルビーデジタルの二重音声の出力内容を設定します。	137
	Audyssey	Audyssey MultEQ® XT、Audyssey Dynamic EQ®および Audyssey Dynamic Volume®の設定をします。	137
	マニュアル EQ	グラフィックイコライザーを使用して、各スピーカーの音色を調節します。	140
 ビデオ	HDMI 設定	HDMI の映像/音声出力に関する設定をします。	142
	オンスクリーンディスプレイ	オンスクリーンディスプレイに関する設定をします。	145
	TV フォーマット	ご使用になるテレビに合わせて出力する映像信号方式を設定します。	146

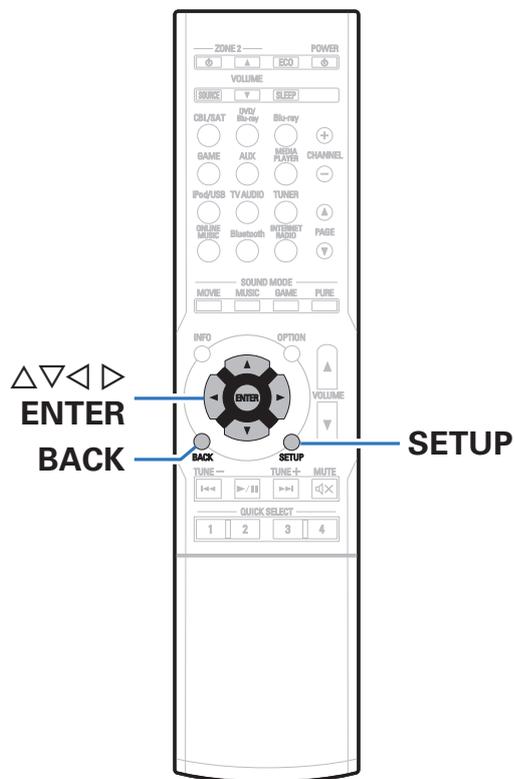


設定項目	詳細項目	内 容	参照ページ
 入力ソース	入力端子の割り当て	入力端子の割り当てを変更します。	147
	入力ソース名の変更	入力ソースの表示名を変更します。	149
	使用ソースの選択	使用しない入力ソースを表示しないように設定します。	149
	ソースレベル	音声入力の再生レベルを補正します。	149
	オーディオ入力端子の選択	入力モードとデコードモードを設定します。	150
 スピーカー	Audyssey®セットアップ	接続されたスピーカーやリスニングルームの音響特性を測定し、最適な設定を自動的におこないます。	151
	マニュアルセットアップ	スピーカーを手動で設定する場合や Audyssey®セットアップで測定した内容を変更するときにおこなってください。	161
 ネットワーク	情報	ネットワークの情報を表示します。	169
	接続	ホームネットワーク (LAN) に有線 LAN で接続するか、無線 LAN で接続するかを設定します。	169
	詳細な設定	IP アドレスを手動で設定したり、プロキシサーバーを使用しているときに設定します。	172
	IP コントロール	電源がスタンバイ状態でのネットワーク機能の設定をします。	173
	フレンドリーネーム	“フレンドリーネーム” とは、ネットワーク上に表示される本機の名称です。お好みの名前に変更できます。	174
	診断	ネットワークの接続を確認します。	174



設定項目	詳細項目	内 容	参照ページ
 一般	言語	テレビ画面に表示する言語を設定します。	175
	エコ設定	エコモードとオートスタンバイの省電力機能の設定をします。	175
	ゾーン2の設定	ゾーン2で再生する音声の設定をします。	177
	ゾーン名の変更	ゾーンの表示名をお好みの名前に変更します。	178
	クイックセレクト名の変更	クイックセレクト名をお好みの名前に変更します。	178
	フロントディスプレイ	本体のディスプレイの明るさを調節します。	178
	情報	本機の設定状態や入力信号などの情報を表示します。	179
	使用状況の送信設定	お客様の使用状況の情報を当社へ送信するかしないかの設定をします。	180
	ファームウェア	アップデートやアップグレードについて、ファームウェアの最新情報の確認や更新の実施、および通知メッセージの表示の設定をします。	181
	セットアップロック	設定した内容を変更できないようにロックします。	183
 セットアップアシスタント	初めから設定を行う	テレビ画面に表示されるガイダンスに沿って、基本的な設置/接続/設定を最初からおこないます。	別冊の「かんたんスタートガイド」の8ページ
	言語の選択	テレビ画面に表示されるガイダンスに沿って、項目ごとに設定をおこないます。	
	スピーカーの設定		
	スピーカーの測定		
	ネットワークの設定		
	入力の設定		





メニュー操作のしかた

- 1 **SETUP** を押す。
テレビ画面にメニューを表示します。
- 2 **Δ▽▶** を押して設定または操作したいメニューを選び、**ENTER** を押す。
- 3 **◀▶** を押して、お好みの設定に変更する。
- 4 **ENTER** を押して、設定を確定する。
 - 前の項目に戻るときは、**BACK** を押してください。
 - メニューを終了するときには、メニュー表示中に **SETUP** を押してください。メニュー表示が消灯します。



文字入力について

本機は、次の画面に表示する名前をお好みに合わせて変更できます。

- プリセットネーム ([174 ページ](#))
- テキスト検索 ([95 ページ](#))
- 入力ソース名の変更 ([149 ページ](#))
- フレンドリーネームの編集 ([174 ページ](#))
- ゾーン名の変更 ([178 ページ](#))
- クイックセレクト名の変更 ([178 ページ](#))
- ネットワーク機能に関する文字入力



キーボード画面で文字を入力する

1 文字の入力をおこなう画面を表示する。

【例】入力ソース名の変更画面



2 $\Delta\nabla\triangleleft\rangle$ を押して、 \leftarrow または \rightarrow を選ぶ。

3 ENTER を押して、変更したい文字にカーソルを合わせる。

- ENTER を押すたびに、カーソルが 1 文字ずつ移動します。

4 $\Delta\nabla\triangleleft\rangle$ を押して入力したい文字を選び、ENTER を押す。

5 手順 2~4 をくり返して、名前を変更する。

6 $\Delta\nabla\triangleleft\rangle$ を押して “OK” を選び、ENTER を押す。



オーディオ

音声に関する設定をします。

ダイアログレベル

センターチャンネルから出力されるせりふを聞きやすくするために出力レベルを調節します。

■ 調節

ダイアログレベルを調節するかしないかを設定します。

オン: ダイアログレベルの調節を有効にします。

オフ
(お買い上げ時の設定): ダイアログレベルの調節を無効にします。

■ レベル

センターチャンネルから出力される音量を調節します。

-12.0 dB~+12.0 dB(お買い上げ時の設定:0.0 dB)

サブウーハーレベル

サブウーハーの音量を調節します。

■ 調節

サブウーハーレベルを調節するかしないかを設定します。

オン: サブウーハーレベルの調節を有効にします。

オフ
(お買い上げ時の設定): サブウーハーレベルの調節を無効にします。

■ サブウーハーレベル

サブウーハーの音量を調節します。

-12.0 dB~+12.0 dB(お買い上げ時の設定:0.0 dB)



サウンドパラメーター

サウンド音声の音場効果をお好みにあわせて調節できます。調節できる項目(パラメーター)は、再生している信号や選択しているサウンドモードによって異なります。調節できる各項目については、「サウンドモードとパラメーター一覧表」(P.215 ページ)をご覧ください。



- 設定項目の中には再生停止中に設定できないものがあります。設定は再生中におこなってください。
- “サウンドパラメーター”の設定は、サウンドモードごとに記憶します。

■ シネマ EQ

映画のせりふの高域成分をやわらげ、聞きやすくします。

オン: “シネマ EQ” を使用します。

オフ
(お買い上げ時の設定): “シネマ EQ” を使用しません。

■ ラウドネスマネージメント

“ダイナミックレンジ圧縮”で設定した内容で出力するか、ディスクに記録されている音声のダイナミックレンジを圧縮せずにそのまま出力するかを設定します。

オン
(お買い上げ時の設定): “ダイナミックレンジ圧縮”の設定および“ダイアログノーマライゼーション” (P.179 ページ)を有効にした内容で出力します。

オフ: “ダイナミックレンジ圧縮”の設定および“ダイアログノーマライゼーション”が無効になり、ディスクに記録されている信号をそのまま出力します。



Dolby TrueHD 信号を入力しているときに設定できます。



■ ダイナミックレンジ圧縮

ダイナミックレンジ(静かな音と大きな音のレベル差)を圧縮します。

オート:	再生するソースによってダイナミックレンジの圧縮を自動でオン/オフします。
弱/中/強:	ダイナミックレンジの圧縮量を設定します。
オフ:	ダイナミックレンジを圧縮しません。



- “オート” は Dolby TrueHD 信号を入力しているときのみ設定できます。
- お買い上げ時の設定は “オフ” です。入力信号が Dolby TrueHD ソースの場合、お買い上げ時の設定は “オート” になります。

■ LFE

低域信号(LFE)レベルを調節します。

-10 dB~0 dB(お買い上げ時の設定:0 dB)



各ソースを正しく再生するために、次の値に設定することをおすすめします。

- Dolby Digital ソース:0 dB
- DTS の映画ソース:0 dB
- DTS の音楽ソース:-10 dB

■ センターイメージ

センターチャンネルから出力されるせりふをフロント左右のチャンネルに振り分け、前方の音場イメージを広げます。

0.0~1.0(お買い上げ時の設定:0.3)



- サウンドモードが DTS Neo:6 の “Music” モードのときに設定できます。
- 数値が小さくなるほど、せりふはセンターチャンネルに集中します。数値が大きくなるほど、フロント左右チャンネルに振り分けられ、前方の音場イメージが広がります。

■ パノラマ

前方の音場を後方へ拡大し、シームレスで包み込むようなサラウンド効果を与えます。

オン: “パノラマ” を使用します。

オフ(お買い上げ時の設定): “パノラマ” を使用しません。



サウンドモードが Dolby PLII/IIIx の “Music” モードのときに設定できます。



■ ディメンション

音場イメージの中心を前方または後方にシフトし、再生バランスを調節します。

0～6(お買い上げ時の設定:3)



- サウンドモードが Dolby PLII/IIx の “Music” モードのときに設定できます。
- 数値が小さくなるほど、サラウンド音場は後方に移動し、数値が大きくなるほど、サラウンド音場は前方に移動します。

■ センター幅

センターチャンネルから出力されるせりふをフロント左右のチャンネルに振り分け、前方の音場イメージを広げます。

0～7(お買い上げ時の設定:3)



- サウンドモードが Dolby PLII/IIx の “Music” モードのときに設定できます。
- 数値が小さくなるほど、せりふはセンターチャンネルに集中します。数値が大きくなるほど、フロント左右チャンネルに振り分けられ、前方の音場イメージが広がります。

■ ディレイタイム

映像に対する音声の遅延時間を調節し、音場イメージを広げます。

0 ms～300 ms(お買い上げ時の設定:30 ms)



サウンドモードが “Matrix” のときに設定できます。

■ エフェクトレベル

音響効果のレベルを調節します。

1～15(お買い上げ時の設定:10)



サラウンド信号の定位感や位相感が不自然に感じる場合は、低いレベルに設定してください。



■ ルームサイズ

音場空間の大きさのイメージを設定します。

小:	小さな音場空間のイメージ
やや小:	やや小さな音場空間のイメージ
標準 (お買い上げ時の設定):	標準的な音場空間のイメージ
やや大:	やや大きな音場空間のイメージ
大:	大きな音場空間のイメージ



“ルームサイズ”は、再生する部屋の大きさをあらわすものではありません。

■ Height ゲイン

フロントハイトチャンネルの音量をコントロールします。

弱:	フロントハイトチャンネルの音量を小さくします。
通常 (お買い上げ時の設定):	フロントハイトチャンネルを標準音量で出力します。
強:	フロントハイトチャンネルの音量を大きくします。



サウンドモードが“PLIIz”または PLIIz のデコーダーを使用しているときに設定できます。

■ サブウーハー

サブウーハー出力のオン/オフを設定します。

オン (お買い上げ時の設定):	サブウーハーを使用します。
オフ:	サブウーハーを使用しません。



サウンドモードが“Direct”または“Stereo”で、メニューの“サブウーハーモード”の設定が“LFE+メイン”のときに設定できます。
([P.167 ページ](#))

■ 初期化

“サラウンドパラメーター”の設定をお買い上げ時の設定に戻します。



リストアラー

MP3、WMA (Windows Media Audio) や MPEG-4 AAC などの圧縮オーディオフォーマットは、人間の耳には聞こえにくい部分の信号を省いてデータ量を減らしています。“リストアラー”は、圧縮処理をするときに省かれた信号を生成し、圧縮する前の音に近い状態に復元する機能です。同時に低音域の量感の補正もおこないますので、圧縮オーディオ信号をより豊かに再生できます。

■ モード

強: 高域が極端に少ない圧縮音声ソースに対して、最適なモードです(64kbps 以下)。

中: 圧縮音声全般に対して、低域と高域を適切に補正します(96kbps 以下)。

弱: 高域が十分にある圧縮音声ソースに対して、最適なモードです(96kbps 以上)。

オフ: “リストアラー” を使用しません。



- アナログ入力や PCM 信号(サンプリング周波数=44.1/48kHz)が入力されたときに設定できます。
- 入力ソースが“Online Music”、“iPod/USB” および“Bluetooth” のときのお買い上げ時の設定は、“弱”です。それ以外の入力ソースのお買い上げ時の設定は、すべて“オフ”です。
- サウンドモードが“Direct” のときは設定できません。
- “リストアラー” の設定は、入力ソースごとに記憶します。



オーディオディレイ

映像と音声のタイミングがずれているときに、音声の出力タイミングを調節します。

0 ms～200 ms(お買い上げ時の設定:0 ms)



“オーディオディレイ”の設定は、入力ソースごとに記憶します。

音量

メインゾーン(本機のある部屋)の音量に関する設定をします。

■ 表示方法

音量の表示方法を設定します。

0 - 98
(お買い上げ時の設定): 0(最小)～98の範囲で表示します。

-79.5dB - 18.0dB:
---dB(最小)、-79.5dB～18.0dBの範囲で表示します。



“表示方法”の設定は、すべてのゾーンに反映します。

■ 音量の上限

音量の上限を設定します。

60(-20 dB)/ 70(-10 dB)/ 80(0 dB)

オフ(お買い上げ時の設定)

■ 電源オン時の音量

電源をオンにしたときの音量を設定します。

最後の設定
(お買い上げ時の設定): 前回使用したときの音量になります。

消音: 常に消音状態になります。

1 - 98
(-79 dB - 18 dB): 設定した音量になります。

■ ミューティングレベル

ミュート時の音量の減衰量を設定します。

消音
(お買い上げ時の設定): 消音状態になります。

-40 dB: 現在の音量から 40dB 下げて再生します。

-20 dB: 現在の音量から 20dB 下げて再生します。



バイリンガルモード

AAC ソースやドルビーデジタルの二重音声を再生するときの出力内容を設定します。

■ モード

主音声 (お買い上げ時の設定):	主音声のみ出力します。
副音声:	副音声のみ出力します。
主/副:	主音声は左チャンネルから、副音声は右チャンネルから出力します。
主+副:	主音声と副音声をミックスして出力します。

Audyssey

Audyssey MultEQ® XT、Audyssey Dynamic EQ®および Audyssey Dynamic Volume®の設定をします。これらの設定は、Audyssey®セットアップをおこなったあとに設定できます。Audyssey 技術に関する詳細な情報については、「用語の解説」(P.221 ページ)をご覧ください。



- “MultEQ® XT”、“Dynamic EQ” および “Dynamic Volume” の設定は、入力ソースごとに記憶します。
- サウンドモードが “Direct” の場合、“MultEQ® XT”、“Dynamic EQ” および “Dynamic Volume” の設定はできません。



■ MultEQ® XT

MultEQ® XT は、Audyssey®セットアップの測定結果に基づき、リスニング環境における時間特性と周波数特性の両方を補正します。3種類の補正カーブから選択できます。

“Reference” に設定することをおすすめします。

Reference (お買い上げ時の設定):	映画コンテンツに最適になるように補正します。
L/R Bypass:	フロントスピーカー以外のスピーカーを最適に補正します。
Flat:	スピーカーとリスニングポイントとの距離が近い、小さな部屋に最適となるように補正します。
オフ:	“MultEQ® XT” を使用しません。



ヘッドホン使用時、“MultEQ® XT” の設定は自動的に“オフ”になります。

■ Dynamic EQ

人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、音量レベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぎます。

Dynamic EQ は、MultEQ® XT と連動して動作します。

オン
(お買い上げ時の設定): Dynamic EQ を使用します。

オフ: Dynamic EQ を使用しません。



メニューの“Dynamic EQ”の設定が“オン”のときは、“トーンコントロール”の調節はできません。(P.99 ページ)



■ リファレンスレベルオフセット

作成されたコンテンツに対して、オフセットレベルの設定が可能です。

Audyssey Dynamic EQ[®]は、一般的なフィルム(映画など)のミキシングレベルをリファレンスとしています。音量レベルが0dB から下げられた際にミキシング特性・サラウンド効果を常にコンテンツが作成された本来の特性に自動的に補正します。しかし、フィルムのリファレンスはミュージックやテレビ番組などフィルム以外のコンテンツの作成には使用されていない場合もあります。Dynamic EQ は、フィルム作成時に使用される標準のリファレンスレベルを使用せずに作成されたコンテンツに対してオフセットレベルの設定(5dB/10dB/15dB)が可能です。コンテンツに対する推奨の設定レベルは、次のようになります。

0 dB (フィルムリファレンス) (お買い上げ時の設定):	映画などのコンテンツに最適です。
5 dB :	クラシック音楽のような非常に広いダイナミックレンジを持ったコンテンツに適しています。
10 dB :	ジャズなどの広めのダイナミックレンジを持ったミュージックコンテンツやテレビ番組に適しています。
15 dB :	ポップやロックなどの非常に高い音量レベルのコンテンツや、圧縮されたダイナミックレンジを持つコンテンツに適しています。



メニューの“Dynamic EQ”の設定が“オン”のときに設定できません。(P.138 ページ)

■ Dynamic Volume

テレビや映画などで再生するコンテンツ内における音量レベルの変化(静かな音のシーンと大きな音のシーンの差など)をお好みの音量設定値に自動的に調節します。

Heavy:	音量レベルを最大に設定します。すべての音を一定の大きさにします。
Medium:	音量レベルを中間に設定します。平均的な音より大きな音と小さな音を調節します。
Light:	音量レベルを最小に設定します。非常に大きな音と非常に小さな音を調節します。
オフ (お買い上げ時の設定):	Dynamic Volume を使用しません。



Audyssey[®]セットアップで“Dynamic Volume”を“はい”に設定した場合は、自動的に“Medium”になります。(P.151 ページ)



マニュアルEQ

グラフィックイコライザーを使用して、各スピーカーの音色を調節します。



- 設定可能なスピーカーは、サウンドモードによって異なります。
- “MultEQ® XT” の設定が“オフ”のときに設定できます。(P.138 ページ)
- サウンドモードが“Direct”のときは設定できません。

■ マニュアルEQ

グラフィックイコライザーを使用するかしないかを設定します。

オン:	グラフィックイコライザーを使用します。
オフ (お買い上げ時の設定):	グラフィックイコライザーを使用しません。

■ スピーカーの選択方法

スピーカーの音色の調節を個々におこなうか、まとめておこなうかを選択します。

すべて:	すべてのスピーカーの音色をまとめて調節します。
左/右 (お買い上げ時の設定):	左右のスピーカーの音色をまとめて調節します。
各スピーカー:	スピーカーごとに音色を調節します。

■ イコライザーの調節

周波数帯域ごとの音色を調節します。“スピーカーの選択方法”で選択したスピーカーを調節します。

1. スピーカーを選ぶ。
2. 調節する周波数帯を選ぶ。
63 Hz / 125 Hz / 250 Hz / 500 Hz / 1 kHz / 2 kHz / 4 kHz / 8 kHz / 16 kHz
3. レベルを調節する。
-20.0 dB~+6.0 dB (お買い上げ時の設定:0.0 dB)



■ カーブコピー

Audyssey®セットアップで作られた、フラットの補正カーブをコピーします。



“カーブコピー” は、Audyssey®セットアップをおこなったあとに表示します。

■ 初期化

“マニュアル EQ” で設定した内容をお買い上げ時の設定に戻します。



ビデオ

映像に関する設定をします。

HDMI 設定

HDMI の映像出力や音声出力に関する設定をします。

ご注意

“HDMI パススルー” および “HDMI コントロール” を “オン” に設定している場合は、スタンバイ時の待機電力を多く消費します。長期間本機を使用しない場合は、電源コードをコンセントから抜くことをおすすめします。

■ オートリップシンク

出力する音声と映像の時間のずれを自動的に補正します。

オン
(お買い上げ時の設定): 自動的に補正します。

オフ: 自動的に補正しません。

■ HDMI オーディオ出力

HDMI の音声の出力先を設定します。

AV アンプ
(お買い上げ時の設定): 本機に接続したスピーカーで再生します。

TV: 本機に接続したテレビで再生します。



- HDMI コントロール機能が動作しているときは、本機に接続したテレビの音声設定を優先します。(「HDMI コントロール機能」(P.113 ページ))
- “HDMI オーディオ出力” の設定が “TV” で本機の電源が入っている場合、HDMI OUT 端子から 2 チャンネルの音声を出力します。

■ HDMI パススルー

本機がスタンバイのときに、入力されている HDMI 信号を HDMI モニターへ出力する設定をします。

オン
(お買い上げ時の設定): 本機がスタンバイのときでも、入力されている HDMI 信号を HDMI モニターへ出力します。

オフ: 本機がスタンバイのときに、入力されている HDMI 信号を HDMI モニターへ出力しません。



■ HDMI コントロール

HDMI 接続した HDMI コントロール対応機器と連動して操作できません。

オン:	HDMI コントロール機能を使用します。
オフ (お買い上げ時の設定):	HDMI コントロール機能を使用しません。



- 接続した機器の設定方法は、各機器の取扱説明書をご覧ください。
- HDMI コントロール機能については、「HDMI コントロール機能」をご覧ください。(P.113 ページ)

ご注意

“HDMI コントロール” の設定を変更した場合は、変更後必ず接続機器の電源を切り、電源を入れ直してください。

■ パススルーソース

電源がスタンバイのときに、HDMI 信号を入力する HDMI 端子を設定します。

最後の設定 (お買い上げ時の設定):	前回使用していた入力ソースのままスタンバイします。
-----------------------	---------------------------

**CBL/SAT /
DVD/Blu-ray / Blu-ray /
Game / AUX /
Media Player:** 選択した入力ソースをパススルーします。



“パススルーソース” は、“HDMI コントロール” または “HDMI パススルー” の設定が “オン” のときに設定できます。



■ TV Audio 切り替え

HDMI ケーブルで接続したテレビから、CEC コマンドを受信したとき、自動的に入力ソースを“TV Audio”に切り替えるかどうかを設定します。

オン (お買い上げ時の設定):	テレビからのコマンドを受信すると自動的に入力ソースを“TV Audio”にします。
オフ:	テレビからのコマンドを受信すると自動的に入力ソースを“TV Audio”にしません。

■ パワーオフコントロール

本機と外部機器の電源オフを連動します。

すべて (お買い上げ時の設定):	本機の入力ソースに関わらず、テレビの電源をオフにすると、自動的に本機の電源がスタンバイになります。
ビデオ:	“HDMI” または “VIDEO” のいずれかが割り当てられている入力ソースのときに、テレビの電源をオフにすると、自動的に本機の電源がスタンバイになります。 (P.148 ページ)
オフ:	本機はテレビの電源に連動しません。



オンスクリーンディスプレイ

オンスクリーンディスプレイに関する設定をします。

■ 音量

音量の表示に関する設定をします。

下
(お買い上げ時の設定): 画面の下部に表示します。

上: 画面の上部に表示します。

オフ: 表示しません。



音量表示が映画の字幕に重なって見づらい場合は、“上”に設定してください。

■ 情報

入カソースの切り替えや、サウンドモードを変更したときなどの情報表示の設定をします。

オン
(お買い上げ時の設定): 情報を表示します。

オフ: 情報を表示しません。

■ 再生画面

入カソースが“Online Music”、“iPod/USB”、“Bluetooth”または“Tuner”のときの再生画面の表示時間を設定します。

常時オン
(お買い上げ時の設定): 常に表示します。

オートオフ: 操作したときに約 30 秒間表示します。



TVフォーマット

ご使用になるテレビに合わせて出力する映像信号方式を設定します。

■ フォーマット

NTSC
(お買い上げ時の設定): NTSC 方式で出力します。

PAL: PAL 方式で出力します。



“フォーマット”は、次の操作でも設定できます。このとき、メニュー画面は表示しません。ディスプレイの表示を見ながら設定してください。

1. 本機の電源が入っているときに、本体の ZONE2 SOURCE と STATUS を同時に 3 秒以上長押しする。
ディスプレイに “V.Format:<NTSC>” を表示します。
2. 本体の TUNER PRESET CH + または TUNER PRESET CH - を押して、映像信号方式を選ぶ。
3. 本体の STATUS を押して、設定を終了する。

ご注意

接続されたテレビの映像方式と異なる方式に設定すると、映像は正しく表示されません。



入カソース

現在選択している入カソースに関する設定をします。
設定を変更しなくてもご使用いただけます。必要に応じて設定してください。

入力端子の割り当て

本機の音声/映像入力端子に印字された入カソースのとおり接続をおこなうと、入カソース切り替えボタンを押すだけで、接続した機器の音声や映像を簡単に再生できます。

本機の音声/映像入力端子に印字された入カソースと異なる接続をおこなう場合は、この項目で、HDMI 入力端子、デジタルオーディオ入力端子、アナログオーディオ入力端子およびビデオ入力端子の割り当てを変更してください。



各項目のお買い上げ時の設定は、次のとおりです。

入カソース	入力端子			
	HDMI	DIGITAL	ANALOG	VIDEO
CBL/SAT	1	OPT2	1	1
DVD/Blu-ray	2	-	-	-
Blu-ray	4 (4K)	-	-	-
Game	5 (4K)	-	-	-
Media Player	3	-	2	2
TV Audio	-	OPT1	-	-
AUX	FRONT	-	-	-

衛星放送チューナーやケーブルテレビチューナーを設定する際のご注意

テレビや衛星放送チューナーをデジタルオーディオ出力端子に接続する場合：

“入力端子の割り当て” - “DIGITAL” で割り当てた音声信号と、“HDMI” で割り当てた映像信号を組み合わせる再生する場合は、“入力モード”を“デジタル”に設定してください。
([150](#) ページ)



■ HDMI

入力ソースに割り当てられている HDMI 入力端子を変更するときに設定します。

1 / 2 / 3 / 4(4K) / 5(4K) / FRONT: 選択した入力ソースに、いずれかの HDMI 入力端子を割り当てます。

-: 選択した入力ソースに HDMI 入力端子を割り当てません。



- メニューの“HDMI コントロール”を“オン”に設定している場合は、“TV Audio”に“HDMI”を割り当てることはできません。
(143 ページ)
- HDMI 4(4K)および HDMI 5(4K)を割り当てた入力ソースを選択しているときは、音量やサウンドモードを変更したときの情報は表示しません。

■ DIGITAL

入力ソースに割り当てられているデジタルオーディオ入力端子を変更するときに設定します。

OPT1 (Optical) / OPT2: 選択した入力ソースにデジタルオーディオ入力端子を割り当てます。

-: 選択した入力ソースにデジタルオーディオ入力端子を割り当てません。

■ ANALOG

入力ソースに割り当てられているアナログオーディオ入力端子を変更するときに設定します。

1 / 2: 選択した入力ソースにアナログオーディオ入力端子を割り当てます。

-: 選択した入力ソースにアナログオーディオ入力端子を割り当てません。

■ VIDEO

入力ソースに割り当てられているビデオ入力端子を変更するときに設定します。

1 / 2: 選択した入力ソースにビデオ入力端子を割り当てます。

-: 選択した入力ソースにビデオ入力端子を割り当てません。

■ 初期化

“入力端子の割り当て”の設定をお買い上げ時の設定に戻します。



オーディオ入力端子の選択

各入力ソースの音声入力モードとデコードモードを設定します。選択できる入力モードは、入力ソースによって異なります。



“オーディオ入力端子の選択”の設定は、入力ソースごとに記憶します。

■ 入力モード

各入力ソースの音声入力モードを設定します。通常は、“オート”に設定することをおすすめします。

オート (お買い上げ時の設定):	本機に入力されている信号を自動的に検出して再生します。
HDMI:	HDMI 入力端子からの入力信号のみを再生します。
デジタル:	デジタル入力端子からの入力信号のみを再生します。
アナログ:	アナログ入力端子からの入力信号のみを再生します。



- デジタル信号を正しく入力すると、ディスプレイの表示が点灯します。表示が点灯しない場合は、“入力端子の割り当て”や接続を確認してください。(P.147 ページ)
- メニューの“HDMI コントロール”の設定が“オン”で、HDMI MONITOR 端子に ARC 対応テレビを接続している場合、入力ソースが“TV Audio”のときの入力モードは ARC 固定になります。

■ デコードモード

入力ソースの音声をデコードするモードを設定します。通常は、“オート”に設定してください。“PCM”や“DTS”は、頭切れやノイズが気になるときに設定することをおすすめします。

オート (お買い上げ時の設定):	デジタル入力信号の種類を識別し、自動的にデコードして再生します。
PCM:	PCM 信号が入力されたときだけ、デコードして再生します。
DTS:	DTS 信号が入力されたときだけ、デコードして再生します。



メニューの“入力端子の割り当て”(P.147 ページ)の設定で“HDMI”または“DIGITAL”に割り当てた入力ソースのときに設定できます。



スピーカー

接続されたスピーカーやリスニングルームの音響特性を測定し、最適な設定を自動的におこないます。この機能を“Audyssey®セットアップ”と呼びます。

既に“セットアップアシスタント”で“スピーカーの測定”をおこなっている場合、Audyssey®セットアップをおこなう必要はありません。

手動でスピーカーの設定をしたい場合は、メニューの“マニュアルセットアップ”でおこなってください。(P.162 ページ)

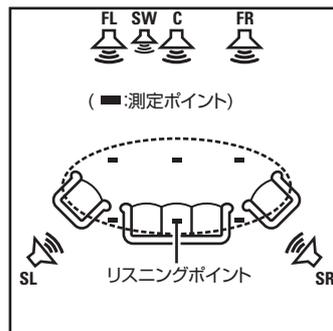
Audyssey®セットアップ

測定は、リスニングエリア全体の複数の位置にセットアップマイクを設置しておこないます。最善の結果を得るためには、図のように6箇所以上(最大で8箇所)の測定をおこなうことをおすすめします。

2箇所目以降の測定では、1箇所目の測定位置(メインリスニングポイント)から60cm以内にセットアップマイクを設置してください。



Audyssey®セットアップをおこなうと、Audyssey MultEQ® XT、Audyssey Dynamic EQ®および Audyssey Dynamic Volume®の機能が有効になります。(P.137~139 ページ)



- FL フロントスピーカー(左)
- FR フロントスピーカー(右)
- C センタースピーカー
- SW サブウーハー
- SL サラウンドスピーカー(左)
- SR サラウンドスピーカー(右)



■ メインリスニングポイントについて

メインリスニングポイントとは、最もリスナーが座る位置または一人で視聴するときの座る位置です。Audyssey®セットアップをはじめる前に、セットアップマイクをメインリスニングポイントに設置してください。

Audyssey MultEQ® XT は、この位置から測定した値を用いて、スピーカーの距離、レベル、極性およびサブウーハーの最適なクロスオーバー周波数を計算します。

ご注意

- できるだけ部屋を静かにしてください。騒音は測定の妨げとなります。窓を閉め、電化製品(ラジオ、エアコン、蛍光灯など)の電源を切ってください。測定の際、これらの製品による騒音の影響を受ける場合があります。
- 測定中、携帯電話はリスニングルーム以外の場所に置いてください。携帯電話の電波が測定を妨げる原因になることがあります。
- 測定中は、スピーカーとセットアップマイクの間にも立ったり、障害物を置いたりしないでください。また、セットアップマイクは壁から 50cm 以上離して設置してください。正しい測定ができません。
- 測定中にテストトーンを出力しますが、これは正常な動作です。リスニングルーム内の騒音が大きいほどテストトーンの音量が大きくなります。
- 測定中にリモコンの VOLUME ▲▼ または本体の MASTER VOLUME を操作すると、測定を中止します。
- ヘッドホンを接続している場合、測定はできません。Audyssey®セットアップをおこなう前に、ヘッドホンのプラグを抜いてください。



スピーカー設定の流れ (Audyssey®セットアップ)

準備



測定



解析&保存



解析結果の確認



終了

1 セットアップマイクを三脚、または付属のマイクスタンドに取り付けて、メインリスニングポイントに設置する。

セットアップマイクを設置する場合は、マイクの先端を天井に向け、マイクの高さを視聴者が座ったときの耳の高さに合うように調節してください。

2 次の設定ができるサブウーハーをご使用の場合のみ、この設定をおこなってください。

□ ダイレクトモード機能があるサブウーハーをご使用の場合

ダイレクトモード機能を“オン”にして、音量とクロスオーバー周波数の設定を無効にしてください。

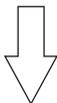
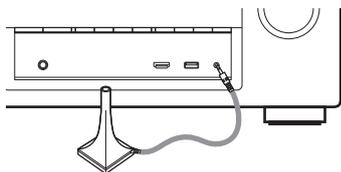
□ ダイレクトモード機能がないサブウーハーをご使用の場合

次のように設定してください。

- 音量の設定: 12 時の位置
- クロスオーバー周波数の設定: 最大/最高周波数
- ローパスフィルターの設定: オフ
- スタンバイモードの設定: オフ



3 セットアップマイクを本体の SETUP MIC 端子に接続する。



セットアップマイクを接続すると、テレビに次のセットアップ画面を表示します。



4 “次へ” を選び、ENTER を押す。



5 “スタート” を選び、ENTER を押す。

Audyssey®セットアップでは、次の設定もできます。

- **アンプの割り当て**

本機の SURROUND BACK スピーカー端子は、ご使用になるスピーカー環境に合わせて出力する信号を切り替えることができます。(「アンプの割り当て」(P.161 ページ))

- **チャンネルセレクト**

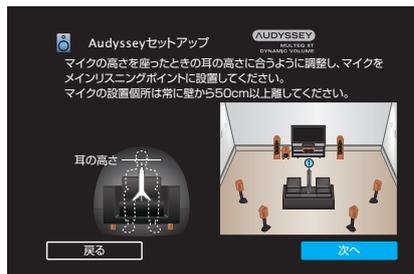
使用しないチャンネルをあらかじめ設定すると、設定したチャンネルの測定をスキップして、測定時間を短縮することができます。また、サブウーハーやサラウンドバックスピーカーの本数を変更することもできます。



6 画面の指示に従って、“次へ”を押して進める。

7 次の画面が表示されたら、“テスト開始”を選び、ENTERを押す。

1箇所目の測定をはじめます。



• 測定には数分間かかります。

ご注意

テレビ画面に“注意！”が表示された場合:

「エラーメッセージについて」(P.159 ページ)をご覧ください。関連する項目を確認し、必要な対処をおこなってください。

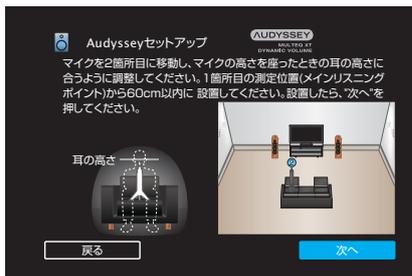
8 検出されたスピーカーが表示されたら、“次へ”を選び、ENTERを押す。



9 2箇所目にセットアップマイクを移動させ、“次へ”を選び、ENTERを押す。

2箇所目の測定をはじめます。

最大8箇所まで測定できます。



2箇所目以降のリスニングポイントの測定を省略する場合は、<1で“測定終了”を選択してENTERを押し、手順12へ進んでください。

□ Audyssey®セットアップを中止するとき

- ① BACKを押して、ポップアップ画面を表示させる。
- ② <1を押して“有り”を選び、ENTERを押す。

10 手順9をくり返して3～8箇所を測定する。

11 “測定終了”を選び、ENTERを押す。



測定結果の解析および保存をはじめます。

- 解析には数分間かかります。
接続するスピーカーの数と測定箇所が多くなるほど、解析に要する時間は長くなります。

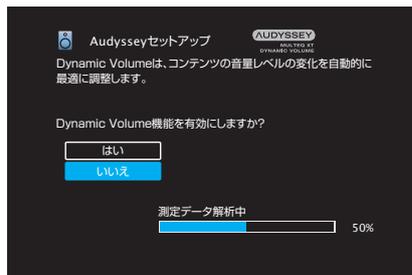
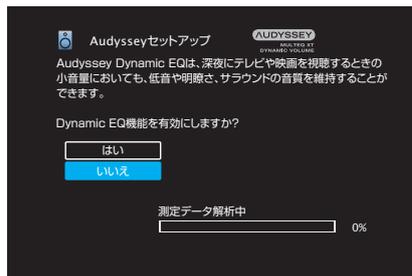
ご注意

測定結果の解析および保存中は、絶対に電源を切らないでください。



12 Audyssey Dynamic EQ[®]や Audyssey Dynamic Volume[®]の設定をする。

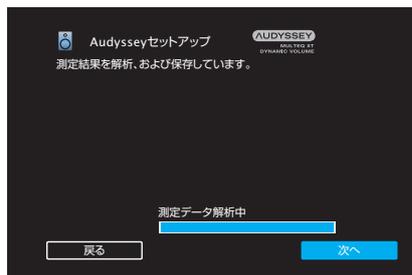
解析中に次の画面を表示します。お好みに合わせて設定してください。



- Dynamic EQ は、人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、音量が小さいときにも、明瞭に聴くことができるように周波数特性を補正します。深夜にテレビや映画を楽しむ場合など、音量を下げてくださいになる場合におすすめします。
- Dynamic Volume は、本機に入力した音声レベルを常にモニタリングしながら最適な出力音量に調節する機能です。テレビ番組の再生中にコマーシャルの音が急に大きく再生される場合などに、音のダイナミック感や明瞭感を損なうことなく適切な音量調節を自動的におこないます。



13 解析および保存が完了したら、本体の SETUP MIC 端子からセットアップマイクを抜き、“次へ”を押す。



14 測定結果を確認する場合は、“詳細”を選び ENTER を押す。

- サブウーハーなどでは、実際の距離と異なる値に設定される場合があります。

ご注意

Audyssey®セットアップをおこなったあとに、スピーカーの接続やサブウーハーの音量を変更しないでください。変更した場合は、最適なイコライザーの補正効果を得るために、もう一度 Audyssey®セットアップをおこなってください。



エラーメッセージについて

スピーカーの設置や測定環境などにより Audyssey®セットアップを完了できなかった場合に、エラーメッセージを表示します。エラーメッセージが表示された場合は、関連する項目を確認し、必要な対処をおこなってください。スピーカーの接続を確認するときは、必ず電源を切ってください。

エラーメッセージ(例)	エラーの内容	エラーの処理方法
スピーカーが見つかりませんでした。	<ul style="list-style-type: none"> • セットアップマイクが検出されない。 • 接続しているすべてのスピーカーが検出されない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 付属のセットアップマイクを、本体の SETUP MIC 端子に接続してください。 • スピーカーの接続を確認してください。
雑音が大きすぎるため、測定ができません	<ul style="list-style-type: none"> • 部屋の騒音が大きいです。 • スピーカーやサブウーハーの音量が小さい。 	<ul style="list-style-type: none"> • 騒音を発生する機器の電源を切るか、機器を遠ざけてください。 • 周囲がより静かなときに再度おこなってください。 • スピーカーの設置や向きを確認してください。 • サブウーハーの音量を調節してください。
フロント右:無し	<ul style="list-style-type: none"> • 表示されたスピーカーが検出されない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 表示されたスピーカーの接続を確認してください。
フロント右:逆位相	<ul style="list-style-type: none"> • 表示されたスピーカーの位相が逆です。 	<ul style="list-style-type: none"> • 表示されたスピーカーの極性を確認してください。 • スピーカーや部屋の環境によっては、正しく接続してもエラーメッセージが表示される場合があります。このような場合は、▷ を押して“続行”を選び、ENTER を押してください。



Audyssey®セットアップの設定値に戻すとき

“再設定”で“はい”を選択すると、各設定を手動で変更した場合でも Audyssey®セットアップの測定結果(MultEQ® XT が当初計算した値)に戻すことができます。



マニュアルセットアップ

スピーカーを手動で設定する場合や Audyssey®セットアップで測定した内容を変更するときにおこなってください。

- Audyssey®セットアップをおこなったあとにスピーカーの設定を変えると、Audyssey MultEQ® XT、Audyssey Dynamic EQ®および Audyssey Dynamic Volume®の選択ができなくなります。(🔍 137~139 ページ)
- 設定を変更しなくてもご使用いただけます。必要に応じて設定してください。

アンプの割り当て

ご使用のスピーカーシステムに合わせて、パワーアンプの割り当てを変更します。

スピーカー構成と接続については、“スピーカーの構成とアンプの割り当て”の設定(🔍 31 ページ)をご覧ください。

■ アサインモード

パワーアンプの使用方法を選択します。

サラウンドバック (お買い上げ時の設定):	サラウンドバックスピーカーを使用して、7.1 チャンネルで再生するときに設定します。
ZONE2:	本機内部のパワーアンプをゾーン 2 用に割り当て、ステレオ音声で出力するときに設定します。
Bi-Amp:	フロントスピーカーをバイアンプ接続して使用するときに設定します。
Front B:	2 台目のフロントスピーカーを使用して再生するときに設定します。フロントスピーカー A と B をお好みに合わせて切り替えて再生することができます。フロントスピーカーの切り替えは、メニューの“フロントスピーカー”でおこなってください。(🔍 168 ページ)
フロントハイト:	フロントハイトスピーカーを使用して、7.1 チャンネルで再生するときに設定します。



スピーカーの構成

スピーカーの有無や低音域再生能力によるスピーカーの大きさの分類を選択します。

■ フロント

フロントスピーカーの大きさを設定します。

大
(お買い上げ時の設定): 低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。

小: 低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。



- “サブウーハー”の設定が“無し”の場合、“フロント”の設定は自動的に“大”になります。
- “フロント”の設定が“小”の場合、“センター”、“サラウンド”、“S.バック”および“フロントハイト”を“大”に設定できません。

■ センター

センタースピーカーの有無や大きさを設定します。

大: 低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。

小
(お買い上げ時の設定): 低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。

無し: センタースピーカーを使用しません。

■ サブウーハー

サブウーハーの有無を設定します。

有り
(お買い上げ時の設定): サブウーハーを使用します。

いいえ: サブウーハーを使用しません。

■ サラウンド

サラウンドスピーカーの有無や大きさを設定します。

大: 低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。

小
(お買い上げ時の設定): 低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。

無し: サラウンドスピーカーを使用しません。



“サラウンド”の設定が“無し”のときサラウンドバックおよび“フロントハイト”の設定は自動的に“無し”になります。



■ サラウンドバック

サラウンドバックスピーカーの有無や大きさを設定します。

大:	低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。
小 (お買い上げ時の設定):	低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。
無し:	サラウンドバックスピーカーを使用しません。
2台 (お買い上げ時の設定):	サラウンドバックスピーカーを2台使用します。
1台:	サラウンドバックスピーカーを1台のみ使用します。この設定を選択したときは、SURROUND BACK のL 端子に接続してください。



“アサインモード” の設定が “サラウンドバック” のときに設定できます。(P.161 ページ)

■ フロントハイト

フロントハイトスピーカーの有無や大きさを設定します。

大:	低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。
小 (お買い上げ時の設定):	低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。
無し:	フロントハイトスピーカーを使用しません。



“アサインモード” の設定が “フロントハイト” のときに設定できません。(P.161 ページ)



距離

リスニングポイントからスピーカーまでの距離を設定します。
あらかじめリスニングポイントから各スピーカーまでの距離を測定しておいてください。

■ 単位

距離の単位を設定します。

メートル (お買い上げ時の設定)

フィート

■ ステップ

距離の最小可変幅を設定します。

0.1 m (お買い上げ時の設定) / 0.01 m

1 ft / 0.1 ft

■ 初期化

“距離” で設定した内容をお買い上げ時の設定に戻します。

■ 距離を設定します

0.00 m ~ 18.00 m / 0.0 ft ~ 60.0 ft



- メニューの“アンプの割り当て” および“スピーカーの構成” の設定により、選択できるスピーカーが異なります。(P.161 ページ)
(P.162 ページ)
- お買い上げ時の設定：
フロント左 / フロント右 / Front Height L / Front Height R / センター / サブウーハー: 3.60 m (12.0 ft)
サラウンド左 / サラウンド右 / Surround Back L / Surround Back R: 3.00 m (10.0 ft)
- 各スピーカーに設定した距離の差は、6.00 m (20.0 ft) 以下になるように設定してください。



レベル

リスニングポイントに対して、各スピーカーから出力されるテストトーンの音量が同じになるように設定します。

■ テストトーン開始

選択したスピーカーからテストトーンを出力します。
テストトーンを聞きながら、各スピーカーの音量を調節してください。

-12.0 dB~+12.0 dB(お買い上げ時の設定:0.0 dB)



- 設定した“レベル”は、すべてのサウンドモードに反映します。
- 入力ソースごとにチャンネルレベルを調節したい場合は、“チャンネルレベル調節”(P.98 ページ)で設定してください。
- 本体の PHONES 端子にヘッドホンを挿入している場合は、“レベル”の設定はできません。

■ 初期化

“レベル”で設定した内容をお買い上げ時の設定に戻します。



クロスオーバー周波数

各スピーカーで再生可能な低音域の下限周波数に合わせて設定します。スピーカーのクロスオーバー周波数については、スピーカーの取扱説明書をご覧ください。

■ スピーカーの選択方法

クロスオーバー周波数の設定方法を選択します。

すべて (お買い上げ時の設定):	すべてのスピーカーに対して同じクロスオーバー周波数を設定します。
スピーカー別:	スピーカーごとにクロスオーバー周波数を設定します。

■ クロスオーバー周波数を設定します

40 Hz / 60 Hz / 80 Hz / 90 Hz / 100 Hz / 110 Hz /
120 Hz / 150 Hz / 200 Hz / 250 Hz
(お買い上げ時の設定: 80 Hz)



- “クロスオーバー周波数” は、メニューの“サブウーハーモード”の設定が“LFE+メイン” のとき、または“小” に設定しているスピーカーがあるときに設定できません。(参照 167 ページ)
- クロスオーバー周波数は、通常“80 Hz” に設定してください。小型スピーカーをご使用になる場合は、クロスオーバー周波数をより高い周波数に設定することをおすすめします。例えば、スピーカーの周波数帯域が 250Hz~20kHz の場合は、“250 Hz” に設定してください。
- “小” に設定しているスピーカーからは、クロスオーバー周波数以下の音声をカットして出力します。カットした低音域は、サブウーハーまたはフロントスピーカーから出力します。
- メニューの“サブウーハーモード” の設定により、“スピーカー別” で設定できるスピーカーが異なります。(参照 167 ページ)
- “LFE” の場合は、“スピーカーの構成” で“小” に設定しているスピーカーの設定ができます。“大” に設定しているスピーカーのときは、“フルバンド” が表示され、設定できません。(参照 162 ページ)
- “LFE+メイン” の場合は、“スピーカーの構成” の設定に関係なく設定ができます。(参照 162 ページ)



低音

サブウーハーや LFE 信号の低音域再生に関する設定をします。

■ サブウーハーモード

サブウーハーで再生する低音域信号を設定します。

LFE (お買い上げ時の設定):	サブウーハー用の信号に、スピーカーの大きさを“小”に設定しているチャンネルの低音域信号を加えて出力します。
LFE+メイン:	サブウーハー用の信号に、すべてのチャンネルの低音域信号を加えて出力します。



- “サブウーハーモード”は、メニューの“スピーカーの構成” - “サブウーハー”の設定が“いいえ”以外のときに設定できます。
(162 ページ)
- 音楽ソースや映画ソースを再生して、量感のある低音域が得られるモードを選択してください。
- メニューの“スピーカーの構成” - “フロント”と“センター”の設定が“大”で、なおかつ“サブウーハーモード”の設定が“LFE”の場合は、入力信号やサウンドモードによってサブウーハーから音声が出力されない場合があります。常にサブウーハーから低音域を出力したい場合は、“LFE+メイン”に設定してください。
(162 ページ)

■ LFE 用ローパスフィルター

LFE 信号の再生帯域を設定します。サブウーハーでの再生周波数を変更する場合に設定します。

80 Hz / 90 Hz / 100 Hz / 110 Hz / 120 Hz] / 150 Hz / 200 Hz / 250 Hz (お買い上げ時の設定: 120 Hz)



フロントスピーカー

ご使用になるフロントスピーカー A または B を設定します。

A (お買い上げ時の設定):	フロントスピーカー A を使用します。
B:	フロントスピーカー B を使用します。
A+B:	フロントスピーカー A と B の両方を使用します。



“アサインモード” が “Front B” のときに設定できます。(P.161 ページ)



ネットワーク

本機をホームネットワーク(LAN)に接続して使用できるようにするためには、ネットワークの設定をおこなう必要があります。DHCP でホームネットワーク(LAN)を構築している場合は、“DHCP”を“オン”に設定します。(お買い上げ時の設定のまま使用してください。)これにより、ホームネットワーク(LAN)を使用できるようになります。各機器に IP アドレスを手動で割り当てている場合は、“IP アドレス”の設定で本機に IP アドレスを割り当て、ゲートウェイアドレスやサブネットマスクなど、ご使用のホームネットワーク(LAN)に関する情報を入力する必要があります。

情報

ネットワークの情報を表示します。

フレンドリーネーム / 接続 / SSID / DHCP /
IP アドレス / MAC アドレス



MAC アドレスは、vTuner のアカウント作成時に必要です。

接続

ホームネットワーク(LAN)に有線 LAN で接続するか、無線 LAN で接続するかを設定します。有線 LAN でネットワークに接続する場合、LAN ケーブルを接続してから“有線(イーサネット)”を選択してください。無線 LAN でネットワークに接続する場合、“無線(Wi-Fi)”を選び、“Wi-Fi 設定”を設定してください。

■ 接続方法

ホームネットワーク(LAN)に接続する方法を選択します。

有線(イーサネット):	LAN ケーブルを使用して、ネットワークに接続します。
無線(Wi-Fi):	無線 LAN(Wi-Fi)機能を使用して、ネットワークに接続します。



次の設定をおこなうと、本機の Wi-Fi 機能を無効にできます。

1. 本機の電源が入っているときに本体の ZONE2 SOURCE と STATUS を同時に 3 秒以上長押しする。ディスプレイに“V.Format: <NTSC>”を表示します。
2. 本体の DIMMER を押し、“Wired LAN <Unlock>”を表示させる。
3. 本体の TUNER PRESET CH + または TUNER PRESET CH - を押し、“<Lock>”を選ぶ。
4. 本体の STATUS を押し、設定を終了する。



Wi-Fi 設定

無線 LAN(Wi-Fi)ルータとの接続をおこないます。ルータとの接続には次の方法があります。ご家庭の環境に合わせて接続方法を選択してください。

■ ネットワーク検索

テレビ画面に表示された接続可能な無線ネットワークの一覧から、接続したいネットワークを選択します。

1. 無線ネットワークの一覧から、接続したいネットワークを選び。
- 見つからない場合は、“再スキャン”を選択してください。
2. パスワードを入力し、“OK”を選ぶ。

■ iOS を使用

お手持ちの iOS デバイス (iPhone/iPod/iPad) を使用してネットワークに接続します。iOS デバイスと本機を接続することで、自動的に本機を同じネットワークに接続することができます。

本機と iOS デバイスの接続のしかたは、USB ケーブルを使用する方法と、無線を使用する方法があります。

□ 無線で接続する場合

1. テレビ画面で“無線接続”を選ぶ。
2. iOS デバイスが無線 LAN(Wi-Fi)ルータに接続していることを確認し、iOS デバイスの Wi-Fi 設定画面の下部にある“新しい AIRPLAY スピーカーを設定...”から“Denon AVR-X1100W”を選ぶ。
3. iOS デバイスの画面で“次へ”をタップする。



iOS 機器のファームウェアのバージョンが iOS 7 以降に対応している必要があります。

□ USB ケーブルを使用する場合

1. テレビ画面で“USB ケーブル”を選ぶ。
2. iOS デバイスが無線 LAN(Wi-Fi)ルータに接続していることを確認し、USB ケーブルでフロントパネルの USB 端子に接続する。
3. テレビ画面で“接続”を選ぶ。
4. iOS デバイスの画面に接続のメッセージが表示されたら、“許可”をタップする。



iOS 機器のファームウェアのバージョンが iOS 5 以降に対応している必要があります。



■ WPS ルーター

WPS に対応したルーターを使用して接続します。

接続のしかたには、プッシュボタン方式と PIN コード方式があります。お手持ちのルーターに合わせて、接続方法を選択してください。

□ プッシュボタン方式で接続する場合

1. テレビ画面で“プッシュボタン”を選ぶ。
2. 接続したいルーターの WPS ボタンを押して、WPS モードにする。
 - ボタンを押す時間はルーターによって異なります。
3. 2 分以内に、テレビ画面で“接続”を選ぶ。

□ PIN コード方式で接続する場合

1. テレビ画面で“PIN”を選ぶ。
2. 本機の PIN コードをルーターに登録する。

■ マニュアル

接続したいネットワーク名 (SSID) やパスワードを入力して接続します。

1. 次の項目を設定する。

SSID:	無線ネットワーク名 (SSID) を入力します。
セキュリ ティ:	ご使用のアクセスポイントの暗号化設定に合わせて、暗号化方式を選択します。
パスワード:	パスワードを入力します。
デフォルト キー:	デフォルトキーを選択します。 “デフォルトキー”は、“WEP”で暗号化されているネットワークに接続する場合に表示します。

2. 設定が終わったら“接続”を選ぶ。



無線 LAN 対応のパソコンやタブレットから、本機の無線 LAN (Wi-Fi) の設定をおこなうこともできます。

ファームウェアのバージョンが iOS7 以降の機器をご使用になる場合は、“Use iOS Device”の「無線で接続する場合」(p.170 ページ)でおこなってください。

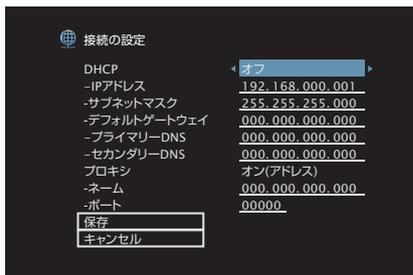
1. 本機の電源が入っているときに、本体の DIMMER と STATUS を 3 秒以上長押しする。
2. ディスプレイに “Connect your Wi-Fi device to Wi-Fi network called “Denon AVR-X1100W”” と表示されたら、ご使用のパソコンやタブレットの無線 LAN を “Denon AVR-X1100W” に接続する。
3. ブラウザを起動し、URL に “192.168.1.16” を入力する。
4. ブラウザを使用して設定を入力し、“接続”を選び、設定を終了する。



詳細な設定

IP アドレスやプロキシの設定をします。

- ブロードバンドルータ(DHCP 機能)をご使用の場合は、本機のお買い上げ時の設定で DHCP 機能が“オン”になっていますので、IP アドレスなどネットワーク接続に必要な情報を自動で設定します。
- DHCP 機能のないネットワークに接続する場合や固定 IP アドレスを割り当てる場合のみ、IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイおよび DNS サーバーの情報を設定してください。
- プロキシサーバーを使用してインターネットに接続している場合は、プロキシの設定をしてください。



■ DHCP

ネットワークへの接続方法を選択します。

オン (お買い上げ時の設定):	ご使用のルータから自動的にネットワーク設定をおこないます。
オフ:	手動でネットワークの設定をします。

■ IP アドレス

入力する IP アドレスは下記の範囲で設定してください。

- 下記以外の IP アドレスではネットワークオーディオ機能を使用することはできません。

CLASS A: 10.0.0.1～10.255.255.254

CLASS B: 172.16.0.1～172.31.255.254

CLASS C: 192.168.0.1～192.168.255.254

■ サブネットマスク

xDSL モデムやターミナルアダプターを直接本機に接続している場合は、プロバイダから書面などで通知されたサブネットマスクを入力します。通常は 255.255.255.0 を入力します。

■ デフォルトゲートウェイ

ゲートウェイ(ルータ)に接続している場合は、その IP アドレスを入力します。

■ プライマリー DNS、セカンダリー DNS

プロバイダから書面などで通知された DNS アドレスが 1 つの場合は、“プライマリー DNS” に入力してください。2 つ以上の場合は、1 つを“セカンダリー DNS”に入力してください。



■ プロキシ

インターネットにプロキシサーバーを経由して接続する場合に設定します。

プロキシの設定は、契約しているプロバイダや社内のネットワークなどプロキシサーバーを経由してインターネットに接続している場合のみおこなってください。

オン(アドレス):	アドレスで入力する場合に選択します。
オン(ネーム):	ドメイン名で入力する場合に選択します。
オフ (お買い上げ時の設定):	プロキシサーバーを無効にします。

■ ポート

ポート番号を入力します。



- インターネットに接続できない場合は、再度接続や設定を確認してください。(P.50 ページ)
- インターネットの接続についてわからない場合は、ISP(インターネット・サービスプロバイダ)またはパソコン関連販売店にお問い合わせください。

IPコントロール

電源がスタンバイ状態でのネットワーク機能の設定をします。

スタンバイ時オフ:	スタンバイ時に、ネットワーク機能を停止します。
常時オン (お買い上げ時の設定):	スタンバイ時でも、ネットワーク機能を停止しません。ネットワーク対応のコントローラーを使用して本機を操作できます。



ウェブコントロール機能や Denon Remote App(デノン・リモート・アプリ)をご使用になる場合は、“IP コントロール”の設定を“常時オン”にしてご使用ください。

ご注意

“IP コントロール”を“常時オン”に設定している場合は、スタンバイ時の待機電力を多く消費します。



フレンドリーネームの編集

フレンドリーネームとは、ネットワーク上に表示される本機の名称です。フレンドリーネームをお好みで変更できます。

■ ネーム

リストからフレンドリーネームを選択します。

“その他”を選択すると、お好みのフレンドリーネームに変更できます。

Home Theater / Living Room / Family Room / Guest Room / Kitchen / Dining Room / Master Bedroom / Bedroom / Den / Office / その他



- 63文字まで入力できます。
文字の入力方法については、「キーボード画面で文字を入力する」(P.129 ページ)をご覧ください。
- お買い上げ時のフレンドリーネームは、“Denon AVR-X1100W”です。

■ 初期化

編集したフレンドリーネームをお買い上げ時の設定に戻します。

診断

ネットワークの接続を確認します。

■ ケーブル接続

LAN ポートの接続の確認をします。

OK

エラー: LAN ケーブルが接続されていません。接続を確認してください。



無線 LAN で接続している場合は、“接続 無線(Wi-Fi)”を表示します。

■ ルーターアクセス

本機からルータまでの通信の確認をします。

OK

エラー: ルータとの通信に失敗しました。ルータの設定を確認してください。

■ インターネットアクセス

本機からインターネット(WAN)のアクセス可否の確認をします。

OK

エラー: インターネットへの接続に失敗しました。インターネットの接続環境またはルータの設定を確認してください。



一般

その他の設定をします。

言語

テレビ画面に表示するメニューの言語を設定します。

日本語 / English (お買い上げ時の設定: 日本語)



“言語”は、次の操作でも設定できます。この設定中は、メニュー画面を表示しません。ディスプレイの表示を見ながら設定してください。

1. 本機の電源が入っているときに、本体の ZONE2 SOURCE と STATUS を同時に 3 秒以上長押しする。
ディスプレイに “V.Format:< NTSC>” を表示します。
2. 本体の DIMMER を押す。
ディスプレイに “Lang.:< JAPANESE >” を表示します。
3. 本体の TUNER PRESET CH + または TUNER PRESET CH - を押して、言語を設定する。
4. 本体の STATUS を押して、設定を終了する。

エコ設定

エコモードとオートスタンバイの設定をします。

■ エコモード

本機の電源がオンのときの消費電力を低減できます。

オン: 消費電力を低減します。

オート: 音量に合わせて、自動的に消費電力を低減します。

オフ (お買い上げ時の設定): 消費電力を低減しません。



- 大音量で音声を出力したいときは、“エコモード”を“オフ”に設定することをおすすめします。
- リモコンの ECO を押しても、エコモードを切り替えることができません。



■ 電源オン時の設定

電源をオンにしたときのエコモードを設定します。

最後の設定

(お買い上げ時の設定): 前回電源をオフにする前の設定になります。

オン: 電源をオンにしたとき、常にエコモードが“オン”になります。

オート: 電源をオンにしたとき、常にエコモードが“オート”になります。

オフ: 電源をオンにしたとき、常にエコモードが“オフ”になります。

■ オンスクリーンディスプレイ

本機の消費電力を、テレビ画面にメーターで表示します。

常時オン: テレビ画面に常にメーターを表示します。

オート モードの変更時や音量の変更時にメーターを
(お買い上げ時の設定): 表示します。

オフ: メーターを表示しません。

■ オートスタンバイ

自動的に本機をスタンバイ状態にする設定をします。

□ メインゾーン

音声や映像の入力がない状態で本機を操作しないときに、自動的にスタンバイ状態にする時間を設定します。

スタンバイ状態になる前に、本体のディスプレイとメニュー画面に“オートスタンバイ”を表示します。

60分: 約 60 分後に本機をスタンバイ状態にします。

30分: 約 30 分後に本機をスタンバイ状態にします。

15分: 約 15 分後に本機をスタンバイ状態にします。

オフ

(お買い上げ時の設定): 自動的に本機をスタンバイ状態にしません。

□ ゾーン2

音声や映像の入力があっても、何も操作が無い状態が続いたとき、ここで設定した時間が経過すると自動で電源が切れます。

8時間: 約 8 時間後にゾーン 2 をスタンバイ状態にします。

4時間: 約 4 時間後にゾーン 2 をスタンバイ状態にします。

2時間: 約 2 時間後にゾーン 2 をスタンバイ状態にします。

オフ

自動的にゾーン 2 をスタンバイ状態にしません。
(お買い上げ時の設定): せん。



ゾーン2の設定

ゾーン2で再生する音声の設定をします。



“音量の上限”および“電源オン時の音量”の設定値は、音量の“表示方法”([136ページ](#))の設定に合わせて表示します。

■ 音量レベル

音量出力レベルを設定します。

可変
(お買い上げ時の設定): 音量の調節ができます。

1 - 98
(-79.5 dB - 18.0 dB): 音量をお好みのレベルに固定します。
リモコンで音量の調節はできません。

■ 音量の上限

音量の上限を設定します。

60 (-20 dB) / 70 (-10 dB) / 80 (0 dB)
(お買い上げ時の設定: 70 (-10 dB))

オフ: 音量の上限を設定しません。



メニューの“音量レベル”の設定が“可変”のときに設定できます。
([177ページ](#))

■ 電源オン時の音量

電源を入れたときの音量を設定します。

最後の設定
(お買い上げ時の設定): 前回使用したときの音量になります。

消音: 常に消音状態になります。

1 - 98
(-79.5 dB - 18.0 dB): 設定した音量になります。



メニューの“音量レベル”の設定が“可変”のときに設定できます。
([177ページ](#))



ゾーン名の変更

ゾーンの表示名を、お好みの名前に変更します。

メインゾーン / ゾーン 2

初期化: 編集したゾーン名がお買い上げ時の設定に戻ります。



10 文字まで入力できます。

文字の入力方法については、「キーボード画面で文字を入力する」(P.129 ページ)をご覧ください。

クイックセレクト名の変更

テレビ画面に表示するクイックセレクト名をお好みの名前に変更します。

クイックセレクト 1 / クイックセレクト 2 / クイックセレクト 3 / クイックセレクト 4

初期化: 編集したクイックセレクト名がお買い上げ時の設定に戻ります。



16 文字まで入力できます。

文字の入力方法については、「キーボード画面で文字を入力する」(P.129 ページ)をご覧ください。

フロントディスプレイ

本機のディスプレイに関する設定をします。

■ ディスプレイの明るさ

本機のディスプレイの明るさを調節します。

通常
(お買い上げ時の設定): 通常の明るさです。

薄暗い: 薄暗くします。

暗い: 暗くします。

消灯: ディスプレイを消灯します。



本体の DIMMER を押しても、ディスプレイの明るさを調節できます。



情報

本機の設定状態や入力信号などの情報を表示します。

■ オーディオ

メインゾーンのオーディオの情報を表示します。

サウンドモード: 設定しているサウンドモード

入力信号: 入力信号の種類

フォーマット: 入力信号のチャンネル数(フロント/サラウンド/LFEの有無)

サンプリング周波数: 入力信号のサンプリング周波数

オフセット: ダイアログノーマライゼーションの補正值

フラグ: サラウンドバックチャンネルを含む信号を入力しているときに表示します。入力信号が Dolby Digital EX、DTS-ES Matrix のときは "MATRIX"、DTS-ES Discrete 信号などのときは "DISCRETE" を表示します。

■ ビデオ

メインゾーンの HDMI 入出力信号や HDMI モニターの情報を表示します。

信号情報

解像度 / カラースペース / ビット数

HDMI モニター

インターフェース / 対応解像度

■ ゾーン

各ゾーンの現在の設定状態を表示します。

メインゾーン: メインゾーンの設定状態を表示します。表示する内容は、入力ソースによって異なります。

ゾーン 2: ゾーン 2 の設定状態を表示します。

■ ファームウェア

バージョン 現在のファームウェアのバージョン情報を表示します。



■ お知らせ

お知らせを表示します。

また、電源をオンにしたときにお知らせを表示するかしないかを設定します。

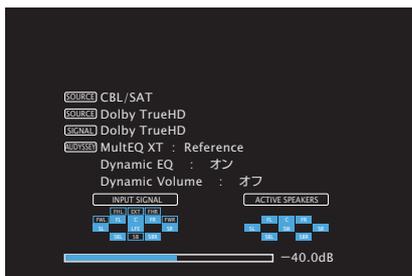
□ お知らせの表示

オン
(お買い上げ時の設定): 通知メッセージを表示します。

オフ 通知メッセージを表示しません。



INFO を押すと、現在のソース名、音量、サウンドモードなどを画面下側に表示します。



ご注意

次の映像信号の再生中は、状態表示画面を表示できません。

- コンピューター解像度の映像
- 16:9、4:3 以外のアスペクト比の映像
- 4K の映像

使用状況の送信設定

当社は今後の製品の改善のために、本機の設定状況や機能の使用状況に関する情報の送信をお願いしております。お客様から送信される情報は今後の製品開発の参考にさせていただきます。

送信される情報は個人を特定する情報は含まれません。この情報は、当社の製品改善の目的のためにのみ利用させていただき、第三者へ提供することは決して致しません。

はい: 本機の使用状況を情報提供します。

いいえ: 本機の使用状況を情報提供しません。



ファームウェア

アップデートやアップグレードについて、ファームウェアの最新情報の確認や更新を実施します。また、アップデートとアップグレードの通知メッセージの表示の設定をします。

■ アップデート

ファームウェアをアップデートします。

アップデートの確認: ファームウェアが最新かどうかの確認ができます。また、アップデートする場合のおよそのアップデート時間を確認できます。

アップデート開始: アップデートを実行します。アップデートを開始すると、メニュー画面はシャットダウンします。アップデート中は、ディスプレイに進行状況を表示します。



アップデートに失敗しても、本機は自動的にアップデートを再試行します。それでもアップデートできない場合は、次のいずれかのメッセージをディスプレイに表示します。このような場合は、設定やネットワーク環境の確認をおこなった上で、再度アップデートしてください。

ディスプレイ表示	説明
Updating fail	アップデートに失敗しました。
Login failed	サーバーへのログインに失敗しました。
Server is busy	サーバーが混雑しています。しばらく時間をおいてから、やり直してください。
Connection fail	サーバーへの接続に失敗しました。
Download fail	ファームウェアのダウンロードに失敗しました。

■ お知らせ POPUP

最新のファームウェアがリリースされている場合、電源をオンにしたときに本機のメニュー画面に通知メッセージを表示します。

通知メッセージは、電源をオンにしたときに約 40 秒間表示します。

アップデート

オン
(お買い上げ時の設定): アップデートの通知を表示します。

オフ: アップデートの通知を表示しません。

アップグレード

オン
(お買い上げ時の設定): アップグレードの通知を表示します。

オフ: アップグレードの通知を表示しません。



■ 新機能の追加

本機にダウンロード可能な新機能を表示し、アップグレードします。

アップグレードパッケージ: アップグレードする項目を表示します。

アップグレードステータス: アップグレードによって追加された機能の一覧を表示します。

アップグレード開始: アップグレードを実行します。アップグレードを開始すると、メニュー画面をシャットダウンします。アップグレード中は、ディスプレイに経過時間を表示します。



- アップグレードをご利用になる場合の詳細については、当社ホームページをご覧ください。
- お手続きが完了すると、このメニューに“登録完了”と表示され、アップグレードすることができます。お手続きされていない場合は、“-----”を表示します。お手続きの際には、この画面に表示されている ID 番号が必要になります。本体の TUNER PRESET CH + と STATUS を 3 秒以上長押しすると、ID 番号をディスプレイに表示させることができます。
- アップグレードができなかった場合は、ディスプレイに“ファームウェア” - “アップデート”と同様のメッセージを表示します。この場合は、ネットワーク環境を確認し、再度アップデートしてください。

“アップデート”および“新機能の追加”をおこなうときのご注意

- これらの機能を使用するためには、インターネットに接続できる環境と設定が必要です。(P.50 ページ)
- アップデートやアップグレードが終わるまで、絶対に電源を切らないでください。
- アップデートやアップグレードが完了するまでに、1 時間程度の時間がかかります。
- 一旦アップデートやアップグレードを開始すると、本機は完了するまで通常の操作ができなくなります。また、本機に設定したパラメーターなどのバックアップデータを初期化する場合があります。
- アップデートやアップグレード中に更新が失敗した場合は、本体の **⏻** を 5 秒以上長押しするか、電源コードを挿入し直してください。ディスプレイに“Update Retry”を表示し、失敗したところから更新を再開します。それでも失敗が続く場合は、ネットワークの環境を確認してください。



“アップデート”および“新機能の追加”に関する情報は、当社ホームページなどで告知する予定です。



セットアップロック

設定した内容を変更できないようにロックします。

■ セットアップロック

オン: 設定した内容をロックします。

オフ
(お買い上げ時の設定): 設定した内容をロックしません。



設定を解除するときは、“セットアップロック”を“オフ”に設定してください。

ご注意

“セットアップロック”を“オン”に設定すると、“セットアップロック”以外の設定項目は表示しません。



■ 目次

こんなときの解決方法

誤って音量が大きくならないようにしたい	185
電源を入れたときの音量を常に同じにしたい	185
常にサブウーハーから音を出したい	185
映画のせりふを聴きやすくしたい	185
小音量再生においても、低音や明瞭さを保ちたい	185
テレビや映画などのコンテンツによる音量差を自動的に調節したい	185
スピーカーの構成や設定を変えたり、スピーカーを買い替えたりした場合に、最適なリスニング環境に設定したい	186
今聴いている音楽に好きな映像を組み合わせたい	186
インターネットラジオを聴きながら、Flickr の写真を同時に再生したい	186
使っていない入力ソースを消したい	186
ホームパーティーなどのときにすべてのゾーンで同じ音楽を楽しみたい	186

故障かな？と思ったら

電源が入らない / 電源が切れる	188
リモコンで操作ができない	189
本機のディスプレイが表示されない	189
音がまったく出ない	190
希望する音が出ない	191
音が途切れたり、ノイズが入ったりする	194
テレビに映像が映らない	195
テレビにメニュー画面が表示されない	196
iPod が再生できない	197
USB メモリーが再生できない	198
iPod や USB メモリー内のファイル名が正しく表示されない	199
Bluetooth が再生できない	199
インターネットラジオが再生できない	200
パソコン内や NAS 内の音楽ファイルが再生できない	201
各種オンラインサービスが再生できない	202
HDMI コントロール機能が動作しない	202
無線 LAN ネットワークに接続できない	203



こんなときの解決方法

誤って音量が大きくなりたい

- メニューの“音量の上限”で音量の上限値をあらかじめ設定してください。小さな子供が誤って音量を上げすぎることを防ぎます。ゾーンごとに設定できます。(参照 136、177 ページ)

電源を入れたときの音量を常に同じにしたい

- お買い上げ時の設定では、本機をスタンバイにしたときの音量設定が、次回電源を入れたときに、前回スタンバイにしたときの音量がそのまま適用されます。音量を一定にしたい場合は、メニューの“電源オン時の音量”で、電源を入れたときの音量を設定してください。ゾーンごとに設定できます。(参照 136、177 ページ)

常にサブウーハーから音を出したい

- 入力信号やサウンドモードによってサブウーハーから音が出ない場合があります。メニューの“サブウーハーモード”を“LFE+メイン”に設定すると、常にサブウーハーから音声を出力することができます。(参照 167 ページ)

映画のせりふを聴きやすくしたい

- メニューの“ダイアログレベル”でレベルを調節してください。(参照 130 ページ)

小音量再生においても、低音や明瞭さを保ちたい

- メニューの“Dynamic EQ”を“オン”に設定してください。周波数特性を補正することによって、小音量再生のときでも低音を失うことなく、音をはっきり聴くことができます。(参照 138 ページ)

テレビや映画などのコンテンツによる音量差を自動的に調節したい

- メニューの“Dynamic Volume”を設定してください。テレビや映画などで再生するコンテンツ内における音量レベルの変化(静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など)をお好みの音量に自動的に調節します。(参照 139 ページ)



スピーカーの構成や設置を変えたり、スピーカーを買い替えたりした場合に、最適なリスニング環境に設定したい

- Audyssey®セットアップをおこなってください。新しいリスニング環境に最適なスピーカーの設定を自動でおこないます。
([🔍 151 ページ](#))

今聴いている音楽に好きな映像を組み合わせたい

- オプションメニューの“ビデオセレクト”を“オン”に設定してください。チューナーやインターネットラジオの音楽を聴きながら、DVD やセットトップボックスなどのお好みの映像ソースを組み合わせることができます。
([🔍 100 ページ](#))

インターネットラジオを聴きながら、Flickr の写真を同時に再生したい

- Flickr の写真を再生したあと、インターネットラジオの再生画面で、スライドショーを開始してください。
([🔍 96 ページ](#))

使っていない入力ソースを消したい

- メニューの“使用ソースの選択”で使用していない入力ソースを設定してください。本体の SOURCE SELECT つまみを回したときに使用していない入力ソースをスキップできます。
([🔍 149 ページ](#))

ホームパーティーなどのときにすべてのゾーンで同じ音楽を楽しみたい

- オプションメニューの“オールゾーンステレオ”で“スタート”を選択してください。メインゾーンで再生している音楽をゾーン 2 でも同時に再生できます。
([🔍 101 ページ](#))



故障かな？と思ったら

最初に次のことを確認してください。

1. 各接続は正しいですか
2. 取扱説明書に従って正しく操作していますか
3. スピーカーやプレーヤーは正しく動作していますか

本機が正しく動作しないときは、該当する症状に従ってチェックしてみてください。

なお、どの症状にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、お買い上げの販売店にご相談ください。もし、お買い上げの販売店でもおわかりにならない場合は、当社のお客様相談センターまたはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。



■ 電源が入らない / 電源が切れる

症状	原因 / 対策	関連ページ
電源が入らない。	<ul style="list-style-type: none"> コンセントへの電源プラグの差し込みを点検してください。 	52
電源が自動的に切れる。	<ul style="list-style-type: none"> スリープタイマーが設定されています。再度電源を入れてください。 	114
	<ul style="list-style-type: none"> オートスタンバイが設定されています。操作がない状態で一定時間が経過すると、“オートスタンバイ”が動作します。“オートスタンバイ”を無効にするには、メニューの“オートスタンバイ”を“オフ”に設定してください。 	176
電源が切れ、電源表示が約 2 秒間隔で、赤色に点滅している。	<ul style="list-style-type: none"> 機器内部の温度上昇により、保護回路がはたらいています。電源が切れている状態で、1 時間程度待ち、本機の温度が十分下がってから、電源を入れ直してください。 	231
	<ul style="list-style-type: none"> 本機を風通しの良い場所に設置し直してください。 	—
電源が切れ、電源表示が約 0.5 秒間隔で、赤色に点滅している。	<ul style="list-style-type: none"> スピーカーの接続を確認してください。スピーカーケーブルの芯線どうしが接触したり、芯線が端子から外れたりして、芯線が本機のリアパネルに接触したため、保護回路がはたらいている可能性があります。電源コードを抜き、芯線をしっかりとよじり直すか、端末処理をするなどしたあとで、接続し直してください。 	28
	<ul style="list-style-type: none"> 音量を下げて、電源を入れ直してください。 	54
	<ul style="list-style-type: none"> 本機のアンプ回路が故障しています。電源コードを抜き、当社の修理相談窓口までご連絡ください。 	—
電源ボタンを押しても本機の電源がオフにならず、ディスプレイに“ZONE2 On”と表示される。	<ul style="list-style-type: none"> ゾーン 2 の電源がオンになっています。本機の電源をオフ(スタンバイ)にする場合は、本体の ZONE2 ON/OFF ボタンを押すか、リモコンの ZONE2  ボタンを押して、ゾーン 2 の電源をオフにしてください。 	—



■ リモコンで操作ができない

症状	原因 / 対策	関連ページ
リモコンで操作ができない。	• 乾電池が消耗しています。新しい乾電池と交換してください。	8
	• リモコンは、本機から約 7m および 30° 以内の範囲で操作してください。	8
	• 本機とリモコンの間の障害物を取り除いてください。	—
	• 乾電池の ⊕ と ⊖ を正しくセットしてください。	8
	• 本機のリモコン受光部に強い光(直射日光、インバーター式蛍光灯の光など)があたっています。受光部に強い光があたらない場所に設置してください。	—
• 3D 映像機器をご使用の場合、各ユニット間(テレビや 3D 視聴用メガネなど)の赤外線通信の影響によって本機のリモコンが効かなくなることがあります。その場合は、3D 通信の各ユニットの向きと距離を調節して、本機のリモコンの動作に影響がないことを確認してください。	—	

■ 本機のディスプレイが表示されない

症状	原因 / 対策	関連ページ
ディスプレイの表示が消える。	• メニューの“ディスプレイの明るさ”を“消灯”以外の設定にしてください。	178



■ 音がまったく出ない

症状	原因 / 対策	関連ページ
スピーカーから音が出ない。	• すべての機器の接続を確認してください。	28
	• 接続ケーブルを奥まで挿してください。	—
	• 入力端子と出力端子を間違えて接続していないか確認してください。	—
	• ケーブルが破損していないか確認してください。	—
	• スピーカーケーブルが正しく接続されていることを確認してください。ケーブルの芯線がスピーカー端子の金属部に接触していることを確認してください。	28
	• スピーカー端子をしっかりと締めてください。また、スピーカー端子が緩んでいないか確認してください。	28
	• 適切な入力ソースが選択されていることを確認してください。	54
	• 音量を適切な大きさに調節してください。	55
	• ミューティング(消音)モードを解除してください。	55
	• デジタルオーディオ入力端子の設定の確認をおこなってください。	147
	• 接続した機器のデジタル音声出力の設定を確認してください。機器によってはお買い上げ時の設定がオフになっていることがあります。	—
• 本体の PHONES 端子にヘッドホンのプラグを挿入していると、スピーカー端子および SUBWOOFER 端子から音が出なくなります。	15	
DVI-D 接続時に、音声がでない。	• 本機を DVI-D 端子付きの機器に接続した場合、音声は出力しません。別途、音声の接続をおこなってください。	—



■ 希望する音が出ない

症状	原因 / 対策	関連ページ
音量が上がらない。	• 音量の上限値が低く設定されています。メニューの“音量の上限”で上限値を設定してください。	136
	• 入力された音声フォーマットや設定に合わせて適切な音量補正処理をしているため、上限値まで上がらない場合があります。	—
HDMI で接続したときに、音が出ない。	• HDMI 端子の接続を確認してください。	39
	• HDMI の音声信号をスピーカーから出力するときは、メニューの“HDMI オーディオ出力”の設定を“AV アンプ”に設定してください。テレビから出力するときは“TV”に設定してください。	142
	• HDMI コントロール機能を使用している場合は、テレビ側のオーディオ出力の設定が AV アンプになっているか確認してください。	113
特定のスピーカーから音が出ない。	• スピーカーケーブルが正しく接続されていることを確認してください。	28
	• メニューの“スピーカーの構成”で“無し”以外になっているか確認してください。	162
	• メニューの“アサインモード”の設定を確認してください。	161
	• サウンドモードが“Stereo”および“Virtual”のときは、フロントスピーカーとサブウーハーからのみ音声を出力します。	—
サブウーハーから音が出ない。	• サブウーハーの接続を確認してください。	29
	• サブウーハーの電源を入れてください。	—
	• メニューの“スピーカー構成” - “サブウーハー”を“有り”に設定してください。 [スピーカー構成:] (162 ページ)	—
	• メニューの“スピーカーの構成” - “フロント”の設定が“大”の場合は、入力信号やサウンドモードによってサブウーハーから音声が出力されない場合があります。	162
	• 入力信号にサブウーハー音声信号(LFE)が含まれていない場合、サブウーハーから音声が出力されない場合があります。	167
	• メニューの“サブウーハーモード”を“LFE+メイン”に設定すると、常にサブウーハーから音声を出力することができます。	167



症状	原因 / 対策	関連ページ
DTS 音声が出力されない。	• 接続した機器のデジタル音声出力の設定が“DTS”になっているか確認してください。	—
	• メニューの“デコードモード”を“オート”または“DTS”にしてください。	150
Dolby TrueHD、DTS-HD、Dolby Digital Plus の音声が出力されない。	• HDMI で接続してください。	44
	• 接続した機器のデジタル音声出力の設定を確認してください。機器によってはお買い上げ時の設定が“PCM”になっている場合があります。	—
Dolby PLII モードや DTS Neo:6 モードが選択できない。	• メニューの“スピーカーの構成” - “センター” および “サラウンド” が “無し” の場合は選択できません。	162
	• ヘッドホン使用時は、Dolby PLII または DTS Neo:6 を選択できません。	—
AAC 放送の音声が途切れる。	• AAC 放送再生中に再生チャンネル数などの放送内容が切り替わった場合、音声が途中で途切れる場合があります。	—
AAC として再生しない。	• テレビやデジタルチューナーなどによっては、AAC 出力が “オフ” になっていたり、AAC 信号を PCM 信号に変換する設定になっていたりする場合があります。テレビやデジタルチューナーなどの設定画面で、デジタル音声や AAC 出力の設定をご確認ください。詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。	—
Audyssey MultEQ [®] XT、Audyssey Dynamic EQ [®] および Audyssey Dynamic Volume [®] が選択できない。	• Audyssey [®] セットアップを実施していない場合は、選択できません。	151
	• サウンドモードを “Direct” 以外に切り替えてください。	104
	• ヘッドホン使用時は選択できません。	—
“リストアラー” が選択できない。	• アナログ信号または PCM 信号 (サンプリング周波数=44.1/48kHz) が入力されているか確認してください。Dolby Digital や DTS サラウンドなどのマルチチャンネル信号の再生には “リストアラー” を使用することができません。	135
	• サウンドモードを “Direct” 以外に切り替えてください。	104



症状	原因 / 対策	関連ページ
ゾーン 2 から音が出ない。	• HDMI 端子やデジタル端子(OPTICAL)から入力しているデジタル信号の音声は再生できません。アナログ接続をしてください。	—
	• ゾーン 2 で Bluetooth の音声を聴く場合、本機と Bluetooth 機器の間に障害物がなく、なおかつ約 10m の範囲内で使用してください。	—



■ 音が途切れたり、ノイズが入ったりする

症状	原因 / 対策	関連ページ
インターネットラジオや USB メモリーを再生中に、音が途切れることがある。	• USB メモリーの転送速度が遅いと音が途切れることがあります。	—
	• ネットワークの通信速度が遅いか、ラジオ局が混雑しています。	—
iPhone で通話すると、本機の音声出力にノイズが入る。	• iPhone を本機から 20cm 以上離して通話してください。	—
FM 放送または AM 放送の雑音が多い。	• アンテナの向きや位置を変えてください。	48
	• 屋外アンテナを使用してください。	48
	• アンテナと他の接続ケーブルを離してください。	48
音が歪んで聴こえる。	• 音量を下げてください。	55
	• エコモードを“オフ”に設定してください。エコモードが“オン”または“オート”のときは、大きな音量を再生すると音声歪むことがあります。	175
Wi-Fi 接続時に音切れがする。	• 周りの電波妨害により再生が途切れたりした場合には、有線 LAN 接続に切り替えてください。	50
	• 特にデータ容量の大きい音楽ファイルを再生するときなどに、ご使用の無線 LAN の環境によっては、再生音が途切れることがあります。その場合は有線 LAN 接続をおこなってください。	170



■ テレビに映像が映らない

症状	原因 / 対策	関連ページ
映像が映らない。	• すべての機器の接続を確認してください。	39
	• 接続ケーブルを奥まで挿してください。	—
	• 入力端子と出力端子を間違えて接続していないか確認してください。	—
	• ケーブルが破損していないか確認してください。	—
	• 本機に接続されたテレビの入力端子に入力の設定を合わせてください。	147
	• 適切な入力ソースが選択されていることを確認してください。	54
	• ビデオ入力端子の設定の確認をおこなってください。	147
	• プレーヤーとテレビの解像度が合っていることを確認してください。	179
	• テレビが著作権保護(HDCP)に対応しているか確認してください。HDCPに対応していない機器を接続した場合、映像が正しく出力されません。	209
	• HDMI 信号をアナログ信号に変換することはできません。アナログ接続をしてください。	—
• 4K(60/50Hz)の映像を再生したい場合は、HDMI ロゴのある“イーサネット対応ハイスピードケーブル”または“ハイスピードケーブル”を使用してください。	—	
DVI-D 接続時に、テレビに映像が映らない。	• DVI-D 接続の場合、機器間によってはコピーガード著作権保護(HDCP)によって正しく動作しない場合があります。	209
メニューを表示中に、テレビに映像が映らない。	• 次の映像信号の再生中にメニューを操作すると、メニューの背景に再生映像は表示されません。 ・一部の 3D ビデオコンテンツの映像 ・コンピューター解像度(例:VGA)の映像 ・16:9、4:3 以外のアスペクト比の映像 ・4K 専用端子(Blu-ray、Game)	—



■ テレビにメニュー画面が表示されない

症状	原因 / 対策	関連ページ
テレビにメニュー画面や操作内容が表示されない。	<ul style="list-style-type: none"> メニュー画面は、本機と HDMI 接続しているテレビにのみ表示します。本機とテレビをほかの映像出力端子で接続している場合は、本機のディスプレイを見ながら操作してください。 	—
	<ul style="list-style-type: none"> 次の映像信号の再生中は、テレビに操作内容は表示されません。 <ul style="list-style-type: none"> 一部の 3D ビデオコンテンツの映像 コンピューター解像度(例:VGA)の映像 16:9、4:3 以外のアスペクト比の映像 4K(60/50Hz)の映像 	103
	<ul style="list-style-type: none"> テレビ側で 2D 映像を 3D 映像に変換している場合は、メニュー画面や操作内容を正しく表示しません。 	103
	<ul style="list-style-type: none"> メニューの“TV フォーマット”をご使用のテレビに合わせて設定してください。 	146



■ iPod が再生できない

症状	原因 / 対策	関連ページ
iPod が接続できない。	• USB 端子に iPod を接続して使用する場合、対応していない iPod があります。	46
	• iPod の接続に純正以外の USB ケーブルを使用すると、iPod を認識できない場合があります。純正の USB ケーブルを使用してください。	—
iTunes/iPhone/iPod touch/iPad 上に AirPlay のアイコン  が表示されない。	• 本機とパソコン/iPhone/iPod touch/iPad が同一のネットワーク(LAN)に接続されていません。本機と同一の LAN に接続してください。	50
	• iTunes/iPhone/iPod touch/iPad が AirPlay 対応のファームウェアではありません。最新のファームウェアにアップデートしてください。	—
音が出ない。	• iTunes/iPhone/iPod touch/iPad の音量が最小になっています。iTunes/iPhone/iPod touch/iPad の音量と本機の音量は連動しています。適切な値に設定してください。	—
	• AirPlay の再生をしていないか、本機が選択されていません。iTunes/iPhone/iPod touch/iPad の画面で AirPlay アイコン  をクリックして、本機を選択してください。	90
iPhone/iPod touch/iPad で AirPlay 再生時に音が途切れる。	• iPhone/iPod touch/iPad のバックグラウンドで起動しているアプリケーションを終了してから AirPlay 再生をしてください。	—
	• 無線接続で外部の影響を受けている可能性があります。無線 LAN のアクセスポイントからの距離を短くするなどネットワーク環境を変更してください。	—
リモコンで iTunes の再生操作ができない。	• iTunes の“リモートスピーカーから iTunes のコントロールを許可する”の設定を有効にしてください。リモコンで再生/一時停止/スキップ操作ができます。	—



■ USB メモリーが再生できない

症状	原因 / 対策	関連ページ
“接続されていません”が表示される。	• 接続不良などで、本機が USB メモリーを認識できない場合があります。USB メモリーを接続し直すなど、接続を確認してください。	46
	• マスストレージクラス対応の USB メモリーに対応しています。	—
	• 本機は、USB ハブを経由した接続はできません。USB メモリーは USB 端子に直接接続してください。	—
	• USB メモリーのフォーマットを FAT16 または FAT32 に設定してください。	—
	• すべての USB メモリーの動作は保証できません。一部の USB メモリーは、認識できない場合があります。また、AC アダプターから電源供給できるタイプの USB 接続対応ポータブルハードディスクを使用する場合は、ハードディスクに AC アダプターを接続して使用してください。	—
USB メモリー内のファイルを表示しない。	• 本機が対応していない形式のファイルは表示しません。	61
	• 本機が表示できるファイルのフォルダ階層は最大 8 階層です。また、1 階層あたり最大 5000 ファイル(フォルダ)です。USB メモリーのフォルダ構成を変更してください。	—
	• USB メモリーに複数のパーティションがある場合、先頭のパーティションのファイルのみを表示します。	—
USB メモリーのファイルを再生できない。	• 本機が対応していないフォーマットで作成されています。本機が対応しているフォーマットを確認してください。	210
	• 本機では、著作権保護のかかったファイルを再生することはできません。	—
	• ファイルサイズが 2MB を超えるアルバムアートを使用している場合、再生できない場合があります。	—



■ iPod や USB メモリー内のファイル名が正しく表示されない

症状	原因 / 対策	関連ページ
ファイル名が“...”など、正しく表示されない。	<ul style="list-style-type: none"> 本機で表示できない文字は、“.”(ピリオド)”に置き換えて表示します。 	—

■ Bluetooth が再生できない

症状	原因 / 対策	関連ページ
本機に Bluetooth 機器が接続できない。	Bluetooth 機器の Bluetooth 機能が有効になっていません。Bluetooth 機器の取扱説明書をご覧ください、Bluetooth 機能を有効にしてください。	—
	本機と Bluetooth 機器を近づけてください。	—
	Bluetooth 機器が A2DP プロファイルに対応していない場合、本機と接続できません。	—
	ご使用の Bluetooth 機器の電源を入れ直してから、お試しください。	—
音が途切れる。	本機と Bluetooth 機器を近づけてください。	—
	本機と Bluetooth 機器の間にある障害物を取り除いてください。	—
	電波干渉がおきないように、電子レンジや無線 LAN 機器および他の Bluetooth 機器から本機を離してください。	—
	Bluetooth の再接続操作をおこなってください。	—



■ インターネットラジオが再生できない

症状	原因 / 対策	関連ページ
ラジオ局のリストが表示されない。	• LAN ケーブルが正しく接続されていないか、ネットワークが切断されています。接続状態を確認してください。	50
	• ネットワークの診断モードをおこなってください。	—
インターネットラジオが再生できない。	• 選択したラジオ局が、本機に対応していないフォーマットで放送されています。本機で再生できるフォーマットは、MP3、WMA と AAC です。	213
	• ルータのファイアウォールがはたらいています。ファイアウォールの設定を確認してください。	—
	• IP アドレスが正しく設定されていません。	172
	• ルータの電源が入っているか確認してください。	—
	• IP アドレスを自動で取得する場合は、ルータの DHCP サーバ機能を有効にしてください。また、本機の DHCP 設定を“オン”にしてください。	172
	• IP アドレスを手動で取得する場合は、本機の IP アドレス、プロキシを設定してください。	173
	• 時間帯により無音放送になっているラジオ局があります。この場合、音声は出力しません。しばらく経ってから選択するか、別のラジオ局を選択してください。	78
お気に入りの登録したラジオ局に接続できない。	• ラジオ局がサービスを停止しています。放送中のラジオ局を登録してください。	—
“接続が途切れました”と表示され、接続できないラジオ局がある。	• ラジオ局が放送を停止しています。放送中のラジオ局を選択してください。	—



■ パソコン内やNAS内の音楽ファイルが再生できない

症状	原因 / 対策	関連ページ
パソコンに保存してある音楽ファイルが再生できない。	• ファイルが対応しているフォーマット以外で記録されています。対応しているフォーマットで記録してください。	212
	• 本機では、著作権保護のかかったファイルを再生することはできません。	—
	• 本機の USB 端子は、パソコンと接続することはできません。	—
	• メディアの共有設定が正しくありません。本機がパソコンのフォルダにアクセスできるようにメディアの共有設定を変更してください。	82
サーバーが見つからないか、サーバーに接続できない。	• パソコンまたはルータのファイアウォールがはたらいています。接続しているパソコンまたはルータのファイアウォールの設定を確認してください。	—
	• パソコンの電源が入っていません。電源を入れてください。	—
	• サーバーが起動していません。サーバーを起動してください。	—
	• 本機の IP アドレスが正しくありません。本機の IP アドレスを確認してください。	169
パソコン内の音楽ファイルが再生できない。	• 本機の USB 端子にパソコンを接続しても、パソコン内の音楽ファイルは再生できません。パソコンはネットワーク経由で本機に接続してください。	50
パソコン内やNAS内のファイルが表示されません。	• 本機が対応していない形式のファイルは表示しません。	212
NASに保存した曲が再生できない。	• DLNA 準拠のNASをご使用の場合は、NASの設定でDLNAサーバー機能を有効にしてください。	—
	• DLNAに準拠していないNASをご使用の場合は、パソコンを経由して再生してください。また、Windows Media Playerのメディア共有機能設定をおこない、再生対象フォルダにNASを追加してください。	82
	• 接続を制限している場合は、オーディオ機器を接続対象にしてください。	—



■ 各種オンラインサービスが再生できない

症状	原因 / 対策	関連ページ
各種オンラインサービスが再生できない。	<ul style="list-style-type: none"> サービスが終了している可能性があります。 	—

■ HDMI コントロール機能が動作しない

症状	原因 / 対策	関連ページ
HDMI コントロール機能が動作しない。	<ul style="list-style-type: none"> メニューの“HDMI コントロール”の設定が“オン”になっているか確認してください。 	143
	<ul style="list-style-type: none"> HDMI コントロール機能に対応していない機器は操作できません。また、接続する機器や設定によっては、HDMI コントロール機能が動作しない場合があります。その場合は、外部機器を直接操作してください。 	113
	<ul style="list-style-type: none"> 本機に接続しているすべての機器の HDMI コントロール機能の設定が有効になっているか確認してください。 	113
	<ul style="list-style-type: none"> HDMI 機器を追加して接続するなど、接続に関する変更をおこなうと、連動操作が初期化されることがあります。HDMI で接続した機器と本機の電源を入れ直してください。 	113



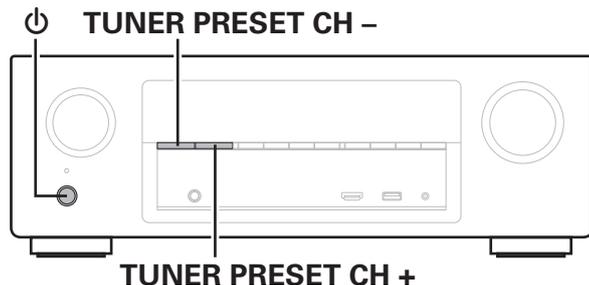
■ 無線 LAN ネットワークに接続できない

症状	原因 / 対策	関連ページ
ネットワークに接続できない。	<ul style="list-style-type: none"> ネットワーク名(SSID)、パスワードおよび暗号化設定が正しく設定できていません。ネットワークの設定と、本機の設定内容を合わせてください。 	171
	<ul style="list-style-type: none"> 無線 LAN のアクセスポイントからの距離を短くしたり、障害物をなくしたりして、見通しを良くしてから接続し直してください。また、電子レンジや他のネットワークのアクセスポイントから離して設置してください。 	—
	<ul style="list-style-type: none"> アクセスポイントのチャンネル設定を、他のネットワークで使用しているチャンネルから離して設定してください。 	—
	<ul style="list-style-type: none"> 本機は WEP(TSN)との互換性はありません。 	—
WPS 接続ができない。	<ul style="list-style-type: none"> ルータの WPS モードが動作しているか確認してください。 	—
	<ul style="list-style-type: none"> 2 分以内にテレビに表示されている「接続」ボタンをクリックしてください。 	—
	<ul style="list-style-type: none"> WPS2.0 規格に対応したルータ/設定が必要です。暗号化タイプを“なし”、“WPA-PSK (AES)” または WPA2-PSK (AES) に設定してください。 	171
	<ul style="list-style-type: none"> ルータの暗号化方式が WEP/WPA-TKIP/WPA2-TKIP のいずれかの場合は、WPS ボタンを使用して接続することはできません。この場合は“ネットワーク検索”または“手動”の方法で接続してください。 	—
iPhone/iPod touch/iPad を使用したネットワーク接続ができない。	<ul style="list-style-type: none"> iPhone/iPod touch/iPad を最新のファームウェアにアップデートしてください。 	—
	<ul style="list-style-type: none"> USB ケーブルを使用して設定する場合は、iOS 機器のファームウェアのバージョンが iOS5 以降に対応している必要があります。また、無線接続で設定する場合は、iOS7 以降に対応している必要があります。 	—



お買い上げ時の設定に戻す

表示が正しくない場合や操作ができない場合などにおこないます。
各種設定内容がお買い上げ時の設定になります。再度設定をおこなってください。



- 1 電源ボタンを押して、電源を切る。
- 2 TUNER PRESET CH + と TUNER PRESET CH - を同時に押しながら、電源ボタンを押す。
- 3 ディスプレイに “Initialized” が表示されたら、2つのボタンから指を離す。



お買い上げ時の設定に戻す前に、ウェブコントロール機能の “Save” 機能を使用すると、本機の各種設定内容を記憶しておくことができます。
([P.120 ページ](#))
ただし、ネットワークコンテンツのアカウント情報およびお気に入り登録内容は記憶できません。



保証と修理について

■ 保証書について

- この製品には保証書が添付されております。保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの上、大切に保管してください。
- 保証期間はご購入日から1年間です。

■ 保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

ご注意

保証書が添付されない場合は有料修理になりますので、ご注意ください。

■ 保証期間経過後の修理

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料修理致します。

有料修理の料金については、「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」に記載の、お近くの修理相談窓口へお問い合わせください。

■ 補修部品の保有期間

本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後8年です。

■ 修理を依頼されるとき

修理を依頼される前に

- 取扱説明書の「故障かな?と思ったら」の項目をご確認ください。
- 正しい操作をしていただけずに修理を依頼される場合がありますので、この取扱説明書をお読みいただき、お調べください。

修理を依頼されるとき

- 添付の「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」に記載の、お近くの修理相談窓口へご相談ください。
- 持ち込み修理対象製品の出張修理をご希望される場合は、別途出張料をご請求させていただくこととなりますので、あらかじめご了承ください。
- 修理を依頼されるときのために、梱包材は保存しておくことをおすすめします。



■ 依頼の際に連絡していただきたい内容

- お名前、ご住所、お電話番号
- 製品名……取扱説明書の表紙に表示しています。
- 製造番号……保証書と製品背面に表示しています。
- できるだけ詳しい故障または異常の内容

■ お客様の個人情報の保護について

- お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- この商品に添付されている保証書によって、保証書を発行している者(保証責任者)およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。



HDMI について

High-Definition Multimedia Interface の略で、テレビやアンプなどと接続できる AV 用のデジタルインターフェースです。

HDMI 接続ではアナログの映像伝送で実現できなかったハイビジョン映像の伝送や、ブルーレイディスクプレーヤーで採用された高音質音声フォーマット(Dolby Digital Plus, Dolby TrueHD, DTS-HD, DTS-HD Master Audio)の伝送ができます。

また、従来の接続では、接続する機器間を音声ケーブルと映像ケーブルを使用して接続する必要がありましたが、HDMI 接続では、HDMI ケーブル 1 本で音声信号と映像信号を伝送できます。これにより、ホームシアターシステムで煩雑になりやすい配線をすっきりさせることができます。

本機は次の HDMI 機能に対応しています。

- **Deep Color**

HDMI がサポートしている映像技術です。通常、RGB または YCbCr の各色を 8 ビット(256 階調)ずつで表現するところを、10 ビット(1024 階調)、12 ビット(4096 階調)、16 ビット(65536 階調)で表現することができるため、より高精細な色の表現を可能にします。

HDMI 接続する機器の双方が Deep Color に対応している必要があります。

- **“x.v.Color”**

色の表現がより正確になり、自然で生き生きとした映像を表現することが可能になります。

“x.v.Color” はソニーの登録商標です。

- **3D**

本機は、HDMI 規格の 3D(3 次元)映像信号の入出力に対応しています。3D 映像の再生には本機のほかに、HDMI 規格の 3D 機能に対応しているプレーヤーとテレビが必要です。また、3D 映像をご覧いただくには、別売りの 3D メガネが必要です。

- **4K**

本機は、HDMI 規格の 4K(3840 × 2160 ピクセル)映像信号の入出力に対応しています。

- **Content Type**

この機能は、出力映像の種類(コンテンツ情報)に適した設定を自動でおこないます。

- **Adobe RGB color, Adobe YCC601 color**

Adobe システムズ社が定義した色空間(カラースペース)のことです。従来の RGB よりも広い色空間を持っているため、より鮮明で自然な映像を表現することができます。

- **sYCC601 color**

“x.v.Color” 同様、これらのカラースペースは、従来の RGB よりも広い色空間を定義します。



- **オートリップシンク**

映像と音声のずれを自動的に補正します。
オートリップシンク機能対応のテレビを使用してください。

- **HDMI パススルー**

本機の電源がスタンバイ状態のときでも HDMI 入力端子から入力された信号を、HDMI 出力端子に接続されたテレビや他の機器に出力します。

- **HDMI コントロール**

本機と HDMI コントロール機能対応のテレビやプレーヤーを HDMI ケーブルで接続し、それぞれの機器の HDMI コントロール機能の設定を有効にすると、機器間で相互に制御することができます。

- **電源オフ連動**
テレビの電源オフ操作に連動して、本機の電源をオフにできます。
- **音声出力先の切り替え**
テレビの操作で音声をテレビから出力するか、AV アンプから出力するか切り替えることができます。
- **音量調節**
テレビの音量調節操作で、本機の音量の調節ができます。
- **入力ソースの切り替え**
テレビの入力の切り替え操作に連動して、本機の入力ソースが切り替わります。
プレーヤーを再生すると、本機の入力ソースがそのプレーヤーの入力ソースに切り替わります。

- **ARC(Audio Return Channel(オーディオ・リターン・チャンネル))**

HDMI コントロール制御のもと、テレビの音声信号を HDMI ケーブルを経由して本機に伝送し、本機でテレビの音声を再生する機能です。

ARC 機能のないテレビとの HDMI 接続では、本機に接続した再生機器の映像信号をテレビに伝送することはできても、テレビの音声を本機で再生することはできません。テレビ番組をサラウンド音声で視聴したい場合などには、別途音声ケーブルの接続が必要になります。

これに対し、ARC 機能のあるテレビとの HDMI 接続では、音声ケーブルの接続は不要です。本機とテレビを接続する HDMI ケーブルを通して、テレビの音声信号を本機に入力することができます。この機能により、テレビの音声を本機のサラウンド再生で楽しみいただけます。



■ 対応する音声フォーマット

2チャンネルリニア PCM	2チャンネル、32kHz~192kHz、 16/20/24bit
マルチチャンネルリニア PCM	7.1チャンネル、32kHz~192kHz、 16/20/24bit
ビットストリーム	Dolby Digital / DTS / Dolby TrueHD / Dolby Digital Plus / DTS-HD Master Audio / DTS-HD High Resolution Audio / DTS Express / MPEG-2 AAC

■ 対応する映像信号

- 480i
- 576i
- 720p 60/50Hz
- 1080p 60/50/24Hz
- 480p
- 576p
- 1080i 60/50Hz
- 4K 60/50/30/25/24 Hz

著作権保護システムについて

HDMI 接続を通して BD ビデオや DVD ビデオなどのデジタル映像と音声再生するためには、本機とテレビとプレーヤーのすべてが HDCP (High-bandwidth Digital Content Protection System) と呼ばれる著作権保護システムに対応している必要があります。HDCP はデータの暗号化と相手機器の認証からなるコピープロテクション技術です。本機は、HDCP に対応しています。

- HDCP に対応していない機器を接続した場合は、映像と音声を正しく出力できません。お手持ちのテレビやプレーヤーなどについては、それぞれの取扱説明書をご覧ください。



本機を Deep Color(ディーブ・カラー)、4K、ARC 機能対応の機器と接続する場合は、HDMI ロゴのある“イーサネット対応ハイスピード HDMI ケーブル”を使用してください。



USB メモリーの再生について

- MP3 ID3 タグ(バージョン 2.0)に対応しています。
- 本機では、MP3 ID3 タグのバージョン 2.3 または 2.4 を使用して、アートワークを表示できます。
- WMA META タグに対応しています。
- アルバムアートの画素サイズ(ピクセル)が 500×500(WMA/MP3/WAV/FLAC)または 349×349(MPEG-4 AAC)を超えている場合は、正しく再生できないことがあります。

■ 再生できるファイルの仕様

	サンプリング周波数	ビットレート	拡張子
WMA (Windows Media Audio)*1	32/44.1/48kHz	48~192 kbps	.wma
MP3 (MPEG-1 Audio Layer-3)	32/44.1/48kHz	32~320 kbps	.mp3
WAV	32/44.1/48/88.2/ 96/176.4/192kHz	—	.wav
MPEG-4 AAC*1	32/44.1/48kHz	16~320 kbps	.aac/ .m4a/ .mp4
FLAC (Free Lossless Audio Codec)	32/44.1/48/88.2/ 96/176.4/192kHz	—	.flac
ALAC (Apple Lossless Audio Codec)*2	32/44.1/48/88.2/ 96kHz	—	.m4a
DSD	2.8MHz	—	.dsf/ .dff
AIFF	32/44.1/48/88.2/ 96/176.4/192kHz	—	.aif/ .aiff

*1 著作権保護のないファイルのみ再生できます。インターネット上の有料音楽サイトからダウンロードしたコンテンツには著作権保護がかかっています。また、パソコンで CD などからリッピングする際に WMA でエンコードすると、パソコンの設定により著作権保護がかかる場合があります。

*2 Copyright [2012] [D&M Holdings, Inc.] Apache License Version 2.0(「本ライセンス」)に基づいてライセンスされます。このファイルを使用するためには、本ライセンスに従わなければなりません。本ライセンスのコピーは下記の URL から入手できます。

<http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0>



ゾーン 2 では、DSD 信号の再生はできません。



■ 再生可能な最大ファイル数とフォルダ数

本機で表示できるフォルダやファイルの制限数は次のとおりです。

項目	メディア	USB メモリー
メモリーの容量		FAT16 : 2GB、FAT32 : 2TB
フォルダの階層数 *1		8 階層
フォルダ数		500
ファイル数 *2		5000

*1 制限数にはルートフォルダを含みます。

*2 USB メモリーの容量やファイルサイズにより、許容ファイル数が変わる場合があります。

Bluetooth 機器の再生について

本機は、次の Bluetooth プロファイルに対応しています。

- A2DP (Advanced Audio Distribution Profile) :
この規格に対応している Bluetooth 機器を接続すると、モノラルやステレオの音声データを高品質にストリーミング配信することができます。
- AVRCP (Audio/Video Remote Control Profile) :
この規格に対応している Bluetooth 機器を接続すると、本機から Bluetooth 機器を操作することができます。

■ Bluetooth 通信について

本機からの電波放送は、医療機器の操作を妨げることがあります。電波干渉は故障の原因となるため、次の場所では本機と Bluetooth 機器の電源を必ず切ってください。

- 病院、電車、航空機、ガソリンスタンドや可燃性ガスを発生する場所
- 自動ドアや火災報知機の近く



パソコンやNASに保存されているファイルの再生について

- MP3 ID3 タグ(バージョン 2.0)に対応しています。
- 本機では、MP3 ID3 タグのバージョン 2.3 または 2.4 を使用して、アートワークを表示させることができます。
- WMA META タグに対応しています。
- アルバムアートの画素サイズ(ピクセル)が 500×500(WMA/MP3/WAV/FLAC)または 349×349(MPEG-4 AAC)を超えている場合は、正しく再生できないことがあります。
- ネットワーク経由での音楽ファイルの再生には、そのフォーマットの配信に対応したサーバーまたはサーバーソフトウェアが必要です。

■ 再生できるファイルの仕様

	サンプリング周波数	ビットレート	拡張子
WMA (Windows Media Audio)*1	32/44.1/48kHz	48~192 kbps	.wma
MP3 (MPEG-1 Audio Layer-3)	32/44.1/48kHz	32~320 kbps	.mp3
WAV	32/44.1/48/88.2/ 96/176.4/192kHz	—	.wav
MPEG-4 AAC*1	32/44.1/48kHz	16~320 kbps	.aac/ .m4a/ .mp4
FLAC (Free Lossless Audio Codec)	32/44.1/48/88.2/ 96/176.4/192kHz	—	.flac
ALAC (Apple Lossless Audio Codec)*2	32/44.1/48/88.2/ 96kHz	—	.m4a
DSD	2.8MHz	—	.dsf/ .dff
AIFF	32/44.1/48/88.2/ 96/176.4/192kHz	—	.aif/ .aiff

- *1 著作権保護のないファイルのみ再生できます。インターネット上の有料音楽サイトからダウンロードしたコンテンツには著作権保護がかかっています。また、パソコンで CD などからリッピングする際に WMA でエンコードすると、パソコンの設定により著作権保護がかかる場合があります。
- *2 Copyright [2012] [D&M Holdings, Inc.] Apache License Version 2.0(「本ライセンス」)に基づいてライセンスされます。このファイルを使用するためには、本ライセンスに従わなければなりません。本ライセンスのコピーは下記の URL から入手できます。
<http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0>



ゾーン 2 では、DSD 信号の再生はできません。



インターネットラジオの再生について

■ 再生できる放送局の仕様

	サンプリング周波数	ビットレート	拡張子
WMA (Windows Media Audio)	32/44.1/48kHz	48~192 kbps	.wma
MP3 (MPEG-1 Audio Layer-3)	32/44.1/48kHz	32~320 kbps	.mp3
MPEG-4 AAC	32/44.1/48kHz	16~320 kbps	.aac/ .m4a/ .mp4

パーソナルメモリープラス機能

前回使用していたときの設定内容(入力モード、HDMI 出力モード、サウンドモード、トーンコントロール、チャンネルレベル、MultEQ® XT、Dynamic EQ、Dynamic Volume、リストアラーやオーディオディレイなど)を入力ソースごとに記憶します。



“サラウンドパラメーター” の設定は、サウンドモードごとに記憶します。

ラストファンクションメモリー

スタンバイにする直前の各種設定を記憶します。



サウンドモードとチャンネル出力の関係

○ 音声を出力するチャンネル、または設定できるサラウンドパラメーターを示します。

◎ 音声を出力するチャンネルを示します。ただし、メニューの“スピーカーの構成”([162](#) ページ) の設定により出力するチャンネルが異なります。

サウンドモード (102 ページ)	チャンネル出力					
	フロント左/右	センター	サラウンド左/右	サラウンドバック左/右	フロントハイト左/右	サブウーハー
Direct (2 チャンネル)	○					◎*3
Direct (マルチチャンネル)	○	◎	◎	◎*1	◎*1	◎
Stereo	○					◎
Multi Ch In	○	◎	◎	◎*1		◎
Dolby Pro Logic IIz	○	◎	◎		◎	◎
Dolby Pro Logic IIx	○	◎	◎	◎		◎
Dolby Pro Logic II	○	◎	◎			◎
DTS Neo:6	○	◎	◎	◎		◎
Dolby Digital	○	◎	◎	◎	◎*2	◎
Dolby Digital Plus	○	◎	◎	◎*1	◎*1	◎
Dolby TrueHD	○	◎	◎	◎*1	◎*1	◎
DTS Surround	○	◎	◎	◎	◎*2	◎
DTS 96/24	○	◎	◎	◎	◎*2	◎
DTS-HD	○	◎	◎	◎*1	◎*1	◎
DTS Express	○	◎	◎	◎	◎*2	◎
MPEG2 AAC	○	◎	◎	◎	◎*2	◎
Multi Ch Stereo	○	◎	◎	◎	◎	◎
Rock Arena	○	◎	◎	◎	◎	◎
Jazz Club	○	◎	◎	◎	◎	◎
Mono Movie	○	◎	◎	◎	◎	◎
Video Game	○	◎	◎	◎	◎	◎
Matrix	○	◎	◎	◎	◎	◎
Virtual	○					◎

*1 入力信号に含まれるチャンネルを出力します。

*2 設定しているサウンドモード名に“+PLIIz”が含まれているときに音声を出力します。

*3 メニューの“サブウーハーモード”が“LFE+メイン”に設定されている場合に音声を出力します。([167](#) ページ)



サウンドモードとパラメーター一覧表

サウンドモード (☞102 ページ)	サラウンドパラメーター (☞131 ページ)									
	ダイアログ レベル (☞130 ページ)	サブウーハー レベル (☞130 ページ)	シネマ EQ (☞131 ページ)	ラウドネスマ ネージメン ト*1 (☞131 ページ)	ダイナミックレ ンジ圧縮 *2 (☞132 ページ)	LFE *3 (☞132 ページ)	ディレイタイ ム (☞133 ページ)	エフェクトレ ベル (☞133 ページ)	ルームサイズ (☞134 ページ)	Height ゲイ ン *4 (☞134 ページ)
Direct (2 チャンネル)		○*5		○	○					
Direct (マルチチャンネル)	○	○		○	○					
Stereo		○		○	○					
Multi Ch In	○	○	○			○				○
Dolby Pro Logic IIz	○	○	○	○	○					○
Dolby Pro Logic IIx	○	○	○	○	○					
Dolby Pro Logic II	○	○	○	○	○					
DTS Neo:6	○	○	○	○	○					
Dolby Digital	○	○	○		○	○				○
Dolby Digital Plus	○	○	○		○	○				○
Dolby TrueHD	○	○	○	○	○	○				○
DTS Surround	○	○	○		○	○				○
DTS 96/24	○	○	○			○				○
DTS-HD	○	○	○			○				○
DTS Express	○	○	○			○				○
MPEG2 AAC	○	○	○*7			○				○
Multi Ch Stereo	○	○	○	○	○	○				
Rock Arena	○	○		○	○	○		○	○	
Jazz Club	○	○		○	○	○		○	○	
Mono Movie	○	○		○	○	○		○	○	
Video Game	○	○		○	○	○		○	○	
Matrix	○	○		○	○	○	○			
Virtual		○		○	○	○				

*1～*5 : 「サウンドモードとパラメーター一覧表」(☞217 ページ)



サウンドモード (☞102 ページ)	サラウンドパラメーター (☞131 ページ)				トーンコントロール *6 (☞99 ページ)	Audyssey (☞137 ページ)			リストアラー *9 (☞135 ページ)
	Pro LogicII/IIx Music モードのみ			Neo:6 Music モード のみ		MultEQ® XT *7 (☞138 ページ)	Dynamic EQ *8 (☞138 ページ)	Dynamic Volume *8 (☞139 ページ)	
	パノラマ (☞132 ページ)	ディメンション (☞133 ページ)	センター幅 (☞133 ページ)	センターイ メージ (☞132 ページ)					
Direct (2 チャンネル)									
Direct (マルチチャンネル)									
Stereo						○	○	○	○
Multi Ch In					○	○	○	○	
Dolby Pro Logic IIz					○	○	○	○	○
Dolby Pro Logic IIx	○	○	○		○	○	○	○	○
Dolby Pro Logic II	○	○	○		○	○	○	○	○
DTS Neo:6				○	○	○	○	○	○
Dolby Digital					○	○	○	○	
Dolby Digital Plus					○	○	○	○	
Dolby TrueHD					○	○	○	○	
DTS Surround					○	○	○	○	
DTS 96/24					○	○	○	○	
DTS-HD					○	○	○	○	
DTS Express					○	○	○	○	
MPEG2 AAC					○	○	○	○	
Multi Ch Stereo					○	○	○	○	○
Rock Arena					○*10	○	○	○	○
Jazz Club					○	○	○	○	○
Mono Movie					○	○	○	○	○
Video Game					○	○	○	○	○
Matrix					○	○	○	○	○
Virtual					○	○	○	○	○

*6~*10: 「サウンドモードとパラメーター一覧表」(☞217 ページ)



- *1 この項目は、Dolby TrueHD 信号を再生しているときに選択できます。
- *2 Dolby TrueHD、Dolby Digital または DTS 信号を再生しているときに選択できます。
- *3 この項目は、Dolby Digital、DTS または DVD オーディオを再生しているときに選択できます。
- *4 設定しているサウンドモード名に "+PLIIZ" が含まれているときに設定できます。
- *5 メニューの "サブウーハーモード" が "LFE+メイン" に設定されているときに設定できます。(☞ 167 ページ)
- *6 メニューの "Dynamic EQ" の設定が "オン" のときは設定できません。(☞ 138 ページ)
- *7 この項目は Audyssey®セットアップ(スピーカーの測定)を実施していない場合は設定できません。
- *8 メニューの "MultEQ® XT" の設定が "オフ" のときは設定できません。(☞ 138 ページ)
- *9 この項目は、入力信号がアナログ、PCM 48kHz または 44.1kHz のときに設定できます。
- *10 このモードのときは、低音が+6dB、高音が+4dB になります。(お買い上げ時の設定)



入力信号の種類と対応するサウンドモード

● お買い上げ時に設定されているサウンドモードを示します。

○ 選択できるサウンドモードを示します。

サウンドモード (P.102 ページ)	ご注意	2チャンネル信号		マルチチャンネル信号										
		Analog/ PCM	Dolby Digital (+/HD)/DTS (-HD)/ MPEG-2 AAC	PCM Multi	DTS- HD	DTS Express	DTS ES DSCRT 6.1	DTS ES MTRIX 6.1	DTS	Dolby TrueHD	Dolby Digital Plus	Dolby Digital EX	Dolby Digital	MPEG-2 AAC
DTS Surround														
DTS-HD Mstr					●*6									
DTS-HD Hi Res					●*7									
DTS ES Dscrt6.1	*1						●							
DTS ES Mtrx6.1	*1							●						
DTS Surround									●					
DTS 96/24									●*8					
DTS (-HD) + PLIIx	*1*2				○	○			○					
DTS (-HD) + PLIIz	*3				○	○	○	○	○					
DTS Express						●								
DTS Neo:6	*4	○	○											
Dolby Surround														
Dolby TrueHD										●				
Dolby Digital+											●			
Dolby Digital EX	*1											○	○	
Dolby (D+) (HD) + EX	*1									○	○			
Dolby Digital												●	●	
Dolby (D) (D+) (HD) + PLIIx	*1*2									○	○	○	○	
Dolby (D) (D+) (HD) + PLIIz	*3									○	○	○	○	
Dolby Pro Logic II/Ix	*5	○	○											
Dolby Pro Logic IIz	*3	○	○											

*1～*8: 「入力信号の種類と対応するサウンドモード」([P.220](#) ページ)



サウンドモード (P.102 ページ)	ご注意	2チャンネル信号		マルチチャンネル信号										
		Analog/ PCM	Dolby Digital (+/-HD)/DTS (-HD) Dolby Digital (+/-HD)/DTS (-HD)/ MPEG-2 AAC	PCM Multi	DTS- HD	DTS Express	DTS ES DSCRT 6.1	DTS ES MATRIX 6.1	DTS	Dolby TrueHD	Dolby Digital Plus	Dolby Digital EX	Dolby Digital	MPEG-2 AAC
Multi Ch In				●										
Multi Ch In				○										
Multi Ch In + Dolby EX	*1			○										
Multi Ch In + PLIIx	*1*2			○										
Multi Ch In + PLIIz	*3			○										
Multi Ch In 7.1	*1			●*10										
MPEG-2 AAC														
MPEG2 AAC														●
Direct														
Direct		○*9	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
オリジナルサウンドモード														
Multi Ch Stereo		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Rock Arena		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Jazz Club		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Mono Movie		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Video Game		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Matrix		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Virtual		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Stereo														
Stereo		●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

*1~*3, *9, *10 : 「入力信号の種類と対応するサウンドモード」([P.220](#) ページ)



- *1 サラウンドバックスピーカーを使用しているときに選択できます。
- *2 “Cinema” モードまたは “Music” モードを選択できます。サラウンドバックスピーカーを 1 本のみご使用の場合は、“Music” モードになります。
- *3 この項目は、フロントハイトスピーカーを使用しているときに選択できます。
- *4 “Cinema” モードまたは “Music” モードを選択できます。
- *5 “Cinema” モード、“Music” モードまたは “Game” モードを選択できます。
- *6 この項目は、入力信号が DTS-HD Master Audio の場合に選択できます。
- *7 この項目は、入力信号が DTS-HD Hi Resolution の場合に選択できます。
- *8 この項目は、入力信号が DTS 96/24 の場合に選択できます。
- *9 お買い上げ時の AirPlay 再生のサウンドモードは、Direct です。
- *10 この項目は、入力信号にサラウンドバックを含む場合に選択できます。



用語の解説

■ Audyssey

Audyssey Dynamic EQ[®]

Dynamic EQ は、人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、音量レベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぐ技術です。

Audyssey Dynamic EQ[®]は、Audyssey MultEQ[®] XT 技術と連動することによりすべての音量レベルに対して最適なバランスの音質をすべてのリスナーに提供します。

Audyssey Dynamic Volume[®]

Dynamic Volume は、テレビや映画など再生されるコンテンツ内における音量レベルの変化(静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など)をユーザーの好みの音量設定値に自動的に調節する技術です。また、Audyssey Dynamic Volume[®]の技術をアルゴリズムの中に取り込むことにより音量レベルの調節時やテレビチャンネルの切り替え時、ステレオコンテンツからサラウンドコンテンツなどの切り替え時でも低域特性や音質バランス、サラウンド効果、ダイアログの明瞭さを保っています。

Audyssey MultEQ[®] XT

Audyssey MultEQ[®] XT は、広いリスニングエリア内のどのリスナーにも最適なリスニング環境を提供する補正技術です。

Audyssey MultEQ[®] XT は、複数位置での測定に基づいて、時間特性と周波数特性の双方を補正すると共に、全自動でサラウンドシステムセットアップを実行します。

■ Dolby

Dolby Digital

Dolby Digital は、ドルビーラボラトリーズにより開発されたマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。

再生チャンネルは、フロント 3 チャンネル(FL、FR、C)とサラウンド 2 チャンネル(SL、SR)、低音域専用の LFE チャンネルの合計 5.1 チャンネルで構成されています。

このため、チャンネル間のクロストークもなく、音の遠近感、移動感、定位感など立体感のある音場をリアルに再現することができます。AV ルームでの映画ソフト再生においても、リアルで圧倒的な臨場感を生み出します。



Dolby Digital Plus

Dolby Digital Plus は、Dolby Digital を改良した信号フォーマットで、最大 7.1 チャンネルのデジタルディスクリット音声対応とともに、データビットレートに余裕を持たせることにより音質の向上が図られています。従来の Dolby Digital に対して上位互換であるため、ソース信号や再生機器の状況に応じて、より柔軟性の高い運用が可能となっています。

Dolby Digital EX

Dolby Digital EX は、ドルビー研究所とルーカスフィルム社が共同で開発した音響フォーマット “Dolby Digital Surround EX” を、家庭で楽しむためにドルビー研究所が提案した 6.1 チャンネルのサラウンドフォーマットです。

サラウンドバックチャンネルを含めた 6.1 チャンネルでの音場再生により、空間表現力や定位感が向上します。

Dolby Pro Logic II

Dolby Pro Logic II は、ドルビーラボラトリーズにより開発されたマトリクスデコード技術です。

CD のような通常の音楽は 5 チャンネルの信号にエンコードし、優れた立体音域効果を発揮します。

サラウンドチャンネルはステレオ化、フルバンド化(周波数特性 20Hz~20kHz 以上)し、あらゆるステレオ音源を臨場感豊かな立体音像でお楽しみいただけます。

Dolby Pro Logic IIx

Dolby Pro Logic IIx は、Dolby Pro Logic II をさらに改良したマトリクスデコード技術です。2 チャンネルで記録された音声をデコードし、自然な最大 7.1 チャンネルの音声を再生できます。音楽再生に適した “Music” モードと映画再生に適した “Cinema” モード、ゲームをお楽しみになるときに最適な “Game” モードがあります。



Dolby Pro Logic IIz

Dolby Pro Logic IIz は、ソースに収録されている高いところで鳴っている「空間的な手がかり」を持った音響成分から、フロント・ハイトチャンネル信号を生成し出力するデコード技術です。2 チャンネルソースや 7.1/5.1 マルチチャンネルソースなどのあらゆるソースに対応します。

リスニング空間の前方上の左右にハイトスピーカーを加えることで、映画/音楽/ゲームなどの再生により一層の空間の広がり感や奥行き感をお楽しみいただけます。

フロントハイトスピーカーは本棚などに設置できますので、サラウンドバックスピーカーのようにフロアスペースを使わずに、より簡単に理想的なサラウンド環境をつくることができます。

Dolby TrueHD

Dolby TrueHD は、ドルビーラボラトリーズの高精細音声技術で、ロスレス符号化技術を用いることによりマスター音声の忠実な再現を可能としています。

このフォーマットはサンプリング周波数 96kHz/24bit では最大 8 チャンネル、サンプリング周波数 192kHz/24bit では最大 6 チャンネルの音声に対応しており、特に音質を重視したアプリケーションに採用されています。

■ DTS

DTS

Digital Theater System の略で、DTS 社が開発したデジタル音声システムです。DTS 対応アンプなどと接続して再生すると、映画館のような正確な音場定位と臨場感のある音響効果が得られません。

DTS 96/24

DTS 96/24 は、DVD-Video 上でサンプリング周波数 96kHz/量子化ビット数 24bit の高音質再生を可能としたデジタル音声フォーマットです。チャンネル数は 5.1 チャンネルとなります。

DTS Digital Surround

DTSTM Digital Surround は、DTS 社の標準デジタルサラウンドフォーマットで、サンプリング周波数が 44.1kHz または 48kHz、再生チャンネル数が最大 5.1 チャンネルのデジタルディスクリートサラウンド音声フォーマットです。



DTS-ES™ Discrete 6.1

DTS-ES™ Discrete 6.1 は、DTS デジタルサラウンド音声に加えてサラウンドバックチャンネルを追加した 6.1 チャンネルのデジタルディスクリット音声フォーマットです。デコーダーに応じて従来の 5.1 チャンネル音声としてデコードすることも可能です。

DTS-ES™ Matrix 6.1

DTS-ES™ Matrix 6.1 は、DTS デジタルサラウンド音声にサラウンドバックチャンネルをマトリクスエンコードにて挿入した 6.1 チャンネル音声フォーマットです。デコーダーに応じて従来の 5.1 チャンネル音声としてデコードすることも可能です。

DTS Express

DTS Express は、最大 5.1 チャンネルの 24kbps～256kbps までのロービットレートをサポートする音声フォーマットです。

DTS-HD

ブルーレイディスクのオプション音声として採用された、従来の DTS をさらに高音質・高機能化したデジタル音声技術です。多チャンネル、高データ転送速度、高サンプリング周波数やロスレス・オーディオ再生をサポートしています。ブルーレイディスクでは、最大 7.1 チャンネルまで対応しています。

DTS-HD High Resolution Audio

DTS-HD High Resolution Audio は、従来の DTS、DTS-ES、DTS 96/24 フォーマットを改良した信号フォーマットで、サンプリング周波数の 96kHz/48kHz 対応に加えて最大 7.1 チャンネルのデジタルディスクリット音声に対応しています。余裕あるデータビットレートによって高音質を図るとともに、従来の DTS デジタルサラウンド 5.1 チャンネルのデータも含むため従来製品との完全な互換性を有しています。

DTS-HD Master Audio

DTS-HD Master Audio は、DTS 社のロスレス音声フォーマットで、サンプリング周波数 96kHz/24bit では最大 8 チャンネル、サンプリング周波数 192kHz/24bit では最大 6 チャンネルに対応しています。また、従来の DTS デジタルサラウンド 5.1 チャンネルのデータも含むため従来製品との完全な互換性を有しています。

DTS Neo:6™ Surround

DTS Neo:6™ は、2 チャンネルソースを 6.1 チャンネルのサラウンド再生するマトリクスデコード技術です。映画再生に適した “DTS Neo:6 Cinema” と、音楽再生に適した “DTS Neo:6 Music” があります。



■ 音声

ALAC (Apple Lossless Audio Codec)

アップル社が開発した音声データ可逆圧縮方式のコーデックです。iTunes や iPhone、iPod で再生できます。約 60~70% に圧縮されたデータを完全に元通りのデータに再現します。

FLAC (Free Lossless Audio Codec)

可逆圧縮方式のフリーの音声ファイルフォーマットです。可逆圧縮のため、原音からの音質の劣化がありません。

FLAC のライセンスについては、次のとおりです。

Copyright (C) 2000, 2001, 2002, 2003, 2004, 2005, 2006, 2007, 2008, 2009 Josh Coalson

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- Neither the name of the Xiph.org Foundation nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE FOUNDATION OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

LFE

Low Frequency Effect の略で、低音部の効果音を強調するための出力チャンネルです。20Hz~120Hz の重低音を出力することで、サラウンド音声に迫力を加えることができます。

MP3 (MPEG Audio Layer-3)

音声データ圧縮方式の 1 つで、国際的な標準規格です。映像圧縮方式の「MPEG-1」に採用されています。音楽 CD 並の音質を保ったままデータ量を約 1/11 に圧縮できます。

MPEG-2 AAC

MPEG-2 AAC (Advanced Audio Coding) は、MPEG (Moving Picture Experts Group) により開発されたマルチチャンネル音声フォーマットです。



高音質・高圧縮率を確保できることが特長です。
MPEG-2 AACにより地上デジタル放送やBS デジタル放送などで配信される高音質音楽番組やマルチチャンネル音声の映画など、臨場感あふれるサラウンド再生が楽しめます。

【米国におけるパテントナンバー】

08/937,950	5,579,430	5,299,238
5848391	08/678,666	5,299,239
5,291,557	98/03037	5,299,240
5,451,954	97/02875	5,197,087
5 400 433	97/02874	5,490,170
5,222,189	98/03036	5,264,846
5,357,594	5,227,788	5,268,685
5 752 225	5,285,498	5,375,189
5,394,473	5,481,614	5,581,654
5,583,962	5,592,584	05-183,988
5,274,740	5,781,888	5,548,574
5,633,981	08/039,478	08/506,729
5 297 236	08/211,547	08/576,495
4,914,701	5,703,999	5,717,821
5,235,671	08/557,046	08/392,756
07/640,550	08/894,844	

MPEG (Moving Picture Experts Group), MPEG-2, MPEG-4

デジタル圧縮形式として映像や音声を符号化するために使用される規格群の名前です。ビデオの規格には、“MPEG-1 Video”、“MPEG-2 Video”、“MPEG-4 Visual”、“MPEG-4 AVC”などがあります。音声の規格には、“MPEG-1 Audio”、“MPEG-2 Audio”、“MPEG-4 AAC”などがあります。

WMA (Windows Media Audio)

米国 Microsoft Corporation によって開発された音声圧縮技術です。

WMA データは、Windows Media® Player を使用してエンコード(符号化)することができます。

WMA ファイルは、米国 Microsoft Corporation より認証を受けたアプリケーションを使用してエンコードしてください。もし、認証されていないアプリケーションを使用すると、正しく動作しないことがあります。



サンプリング周波数

サンプリングとは、音の波(アナログ信号)を一定時間の間隔で刻み、刻まれた波の高さを数値化(デジタル信号化)することです。

1秒間に刻む回数をサンプリング周波数といい、この数値が大きいほど原音に近い音を再現できます。

スピーカーインピーダンス

交流抵抗値のことで Ω (オーム) という単位であらわします。

この値が小さいほど大きな電力が得られます。

ダイアログノーマライゼーション機能

Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、DTS または DTS-HD ソースの再生中、自動的に動作します。

この機能は、プログラムソースごとに異なる標準信号レベルを自動的に補正します。

ダイナミックレンジ

機器が出すノイズに埋もれてしまわない最小音と、音割れしない最大音との音量差のことです。

ダウンミックス

サラウンド音声のチャンネル数を、より少ないチャンネル数に変換して再生する機能です。

■ 映像

ISF

ISF(Imaging Science Foundation)は、機器の映像性能を最適化するための品質基準を設定するとともに、設置条件に合わせたキャリブレーション調整が可能な映像技術者の認定をおこなっている団体です。

プログレッシブ(順次走査)

映像の1フレームを1つの画像として表示する映像信号の走査方式です。インターレース方式に比べ画像のちらつきやにじみが少ない映像を再生できます。

■ ネットワーク

AES(Advanced Encryption Standard)

現在用いられている DES、3DES に代わる次世代の標準暗号方式で、強固な暗号方式として無線 LAN への幅広い普及が見込まれています。暗号化アルゴリズムには、ベルギーの暗号開発者が開発した「Rijndael(ラインダール)」が採用され、データを固定のブロック長で区切ってそれぞれ暗号化をおこないます。データ長は 128、192、256 ビット、鍵の長さは 128、192、256 ビットがサポートされていて暗号強度は非常に高く設定されています。



AirPlay

iTunes または iPhone、iPod touch、iPad に収録されているコンテンツをネットワーク経由で対応する機器に転送(再生)する機能です。

DLNA

DLNA および DLNA CERTIFIED は、Digital Living Network Alliance の商標/サービスマークです。コンテンツには DLNA CERTIFIED[®]製品と適合しないものがある可能性があります。

IEEE 802.11b

IEEE(米国電気電子学会)で LAN 技術の標準を策定している 802 委員会が定めた、無線 LAN の規格の 1 つです。無線免許無しで自由に使用可能な 2.4GHz 帯の電波(ISM バンド)を使用し、最大 11Mbps の速度で通信できます。

表示の数値は、無線 LAN 規格の理論上の最大値であり、実際のデータの転送速度を示すものではありません。

IEEE 802.11g

IEEE(米国電気電子学会)で LAN 技術の標準を策定している 802 委員会が定めた、無線 LAN の規格の 1 つです。IEEE 802.11b と互換性を持ち、同じ 2.4GHz 帯を使用しながら、最大で 54Mbps の通信がおこなえます。

表示の数値は、無線 LAN 規格の理論上の最大値であり、実際のデータの転送速度を示すものではありません。

TKIP(Temporal Key Integrity Protocol)

WPA で使用される、ネットワークキーの 1 つです。暗号化アルゴリズムは WEP と同じ RC4 ですが、1 パケットごとに暗号化に使用するネットワークキーを変更することで、セキュリティレベルが高くなっています。

vTuner

インターネットラジオの無料オンラインコンテンツサービスです。

本サービスに関するお問い合わせは、下記 vTuner のサイトまでお願いします。

vTuner ホームページ:

<http://www.radiodenon.com>

本製品は、Nothing Else Matters Software and BridgeCo の知的財産権により保護されています。当該技術の本製品以外での使用または配布は、Nothing Else Matters Software and BridgeCo の許諾がない限り禁止されています。

WEP Key(ネットワークキー)

データ通信をおこなう際にデータを暗号化するために使用する鍵情報です。本機はデータの暗号化/復号化ともに同一の WEP キー(ネットワークキー)を用いるため、通信する相手と同一の WEP キーを設定する必要があります。



Wi-Fi®

無線 LAN の互換性接続を保証する団体「Wi-Fi Alliance」の相互接続性テストを合格していることを示します。

WPA(Wi-Fi Protected Access)

Wi-Fi アライアンスが策定したセキュリティ規格です。従来の SSID (ネットワーク名) や WEP キー (ネットワークキー) に加えて、ユーザ認証機能や暗号化プロトコルを採用して、セキュリティを強化しています。

WPA2(Wi-Fi Protected Access 2)

Wi-Fi アライアンスが策定した WPA の新バージョンです。WPA と比べ、より強力な AES 暗号に対応しています。

WPA-PSK/WPA2-PSK(Pre-shared Key)

あらかじめ設定した文字列が無線 LAN アクセスポイントとクライアントで一致した場合、相互認証をおこなう簡易認証の方式です。

WPS(Wi-Fi Protected Setup)

無線 LAN 機器の接続とセキュリティ設定を簡単に実行するために Wi-Fi アライアンスが策定した規格です。プッシュボタン方式と PIN(Personal identification number)コード方式の 2 種類があります。

ネットワーク名(SSID: Security Set Identifier)

無線 LAN のネットワークを構成するとき、混信やデータの盗難などを防ぐために、グループ分けをします。このグループ分けを「SSID (ネットワーク名)」でおこないます。さらにセキュリティ強化のために、WEP キーを設定し、「SSID」と WEP キーが一致しないと通信できないようになっています。一時的な簡易ネットワークを構成する場合に適しています。

モデム

ブロードバンド回線と接続して、インターネットと通信をおこなうための機器です。ルータと一体型のものもあります。



■ メディアプレーヤー

iTunes

アップル社が提供しているマルチメディアプレーヤーの名称です。

音楽をはじめとしてビデオなどのコンテンツを管理・再生することができます。AAC をはじめとして WAV や MP3 など主要なファイル形式に対応しています。

Windows Media Player

マイクロソフト社が無料で提供しているメディアプレーヤーです。

Windows Media Player のバージョン 11 以降で作成されたプレイリストや WMA、WAV ファイルなどが再生可能です。

■ その他

App Store

アップル社が運営している iPhone や iPod touch 向けのアプリケーションソフトの販売サイトです。

HDCP

機器間でデジタル信号を送受信する際に信号を暗号化し、コンテンツが不正にコピーされるのを防止する著作権保護技術の 1 つです。

ゾーン 2

本機は、本機が設置されている部屋(メインゾーン)以外の 1 つの部屋でも本機の再生をおこなうことができます(ゾーン 2 再生)。ゾーン 2 再生をおこなう部屋をゾーン 2 と呼びます。

メインゾーン

本機が設置されている部屋をメインゾーンと呼びます。



ペアリング

ペアリング(登録)とは、Bluetooth 機器と本機を接続するために必要な操作です。ペアリングすると互いの機器が認証し合うので、混線することなく接続できます。

はじめて Bluetooth 機器を接続する場合は、最初に本機と本機に接続する Bluetooth 機器をペアリングする必要があります。

本機は最大 8 台までのペアリング情報を保持します。

保護回路

何らかの原因で過負荷や過電圧、高温状態などの異常が起きたときに、電源内部の部品が破損するのを防止する機能です。

本機では、異常発生時には電源表示が赤色に点滅し、スタンバイ状態になります。



登録商標について



"Made for iPod" and "Made for iPhone" mean that an electronic accessory has been designed to connect specifically to iPod, or iPhone, respectively, and has been certified by the developer to meet Apple performance standards.

Apple is not responsible for the operation of this device or its compliance with safety and regulatory standards. Please note that the use of this accessory with iPod, or iPhone, may affect wireless performance. AirPlay, the AirPlay logo, iPad, iPhone, iPod, iPod classic, iPod nano, iPod shuffle and iPod touch are trademarks of Apple Inc., registered in the U.S. and other countries.

- iPhone, iPod, iPod classic, iPod nano, iPod shuffle および iPod touch は、著作権のないコンテンツまたは法的に複製、再生を許諾されたコンテンツを個人が私的に複製、再生するために使用許諾されるものです。著作権の侵害は法律上禁止されています。

AUDYSSEY

MULTEQ XT
DYNAMIC VOLUME

本機は、Audyssey Laboratories™からのライセンス契約に基づき製造されています。米国共同で外国特許審議中。Audyssey MultEQ® XT、Audyssey Dynamic EQ®および Audyssey Dynamic Volume®は、Audyssey Laboratories の登録商標です。



Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、D&M Holdings Inc.はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標および商標名は、それぞれの所有者に帰属します。



ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。





本機は DTS, Inc. からのライセンス契約に基づき製造されています。
米国特許第 5,956,674 号、5,974,380 号、6,226,616 号、
6,487,535 号、7,212,872 号、7,333,929 号、7,392,195 号、
7,272,567 号その他、米国内および国外特許もしくは特許出願物。DTS-
HD のロゴ、シンボル、DTS-HD は DTS, Inc. の商標です。DTS, Inc. 製品
にはソフトウェアが含まれています。©DTS, Inc. 著作権所有。



HDMI および HDMI の High-Definition Multimedia Interface およ
び HDMI ロゴは、米国およびその他の国における商標または HDMI
Licensing LLC の商標または登録商標です。



Wi-Fi CERTIFIED ロゴは、Wi-Fi Alliance の登録商標です。
無線 LAN の互換性接続を保証する団体「Wi-Fi Alliance」の相互接続性テ
ストを合格していることを示します。



Adobe、Adobe ロゴ、および Reader は、Adobe Systems
Incorporated (アドビシステムズ社) の米国ならびにその他の国における
登録商標または商標です。



主な仕様

■ オーディオ部

・ パワーアンプ部

定格出力:

フロント:

80W+80W(負荷 8Ω、20Hz~20kHz T.H.D 0.08%)

120W+120W(負荷 6Ω、1kHz T.H.D 0.7%)

センター:

80W(負荷 8Ω、20Hz~20kHz T.H.D 0.08%)

120W(負荷 6Ω、1kHz T.H.D 0.7%)

サラウンド:

80W+80W(負荷 8Ω、20Hz~20kHz T.H.D 0.08%)

120W+120W(負荷 6Ω、1kHz T.H.D 0.7%)

サラウンドバック:

80W+80W(負荷 8Ω、20Hz~20kHz T.H.D 0.08%)

120W+120W(負荷 6Ω、1kHz T.H.D 0.7%)

実用最大出力:

135W+135W(負荷 6Ω、1kHz T.H.D 10% 2チャンネル駆動 JEITA)

175W(負荷 6Ω、1kHz T.H.D 10% 1チャンネル駆動 JEITA)

出力端子:

4~16Ω

・ アナログ部

入力感度/入力インピーダンス:

200mV/47kΩ

周波数特性:

10Hz~100kHz:+1、-3dB(Direct モード時)

S/N 比:

98dB(IHF-A、Direct モード時)



■ ビデオ部

• 標準ビデオ端子

入出力レベル/インピーダンス:	1V _{p-p} , 75Ω
周波数特性:	5Hz~10MHz:0,-3dB

■ チューナー部

[FM]

[AM]

(注: μV at 75 Ω , 0dBf = 1×10^{-15} W)

受信周波数範囲:	76.0 MHz~90.0 MHz	522 kHz~1629 kHz
実用感度:	1.2 μV (12.8dBf)	18 μV
50dB 感度:	モノ: 2.8 μV (20.2dBf)	
S/N 比:	モノ: 70dB (IHF-A, Direct モード時) ステレオ: 67dB (IHF-A, Direct モード時)	
ひずみ率:	モノ: 0.7% (1kHz, 100%変調時) ステレオ: 1.0% (1kHz, 90%変調時)	



■ 無線 LAN 部

ネットワーク種類(無線 LAN 規格):	IEEE 802.11b 準拠 IEEE 802.11g 準拠 (Wi-Fi®準拠)*1
セキュリティ:	WEP 64bit, WEP 128bit WPA/WPA2-PSK(AES) WPA/WPA2-PSK(TKIP)
無線周波数:	2.4GHz
チャンネル数:	1 ~ 13ch

*1 Wi-Fi®準拠とは、無線 LAN の相互接続性を保証する団体「WiFi Alliance」の相互接続性テストに合格していることを示します。



Bluetooth 部

通信システム:	Bluetooth バージョン 2.1+EDR(Enhanced Data Rate)
送信出力	最大 2.5mW (Class2)
最大通信範囲:	見通し線 約 10m*2
周波数帯域:	2.4GHz 帯域
変調方式:	FHSS(周波数ホッピングスペクトラム拡散)
対応プロファイル:	A2DP(Advanced Audio Distribution Profile) 1.2 AVRCP(Audio Video Remote Control Profile) 1.4
対応コーデック:	SBC, AAC
伝送範囲(A2DP):	20Hz~20,000Hz

*2 実際の通信範囲は機器間の障害物、電子レンジの電磁波、静電気、コードレスフォン、受信感度、アンテナの性能、操作システム、アプリケーションソフトウェアなどの影響により異なります。

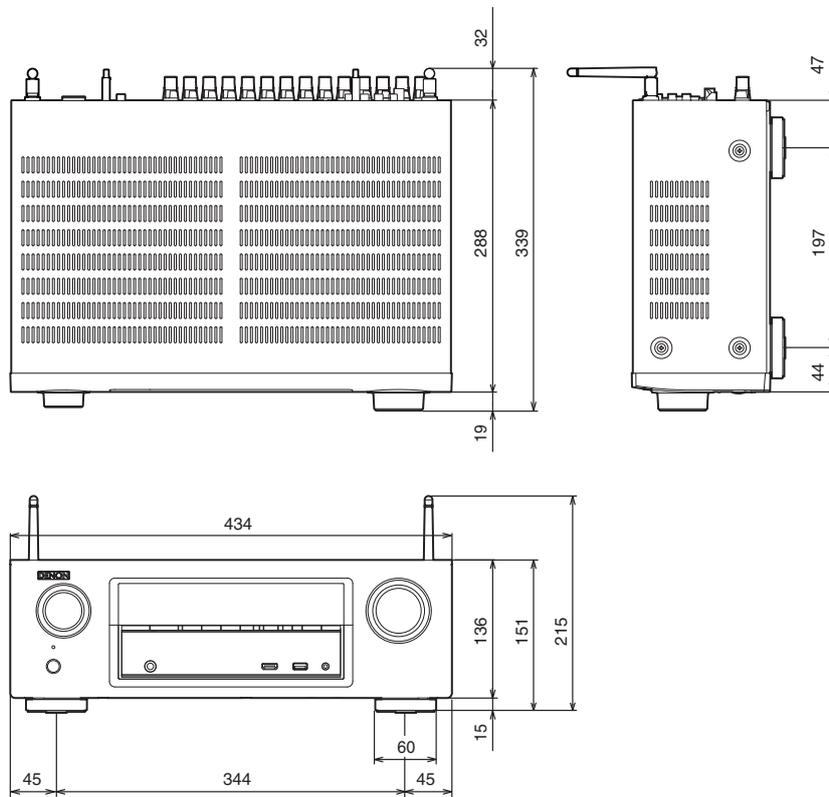
総合

電源:	AC100V、50/60Hz
消費電力:	430W
スタンバイ時の消費電力:	0.1W
CEC スタンバイ時の消費電力:	0.5W
ネットワークスタンバイ時の消費電力:	2.7W

JEITA:(社)電子情報技術産業協会(略称:JEITA)が制定した規格です。
仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。



■ 寸法(単位:mm)



■ 質量:8.6kg

フロントパネル

ディスプレイ

リアパネル

238

リモコン

索引



索引

数字

3D	207
4K	207
5.1 チャンネル	27, 32, 35, 36
7.1 チャンネル	27, 33, 34

A

AirPlay	89
All Zone Stereo	101
Audyssey Dynamic EQ®	221
Audyssey Dynamic Volume®	221
Audyssey MultEQ® XT	221
Audyssey®セットアップ	151
Audyssey の設定	137, 153

B

Bluetooth 機器の再生	66
Bluetooth 機器のペアリング	65, 68

D

DLNA	228
DTS サウンドモード	106, 223
DVD プレーヤーの再生	55
DVD プレーヤーの接続	43

F

Flickr の再生	88
FM/AM アンテナの接続	48
FM/AM 放送を聴く	70

H

HDCP	209
HDMI コントロール	113, 143

I

iPod の再生	56
iPod の接続	46
iPod ブラウズモード	58
iTunes	230

J

JPEG	61, 81
------------	--------

N

NAS の再生	81
---------------	----

P

PCM マルチチャンネルサウンドモード	106
---------------------------	-----

U

USB メモリーの再生	61
USB メモリーの接続	46



W

Wi-Fi の設定 170

Z

ZONE2 の再生 121

ZONE2 の接続 37, 121

い

一般の設定 126, 175

インターネットラジオの再生 77

う

ウェブコントロール 119

え

衛星放送チューナーの接続 44

映像の設定 124, 142

エコモード 175

エラーメッセージ(Audyssey®セットアップ) 159

お

オーディオの設定 124, 130

オートスタンバイ 176

お買い上げ時の設定に戻す 204

お気に入りから削除 95

お気に入りに登録 94

オリジナルサウンドモード 107

音声フォーマット 209, 210, 212, 213

音量を調節する 55

か

各チャンネルの音量の調節 98

乾電池の入れかた 8

く

クイックセレクトプラス機能 116

け

ケーブル 24

ケーブルテレビチューナーの接続 44

ゲーム機の接続 45

こ

故障かな?と思ったら 187

こんなときの解決方法 185

さ

サウンドモード 103, 214, 215

サラウンドバックスピーカー 27

し

新機能の追加 182



す

ステレオサウンドモード	108
スピーカーの接続	25
スピーカーの設定	125, 151
スライドショー	96
スライドショーの再生間隔	97
スリープタイマー	114

せ

セットアップアシスタント	126
セットトップボックスの接続	44

た

ダイレクトサウンドモード	108
--------------------	-----

て

ディスプレイ	16
テキスト検索	95
テレビの接続	39, 40, 41
電源コードの接続	52
電源を入れる	54

と

トーンコントロール	99
ドルビーサウンドモード	105, 221

に

入力信号	218
入力ソースの設定	125, 147
入力ソースを選ぶ	54
入力端子の割り当て	147

ね

ネットワークの設定	125, 169
-----------------	----------

は

バイアンプ接続	35
パソコンの再生	81

ひ

ビデオカメラの接続	45
ビデオセレクト	100

ふ

ファームウェアのアップデート	181
付属品	7
ブルーレイディスクプレーヤーの再生	55
ブルーレイディスクプレーヤーの接続	43
フロントハイトスピーカー	27, 34
フロントパネル	13



ほ

保護回路について 231

み

ミュートイング 55

む

無線 LAN の接続 51, 170

め

メニュー 一覧 124

も

文字入力 128

ゆ

有線 LAN の接続 50, 169

よ

用語／技術の解説 207, 221

ら

ランダム再生 60, 93

り

リアパネル 18

リストアラー 135

リスニングポイント 151

リピート再生 60, 93

リモコン 21



DENON

デノンお客様相談センター

 0570(666)112

【電話番号はお間違えのないようにおかけください。】

IP電話をご利用の場合など、プロバイダーのサービスによってはつながらない場合があります。その場合は 03 (3570) 5138 におかけください。

受付時間 9:30~17:30
(当社休日および祝日を除く、月~金曜日)

〒210-8569 神奈川県川崎市川崎区日進町2番地1 D&M ビル

故障・修理・サービス部品についてのお問い合わせ先(サービスセンター)については、次の当社ホームページでもご確認いただけます。

<http://denon.jp/jp/support/pages/servicecenter.aspx>

株式会社 ディーアンドエムホールディングス

3520 10336 03ADA